

ボートトレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事

設計図

図面リスト		図面リスト	
番号	名称	番号	名称
A-001	特記仕様書（１）	AK-001	基礎伏図（ウズホールWC）
A-002	特記仕様書（２）	AK-002	梁伏図・軸組図（１）（ウズホールWC）
A-003	特記仕様書（３）	AK-003	軸組図（２）・鉄骨架構図（ウズホールWC）
A-004	設計概要・外部仕上表	AK-004	鉄骨構造標準図（7-1）
A-005	附近見取図	AK-005	鉄骨構造標準図（7-2）
A-006	敷地現況図	AK-006	鉄骨構造標準図（7-3）
A-007	建物面面積求積図	AK-007	鉄骨構造標準図（7-4）
A-008	各室面積求積図	AK-008	鉄骨構造標準図（7-5）
A-009	平均地盤面高さ算定図	AK-009	鉄骨構造標準図（7-6）
A-010	法規チェックリスト	AK-010	鉄骨構造標準図（7-7）
A-011	内部仕上表	E-001	電気工事特記仕様書（１）
A-012	ウズホール WC（配置図）	E-002	電気工事特記仕様書（２）
A-013	ウズホール WC（1F平面図）	E-003	屋外電気設備ウズホール、関係者用WC 配置図
A-014	ウズホール WC（立面図1）	E-004	照明器具姿図・盤図
A-015	ウズホール WC（立面図2）	E-005	電灯設備 ウズホールWC（１階平面図）
A-016	ウズホール WC（断面図1）	E-006	コンセント設備 ウズホールWC（１階平面図）
A-017	ウズホール WC（断面図2）	E-007	弱電設備 ウズホールWC（１階平面図）
A-018	ウズホール WC（天井伏図）	E-008	弱電支障配線移設図
A-019	ウズホール WC（屋根伏図）		
A-020	ウズホール WC（展開図1）		
A-021	ウズホール WC（展開図2）		
A-022	ウズホール WC（建具表）		
A-023	ウズホール WC（詳細図１）		
A-024	ウズホール WC（詳細図２）		
A-025	ウズホール WC（サイン図）		
A-026	関係者用WC（平面図）		
A-027	関係者用WC（詳細図1）		
A-028	関係者用WC（詳細図2）		
A-029	仮設計画（案）		

I 工事概要

1 工事名称
ポートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事

2 工事場所
徳島県鳴門市撫養町大桑島

3 用途地域等
準工業地域

4 主要用途

5 敷地面積

6 工事の概要
・既存建築物（ウズホール）のトイレ増築工事（B/F-Jで構造分離）
・既存建築物（ウズホール）と同一敷地内に設けるトイレの新築工事
・上記に関連する電気設備、サイン等の工事

7 別途工事
・「ポートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち管工事」
※監督職員又は工事監理者の指導のもと、上記工事と連携を回り施工すること

8 その他
・2026年2月13日までに施工を完了し、同年2月18日までに芝生の復旧を行うこと。
・本工事で施工するウズホール用トイレは仮使用を予定している。
仮使用認定申請の手続きと、それに係る費用は本工事の請負費用に含む。
・2025年10月14日までは芝生広場の使用に影響のない作業のみ可能。
・レース開催中は来場客の使用を優先すること。
・芝生広場への進入は資材搬入時のみ可能。レース開催中は来場客の使用を優先すること。
搬入時や必要に応じて交通誘導員の配置を行うこと。
・本工事で生じた掘削土は、場内の別のエリアに引きならしする。監督職員又は工事監理者と調整すること。

9 特記仕様書の範囲
特記仕様書は、本特記仕様書のほか、以下の○印のもので構成する。
○ 構造特記仕様書
・ 解体工事特記仕様書
・ 外構工事特記仕様書
○ 電気設備工事特記仕様書
・ 植栽工事特記仕様書
・ 機械設備工事特記仕様書

II 建築工事仕様

1 共通仕様
図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(最新版)」(以下「標準仕様書」という)による。

2 特記仕様
1) 項目は、番号に○印のついたものを適用する。
2) 特記事項は、○印のついたものを適用する。○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。○と※印のついた場合は、共に適用する。
3) 特記事項に記載の()、< >及び[]内の表示番号は、それぞれ「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章

項目

特記事項

1 一般事項

・ 工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合は、工事監理者に報告の上、指示に従うこと。
・ 請負業者は、工事監理者と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。
・ 発注者及び工事監理者用に、それぞれ設計図の二つ折り製本を作成する部数は指示による

2 適用基準等

・ 入札要綱・特記仕様書による
・
・
・

1 電気保安技術者

⑥ 建築材料等

適用する ※ 適用しない

⑦ 室内の空気中の化学物質濃度の測定

⑧ 特別な材料の工法

⑨ 建築基準法による風圧力等の指定

⑩ 設計GL

⑪ 技能士

⑥ 建築材料等

材料の品質等 (1.4.2)
※ 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督職員の承諾を受ける。
特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの、又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。

環境への配慮 (1.4.1)
※ 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては、揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。

※ ホルムアルデヒド仕様
使用する材料のホルムアルデヒド仕様は以下のとおりとする。
・ 普通合板、複合フローリング等 : 日本農林規格 (JAS) F☆☆☆☆
・ パーティクルボード、MDF (中質繊維板) : 日本農林規格 (JAS) F☆☆☆☆
・ クロス類 : 日本農林規格 (JAS) F☆☆☆☆
・ 内装工事に使用する塗料及び接着剤 : 化学物質等製品安全データシート (MSDS) 等にホルマリン不使用が明示されたもの

※ ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定 (1.5.9)
試料採取及び測定は、厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法及び測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか、拡散方式ではサンプラー製造所ので定める仕様により行う。

測定対象物質
※ ホルムアルデヒド (濃度計値 100 μg/m³・0.08ppm)
※ スチレン (濃度計値 220 μg/m³・0.05ppm)
※ トルエン (濃度計値 260 μg/m³・0.07ppm)
※ エチルベンゼン (濃度計値 3,800 μg/m³・0.88ppm)
※ キシレン (濃度計値 870 μg/m³・0.20ppm)

測定する室等：(新事務所棟 (各階2カ所))

採取方法：吸引方式又は拡散方式とし、拡散方式では8時間採取する。

測定結果等報告書の提出
次の事項を記載した報告書を2部提出する。
測定結果
・ 試料採取時の状況 [気温・湿度 (室外・室内)、天候、風の状況、日射進入状況、測定年月日・時間、窓の開閉状況、機械換気量、工事完成時から測定日までの日数]
・ 試料採取方法、測定方法、使用した測定機器

測定対象物質が計値を超える濃度で検出された場合は、引渡は受けない。

・ 総揮発性有機化合物の測定
測定方法、測定物質及び測定カ所等については、別図に定める総揮発性有機化合物測定仕様書による。

※ 室内VOC濃度の測定結果に関する書面の当該施設への掲示については、施設管理者に依頼する。

「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。

1 内装工事

植栽工事

技能士を適用しないとした職種でも、1級、2級又は単一技能士の配置に努めること。

⑫ 完成図等

13 完成写真

⑭ 設備工事との取合い

⑮ 火災保険等

16 住宅瑕疵担保責任

2 仮囲い

② 危害防止

③ 交通誘導員

4 工事監理者事務所

⑤ 工事表示板

6 事業コスト表示板

⑦ 工事用水

⑧ 工事用電力

⑨ 工事用通路

⑩ 足場等

11 その他の仮設

3 ① 埋戻し及び盛土の種類

② 建設発生土の処理

③ 山留め

4 1 既存コンクリート杭地業

内装工事

・ 内装仕上施工

・ プラスチック系床仕上工作業

・ 鋼製下地工作業

・ ボード仕上工作業

・ カーテン工作業

植栽工事

・ 造園 (造園工作業)

技能士を適用しないとした職種でも、1級、2級又は単一技能士の配置に努めること。

・ 白焼二つ折製本 (A1版、黒表紙金文字入) 2部

・ 白焼二つ折製本 (A2版、黒表紙金文字入) 部

・ 白焼二つ折製本 (A3版、黒表紙金文字入) 3部

・ 電子データ (JWW、DXF、PDF) CD-R 3部

製本、電子データ共すべての図面 (設計図、施工図、製作図) を綴じること。
サイン製作図のデータはAI及びPDFを挿入のこと。

※ 作成する

分類

※ カラー

・ 白黒

サイズ

※ L

・ 2L

○ 六切り

撮影箇所数

・ 箇所

枚 (程度)

○ 外観4方向 (昼・夜)

内観 (各室)

部数

※ 1

○ 3

提出様式

※ 工用アルバムA4版

ポケット式程度

・ フリーアルバム (台紙寸法323*270程度)

○ カラー文字入れ (印刷)

・ 作成しない

施工範囲

各工事の区分表による。

施工図

設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。

工事目的物及び工事材料等について、次により保険に付す。

保険の種類

※ 火災保険

※ 建設工事保険

保険期間

※ 工事着手から工事目的物引き渡しまで

住宅瑕疵担保履行法に基づく保険の加入又は保証金の供託の義務付け

・ あり (新築住宅の場合)

・ なし (新築住宅以外の場合)

① 鉄筋の種類

② 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強

6 柱の帯筋

⑦ はり貫通孔の補強

8 圧接完了後の抜取試験

6 ① 設計基準強度

② レディーミクスコンクリート

③ スランブ

④ 打放し仕上げの種類

⑤ セメントの種類

③ 鉄筋の種類

2 溶接金網

③ 鉄筋の継手

4 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ

5 杭頭部の補強</

6

⑥ 型枠

(6.9.3)

タイル工事

タイル工事

タイル工事

7 軽量コンクリート

8 寒中コンクリート

9 無筋コンクリート

10 流動化コンクリート

7 鉄骨

2 施工管理技術者

③ 鋼材の種別

④ 高力ボルト

5 溶接部の試験

⑥ 錆止め塗装

⑦ 耐火被覆

⑧ アンカーボルトの保持及び埋込み工法

⑨ 柱底均しモルタル

10 溶融亜鉛めっき

9 防水工

5 防水保証

せき板の種類
※ 合板
・ 床型枠用鋼製デッキプレート
・ 断熱材兼用型枠

板厚 (mm)
※ 12

適用箇所

MCR工法用シート ※ 適用しない ・ 適用する

ひび割れ誘発目地
目地寸法 ※ 図示
位置 ※ 図示

(6.11.1) (表6.11.1)

種別

適用箇所

所要気乾単位容積質量 (t/m3)

適用期間 コンクリート圧縮強度が5N/mm2に達するまで行うこと。(6.12.1)

適用箇所は6.14.1による他、下記による。(6.14.1)

適用箇所

(6.17.1) (6.17.3)

種別

ベースコンクリートのスラップ (cm)

流動化コンクリートのスラップ (cm)

使用箇所

普通コンクリート ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21

※ 下記のグレード以上の性能評価機関の性能評価を受けて、国土交通省の認定を受けた工場
・ S ・ H (○) M ・ R ・ J
○ 本物件と同等規模構造の施工実績を有している工場で、監督職員の承諾する工場
・ 適用する ※ 適用しない

(7.1.3) (7.1.4)

(7.2.1) (表7.2.1)

材質

規格

○ SS400 (○) SSC400 ・ STK400 (○) STKR400
・ SN400B, C (○) SN490B, C ・ SM400 ・ SM490

※ トルシア形高力ボルト セットの種類 ※ 2種 (S10T) ・
・ J I S 形高力ボルト セットの種類 ※ 2種 (S10T) ・
・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト セットの種類 ※ 1種 (F8T相当) ・

(7.2.2)

完全溶込溶接部の試験は超音波探傷試験とし、下表による。(7.6.11)

溶接の区分

AQIL(%)

検査水準

備考

工場溶接 ・ 2.5 ※ 4.0 ※ 6 ・

現場溶接

※ 適用する (標仕18章3節による) (7.8.3) (7.8.4) (表18.3.1)
・ 適用しない

(7.9.2) (7.9.4~7)

種別

材料及び工法製造所

備考

・ ラス張モルタル 標仕15章2節による

○ 耐火材吹付け 建築基準法に基づく指定 ※ 半乾式 ・ 湿式
・ 耐火板張り 又は認定を受けたもの

・ 耐火材巻付け

(7.2.4) (7.10.3) (表7.10.1)

種別

適用箇所

○ A種

※ B種

・ C種

(7.2.9) (7.10.3) (表7.10.2)

種別

適用箇所

柱底均しモルタル

○ A種

※ B種

※ 無収縮モルタル 7.2.9(a)

(7.12.3) (14.2.3)

亜鉛メッキ

適用箇所

※ A種

④ シーリング

※ 被着体との組み合わせは (標仕 表9.6.1) による。

アスファルト防水、改質アスファルトシート防水及び合成高分子系ルーフィングシート防水の保証期間は、引渡し日より10年間とし、施工業者との連名の上保証書を提出のこと。
塗膜防水は、メーカー・防水業者が通常定めている期間とすること。

① タイル

② タイル下地コンクリート

3 陶磁器質タイル張り

② 折板葺

④ とい

タイルの種類

(11.2.1)

施工箇所

形状寸法 (mm)

磁器

せっき

陶器

無釉

施釉

有

無

標準

注文

外部床 600*600

トイレ床 600*600

トイレ汚垂石 1,600*600

タイルの見本焼き ※ 行わない ・ 行う (11.2.1)

後張りタイル下地コンクリート素地面の処理
・ 行う (下記のいずれかとする) ○ 行わない

素地表面処理の工法

下地モルタル

適用箇所

MCR工法 標仕 15.2.5 (C)

MCR工法 ポリマーセメントモルタル

目荒し工法 (高圧水洗) 標仕 15.2.5 (C)

目荒し工法 (高圧水洗) ポリマーセメントモルタル

MCR工法は、せき板面にMCR工法用シート張りとし、標仕6.9.3(e)による。
目荒し工法の高圧水洗は標仕15.2.4 (C)による。
ポリマーセメントモルタルの調査は標仕15.2.3(b)による。

(表11.1.2)

適用

引張り接着強度 (単位: N/mm2)

陶磁器質タイル張りの場合 0.4以上

陶磁器質タイル型枠先付けの場合 0.6以上

内装タイルの工法 (表11.3.2)

※ 改良積上げ張り 施工箇所 ()
※ 接着剤張り 施工箇所 ()

外装タイルの工法 (表11.3.2)

※ 密着張り 施工箇所 ()
・ 改良圧着張り 施工箇所 ()

ユニットタイルの後張り工法 (表11.3.2)
※ マスク張り

(13.3.2) (表13.2.1)

材 種

厚さ

山高及びピッチの区分

断熱材

耐火性能

・ JIS G 3312の屋根用規格品 (カラー亜鉛鉄板) ※ 0.8 ・ 0920 (○) 有 (100 mm) (○) 有 (30分耐火)
・ JIS G 3322の屋根用規格品 (カラーガルバリウム鋼板) ・ 1.0 ・ 1525 ・ 無
・ JIS K 6744のSGのA種規格品 (ポリ塩化ビニル被覆) ・ 1730
・ フッ素樹脂塗装鋼板 ・ 1750

○ 形式 (・ 重ね形 ○ はぜ縫め形) ○ 15 年保証
○ 軒先面戸 (カラーガルバリウム鋼板 t=0.8)

といの材質 (13.5.2) (表13.5.1) (表13.5.4) (表13.5.5)

材種

防露

配管用鋼管 (SGP)

硬質塩化ビニル管 (VU) ※ (表13.5.5)により行う ○ 行わない

鋼管製といの防露巻き工法
※ 標仕 表13.5.5による

樋受石 (材質 規格)
※ 第一榫まで接続
※ 樋は全てVU (カラー) とする

⑤ 軽量鉄骨天井下地

⑨ 手すり及びタラップ

1 セルフレベリング材

2 仕上塗材仕上

③ ロックウール吹付け (耐火被覆は7章による)

① 一般事項

野縁などの種類
屋内 ※ 19型 ・ 25型
屋外 ・ 19型 ※ 25型

屋外軒裏及びピロティー天井の補強 (※ 図示) (14.4.3)
床版の断熱材打込部分は断熱用インサートを使用する。
耐震性を考慮した補強を行う室 ()
補強方法 ※ 図示

(14.4.2) (表14.4.1)

(14.8.2) (14.8.3)

材料の種別

表面処理の種別

手すり ・ ステンレス304 HL仕上程度
・ 鋼製 (○) アルミ製 亜鉛めっきの場合表14.2.2のC種

タラップ ・ ステンレス304 HL仕上程度
・ 鋼製 ・ アルミ製 亜鉛めっきの場合表14.2.2のC種

(15.4.2)

・ せっこう系 ・ セメント系

(15.5.2) (表15.5.1~2)

規格名称

種類(呼び名)

仕上の形状

工 法

上塗り材

・ 薄付け 仕上塗材 ・ 外装薄塗材 E ・ 内装薄塗材 E ・ 砂壁状 聚楽 ・ ゆず肌

・ 厚付け 仕上塗材 ・ 外装厚塗材 C ・ 内装厚塗材 C ・ 外装厚塗材 E ・

・ 複層仕上塗材 ・ 複層塗材 CE ※ 複層塗材 E ・ 複層塗材 RS ・ 複層塗材 RE ・ 複層塗材 Si ・ 防水形 複層塗材 E ・ 防水形 複層塗材 RS

・ 軽量骨材 仕上塗材 ・ 吹付用軽量塗材 ・ こて塗用 軽量塗材

・ 吹付け ・ こて塗り

溶剤 ※ 水系 ・ 溶剤系
樹脂 ※ つやあり ・ メタリック
※ アクリル系 ・ シリカ系 ・ ポリウレタン系 ・ アクリル ・ シリコン系 ・ フッ素系

複装仕上塗材の耐候性 ・ 1種 ・ 2種 ※ 3種

吹付け厚さ (mm) ※ 10 ・ 25 (○) 30 ・ 45 (15.7.3)

防火戸の指定 (16.1.3)
・ 適用する (適用範囲は図示及び建具表による)
※ 建築基準法第2条第九号の二ロの規定に定められたもの
※ 認定を受けたもの (監督員の承認を受ける)
※ 適用しない

防火戸との連動 (16.1.3)
適用する (適用箇所は建具表及び図示による)
・ 自動閉鎖機構 ・ ヒューズ装置 ・ 熱感知器 ・ 煙感知器
※ 適用しない

見本の作成等 (16.1.4)
製 作 ※ 行わない ・ 行う (建具表による)
仮 組 ※ 行わない ・ 行う (建具表による)

防犯建物部品 ※ 使用しない ・ 使用する (建具表による) (16.1.6)

② アルミニウム製建具

③ 網戸

④ 鋼製建具

⑤ 鋼製軽量建具

⑧ 建具用金物

外部に面する建具性能等級等 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1) (表14.2.1)

種別

耐風圧性

気密性

水密性

枠の見込み寸法 (mm)

・ A種 ・ S-4 ・ A-3 ・ W-4 70 (引違い、片引き、上げ下げ窓で、複層ガラスの場合では性能が確保できない場合は100)

○ B種 ・ S-5

・ C種 ・ S-6 ・ A-4 ・ W-5 100

※ 適用箇所は図示による

表面処理: 外部に面する建具 ※ B-1種 (○) B-2種
内部建具 ※ C-1種 ・ C-2種

B-2種、C-2種の場合 (○) ブロンズカラー (※ 標準色 ・ 濃色)
・ ステンカラー

防音ドアセット、防音サッシ ・ 適用する (適用範囲は図示による)
※ 適用しない
適用する場合の遮音性の等級 ・ T-1 ・ T-2 (○) T-3 (○) T-4

断熱ドアセット、断熱サッシ ・ 適用する (適用範囲は図示による)
※ 適用しない
適用する場合の断熱性の等級 ・ H-2 (○) H-3 (○) H-4

耐震ドアセット、耐震サッシ ・ 適用する (適用範囲は図示による)
※ 適用しない
適用する場合の面内変形追随性の等級 ・ D-1 ・ D-2

使用方法による区分 (16.2.3)
※ 外面納まりの可動式
・ 内部納まりの開き式

防虫網 (線径0.25mm 網目16-18メッシュ)
・ ガラス繊維入り合成樹脂 ※ ステンレス (SUS 316) ・ 合成樹脂
防鳥網
※ ステンレス (SUS304) 線径1.5mm ピッチ15mm

簡易気密 (SAT) 型ドアセット (16.3.2) (16.3.4) (16.3.6) (表16.3.1) (表16.3.2)
※ 使用する (適用箇所は図示とする)
気密性 ※ A-3 (○) A-4
水密性 ※ W-1 (○) W-5
・ 使用しない
外部に面する建具の耐風圧性 ※ S-4 (○) S-5

建具寸法が「標準仕様書」16.3.4(a)を超える又は図示された建具に使用する鋼板類の厚さ

区分

使用箇所

厚さ (mm)

窓 枠類 枠、方立、無目 表16.3.2に同じ

出入口 枠類 一般部分 2.3

戸 中骨 2.3

上記以外 表16.3.2に同じ

標準型鋼製建具 ※ 使用する ・ 使用しない

簡易気密 (SAT) 型ドアセット (16.4.2~4) (表16.4.1)
※ 使用する (適用箇所は図示とする)
気密性 ※ A-3
・ 使用しない

戸の鋼板 ※ 表面処理亜鉛めっき鋼板
・ ビニル被覆鋼板
・ カラー鋼板

標準型鋼製軽量建具 ※ 使用する ・ 使用しない

標準型鋼製軽量建具の小窓枠、がらり ※ 鋼製 ・ アルミ製

(16.7.2) (表16.7.1)

金物の種類

型式

製造所

モノロック

本締り付きモノロック

シリンドー箱錠

シリンドー本締り錠

ドアクローザー

フロアヒンジ

ヒンジクローザー

ピボットヒンジ

レバーハンドル

ステンレスレバー長さ L=130程度

錠前類と同一製造所とする

標準型鋼製建具及び標準型軽量鋼製建具 (準標準型共) のドアクローザー、シリンドー箱錠は公共工事標準型とする。

マスターキーの作成 (○) 要 ・ 不要 (16.7.4)
・ 不要 (既存マスターキーで施解錠可能とする)
マスターキー区分は打合せによる

訂正

年 月 日

株式会社社デザイン一級建築士事務所
一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏
#連絡先 電話番号 #連絡先 Fax

作 成 承 認

発 行

工事名称
ポートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事

図面名称
特記仕様書 (2)

縮 尺 :
A1: A3の200%
A3: 1:1

設計NO

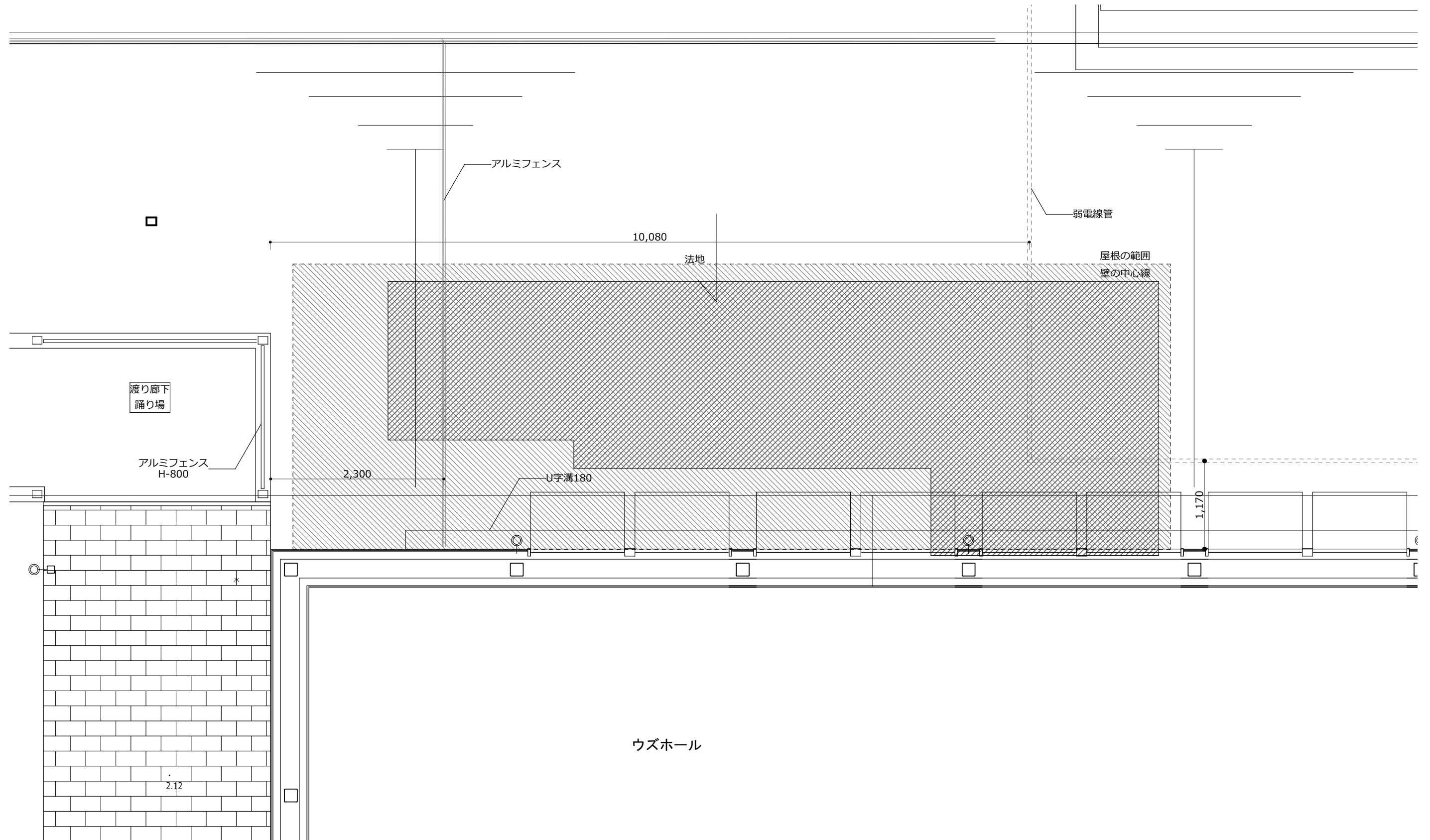
図面NO
A-002

[illegible]

ウズホール用トイレ整備

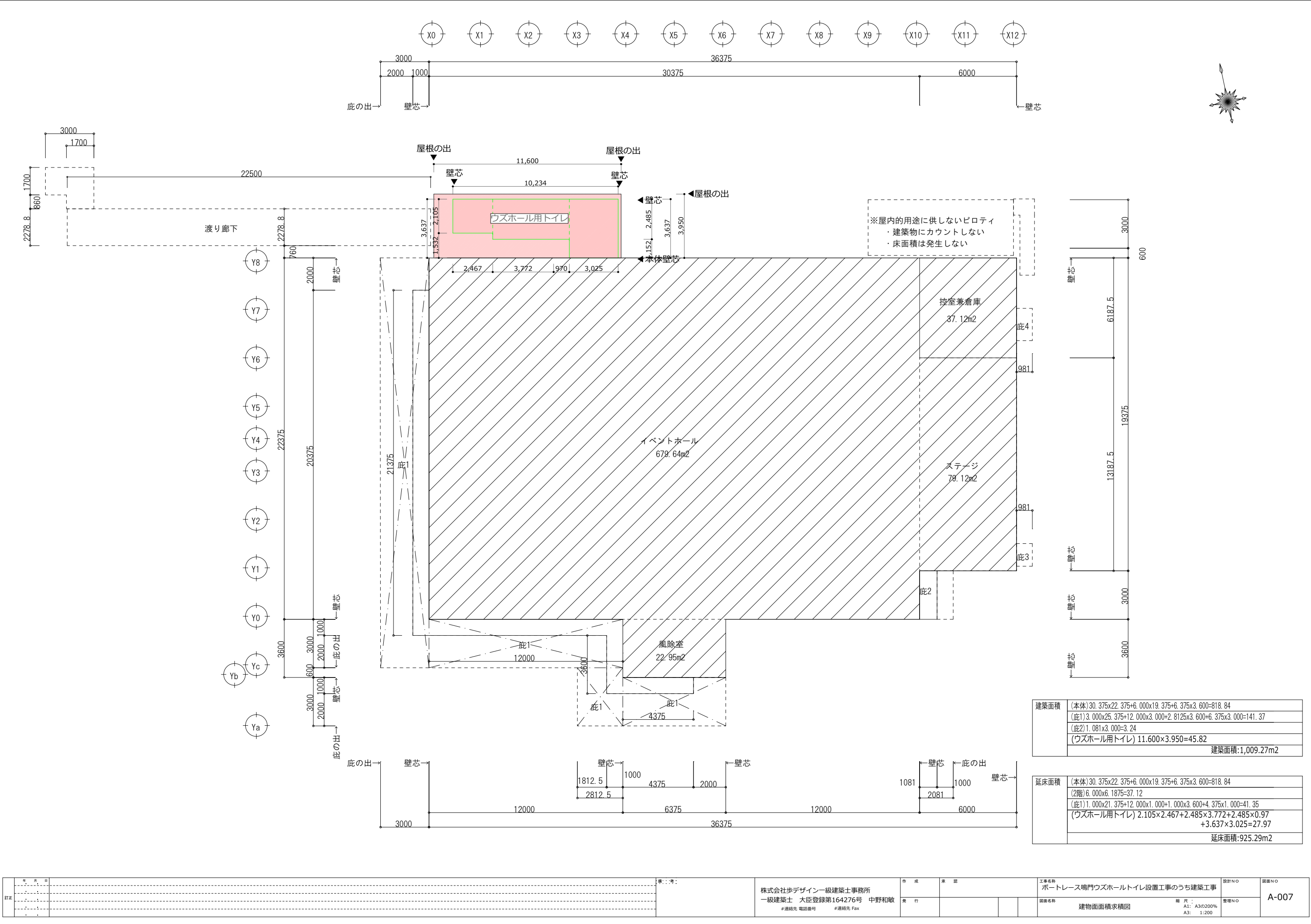
エディウィン鳴門

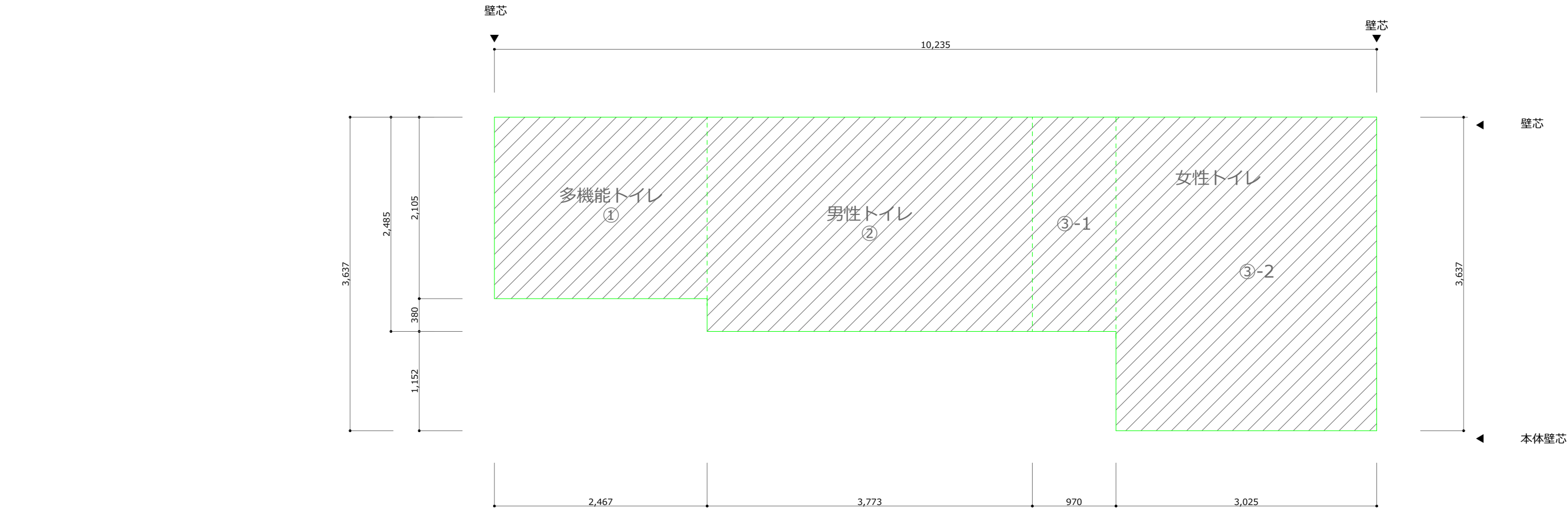
訂正	年	月	日				備考				工事名称 株式会社歩デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax		作 成	承 認	工事名称 ポートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事		設計NO	図面NO A-005
											発 行				図面名称 附近見取図	縮 尺 A1: A3/200% A31:2000, 1:2.50	整理NO	



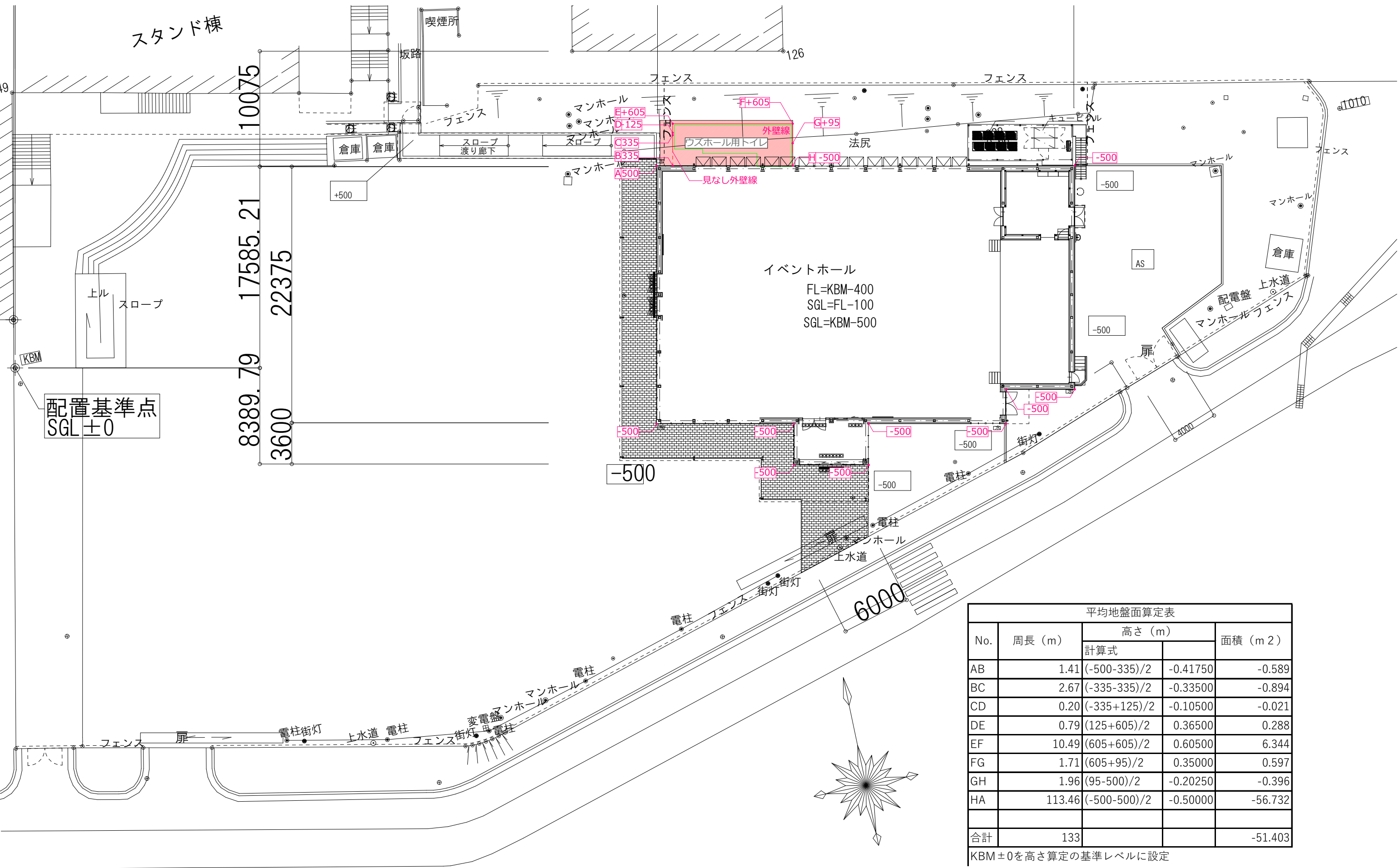
2.12

訂正	年	月	日	備考：特：	株式会社サデザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax	作 成 承 認			工事名称 ポर्टレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事	設計NO	図面NO A-006
						発 行			図面名称 敷地現況図	縮 尺： A1: A3/2/200% A3: 1:50	





記号	室名	計算式 (m)	計 (m2)	改め (m2)
①	多機能トイレ	2.105×2.467		5.19
②	男性トイレ	2.485×3.772		9.37
③-1	女性トイレ	2.485×0.97	2.41	
③-2		3.637×3.025	11.00	13.41
延床面積				27.97



平均地盤面算定表				
No.	周長 (m)	高さ (m)		面積 (m ²)
		計算式		
AB	1.41	(-500-335)/2	-0.41750	-0.589
BC	2.67	(-335-335)/2	-0.33500	-0.894
CD	0.20	(-335+125)/2	-0.10500	-0.021
DE	0.79	(125+605)/2	0.36500	0.288
EF	10.49	(605+605)/2	0.60500	6.344
FG	1.71	(605+95)/2	0.35000	0.597
GH	1.96	(95-500)/2	-0.20250	-0.396
HA	113.46	(-500-500)/2	-0.50000	-56.732
合計	133			-51.403

KBM±0を高さ算定の基準レベルに設定

-51.403 ÷ 133 = -0.38742 改め

ゆえに、平均地盤面の高さは、KBM-387

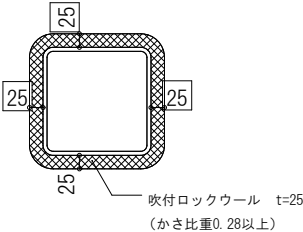
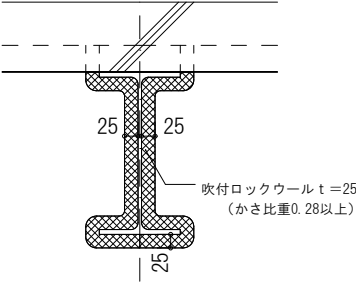
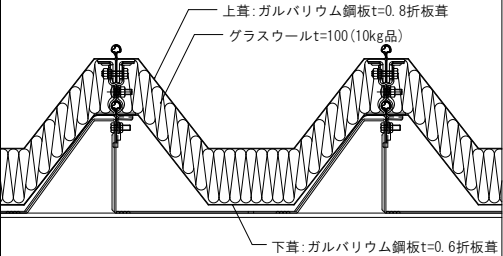
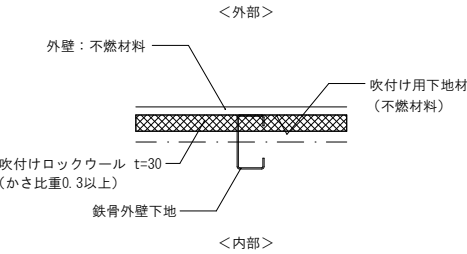
建築基準法 採光、換気、排煙面積算定表																			
階	室名	A (㎡)	居室/室	採光							換気					排煙			
				A/20	A/10	A/7	A/5	有効面積 (詳細は建具表による)	採光補正係数	L (m2)	判定	A/20	有効面積 (詳細は換気計算表による)	V (m2)	判定	A/50	有効面積 (詳細は建具表による)	S (m2)	判定
1	多機能トイレ	5.19	室														H12建設省告示第1436号四-へ-(1)により免除		
	男性トイレ	9.37	室														別表による。		
	女性トイレ	13.41	室														別表による。		
	特記																		

消防火 無窓階判定
■有窓対象開口面積（詳細は建具表参照）：(AW-6)6.938+(AW-7)9.760+(SD-6)1.785+(SH-1)9.568 = 28.051m2
■床面積：614.78 m2 614.78 m2 × 1/30 = 20.49 m2 ≤ 28.051m2 ∴有窓階

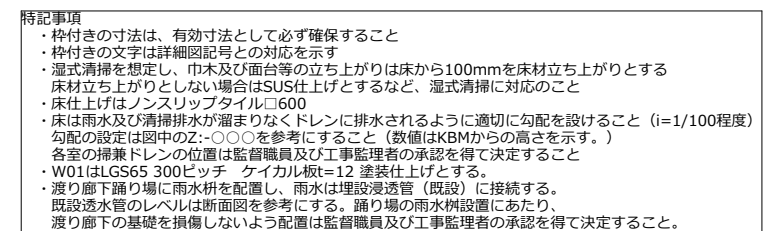
徳島県ユニバーサルデザインによるまちづくりの推進に関する条例（詳細は協議書を確認のこと）
■ 廊下 有効幅135cm以上（地上出入口から室出入口まで1以上） → 有効135cm以上 視覚障害者誘導線状ブロックの設置 → 常時勤務する者による対応
■ 便所 出入口 有効幅80cm以上 → 有効80cm以上 洗面の水栓 レバー式、光感知式等、操作が容易なもの（1以上） → 自動水栓 男性用小便器は床置き式で手すりを設置（1以上） → 低リップ型+手摺

特記事項
・内容に変更が生じる場合は、工事監理者・関係諸官庁・消防・確認審査機関の確認を事前に得ること。

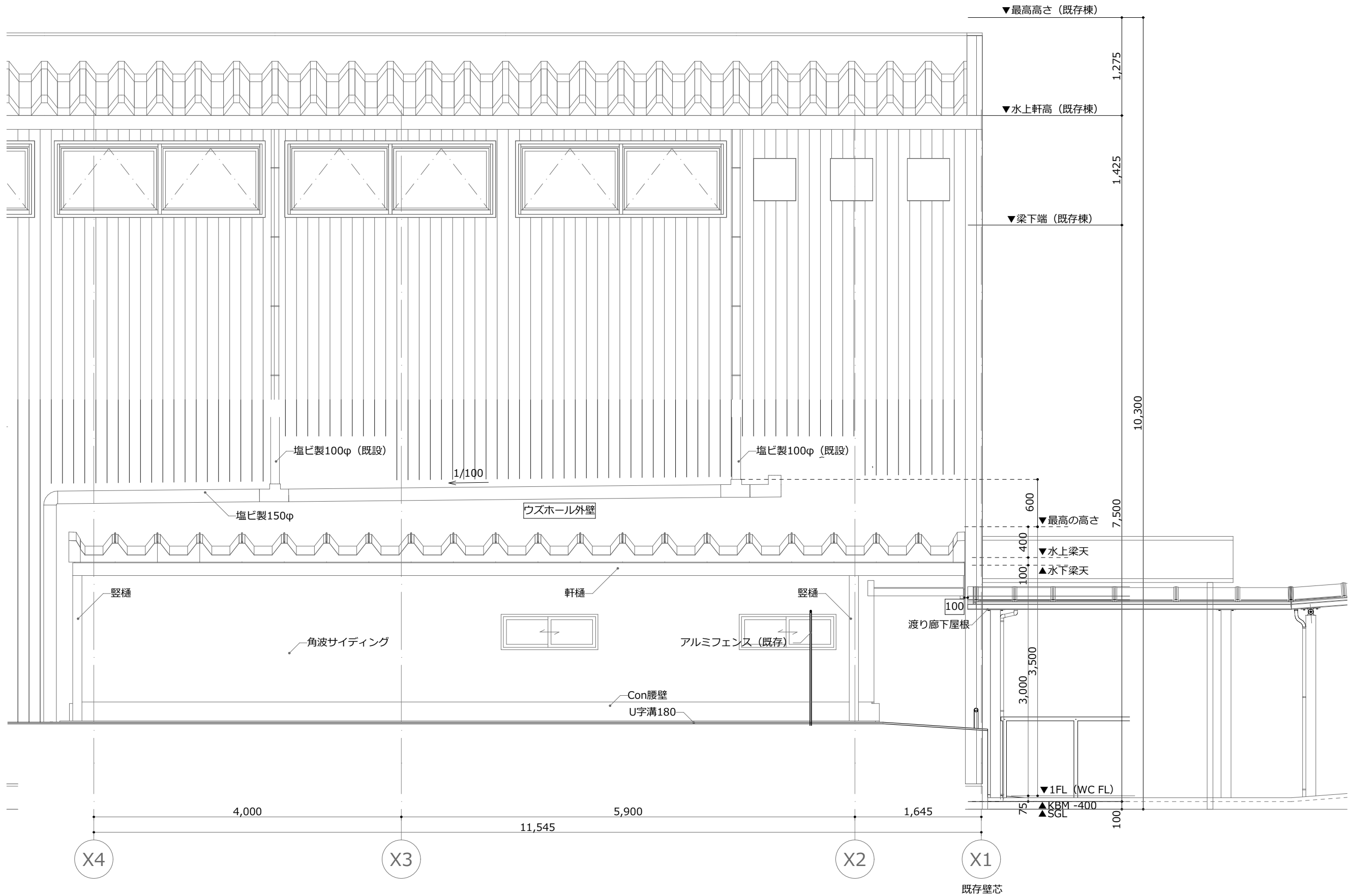
	男性トイレ 室		女性トイレ 室		男性トイレ+女性トイレ室
A	9.37	A	13.41	A	22.78
L	-	L	-	L	-
V	機械換気	V	機械換気	V	機械換気
S	自然排煙 必要排煙面積 ※ 9.73m2/50=0.187m2 有効排煙面積 SF1 0.80*0.5=0.4m2 0.187m2<0.4m2 ∴OK	S	自然排煙 必要排煙面積 ※ 13.41m2/50=0.268m2 有効排煙面積 SF1 0.80*0.5=0.4m2 0.268m2<0.4m2 ∴OK	S	自然排煙 必要排煙面積 ※ 22.78m2/50=0.456m2 有効排煙面積 通路 1.0*0.5=0.50m2 0.456m2<0.5m2 ∴OK 最終排煙口 1.479*0.5=0.739m2 0.456m2<0.739m2 ∴OK

外壁	1時間耐火【FP060NE-9305】	柱	1時間耐火【FP060CN-9460】	梁-01		梁-02	1時間耐火【FP060BM-9408】	屋根	30分耐火【FP030RF-0096】
非耐力				※「H12 建設省告示第 1399号 耐火構造の構造方法を定める件、第4 三項へ」を適用する。 床から梁下端までの高さが4m以上の鉄骨造の小屋根で、その直下に天井がないもの又は直下に不燃材料又は準不燃材料で作られた天井があるもの」とあり、1時間耐火の場合に限り梁の耐火被覆は不要。					
		※鉄骨下地外壁(胴縁)も被覆すること。							

訂正	年	月	日	備考	株式会社歩デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax	作成	承認			工事名称 ポータルース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事	設計NO	図面NO A-011
						発行				図面名称 内部仕上表	縮 尺 : A1: A3の200% A3: 1:1.05	



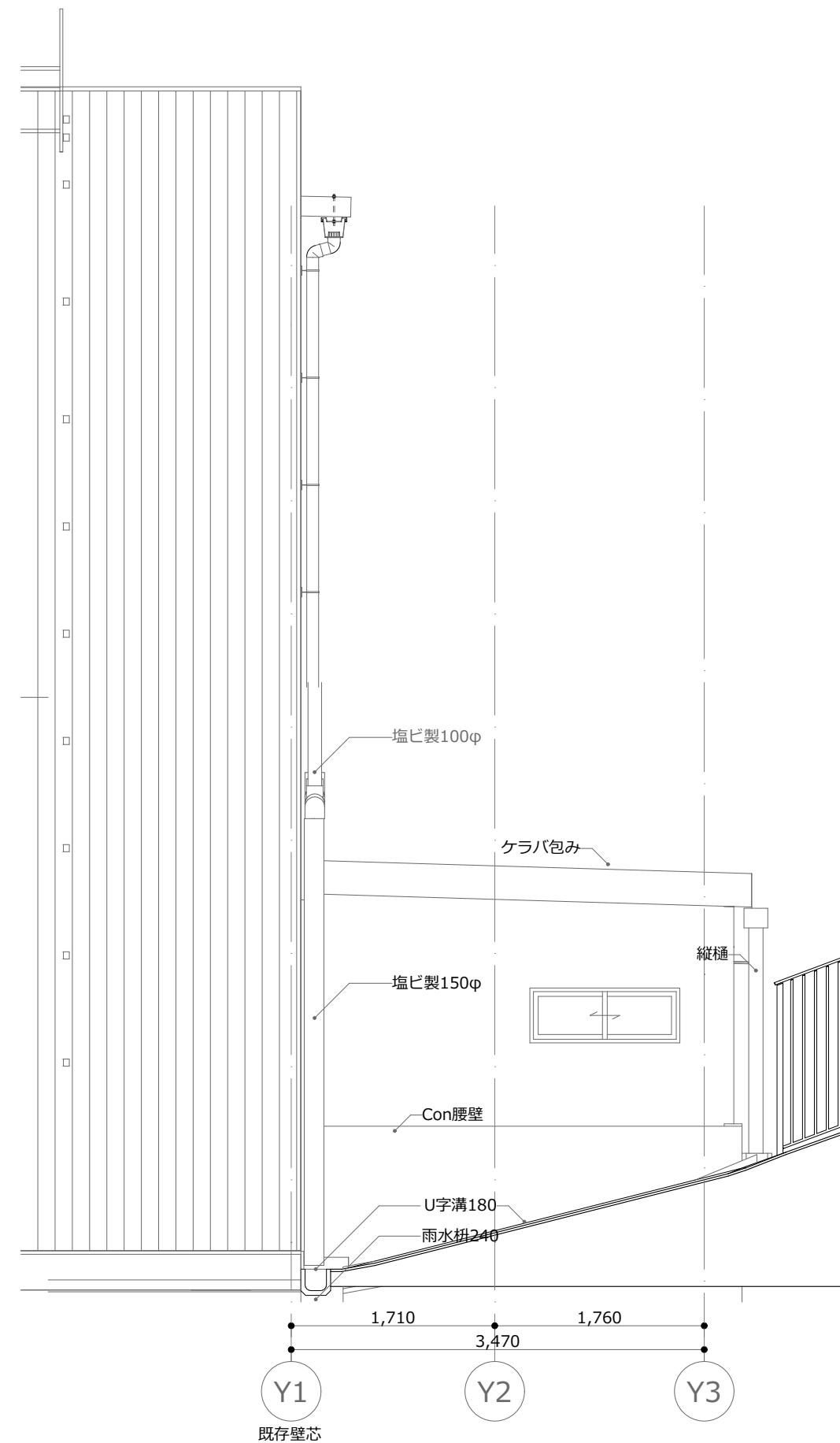
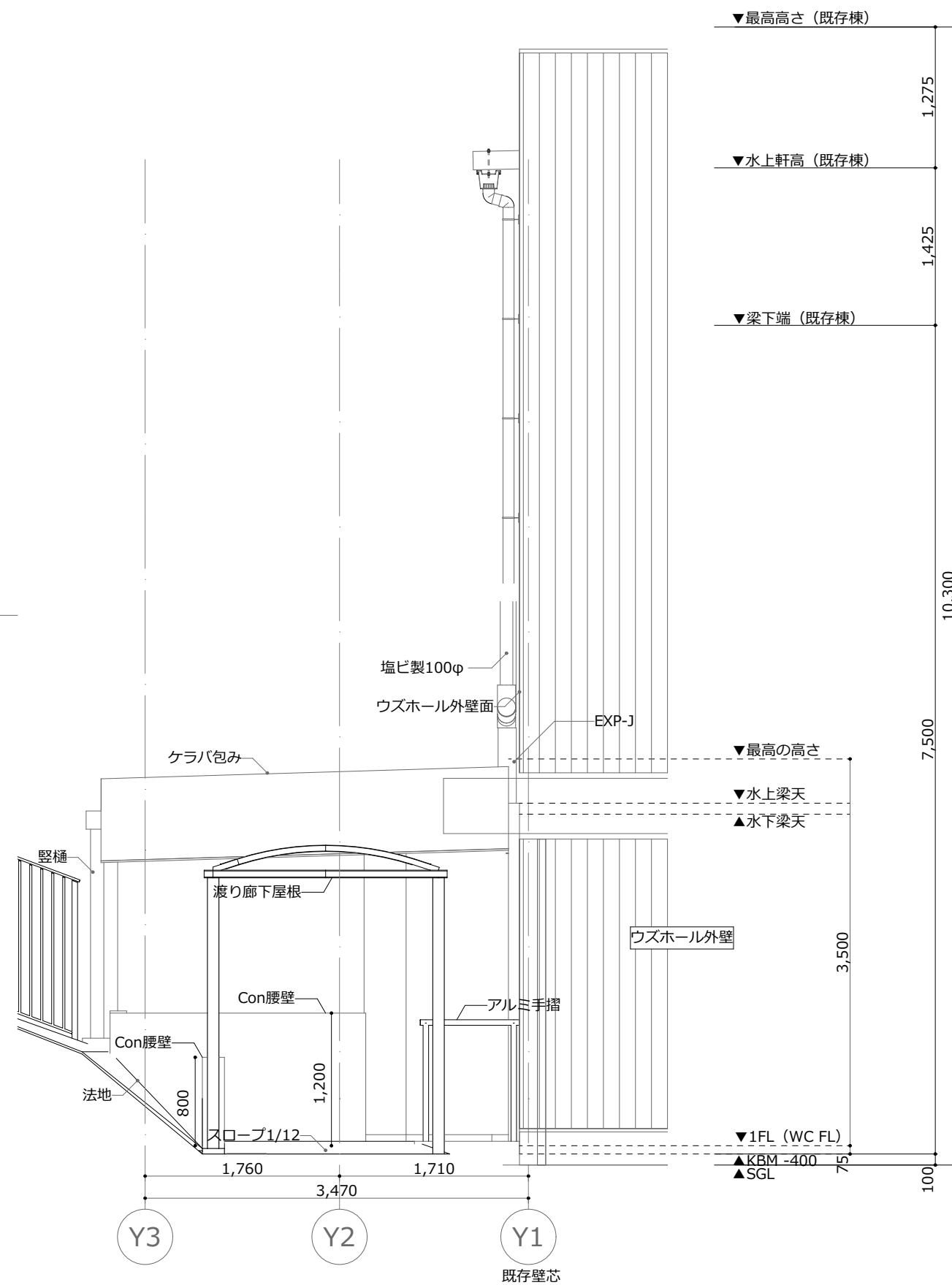
訂正	年	月	日	備考	株式会社デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax	作成	承認	工事名称 ポートレース鳴門ズホールトイレ設置工事のうち建築工事	設計NO	図面NO A-013
						発行			図面名称 ズスホール WC (1F平面図)	



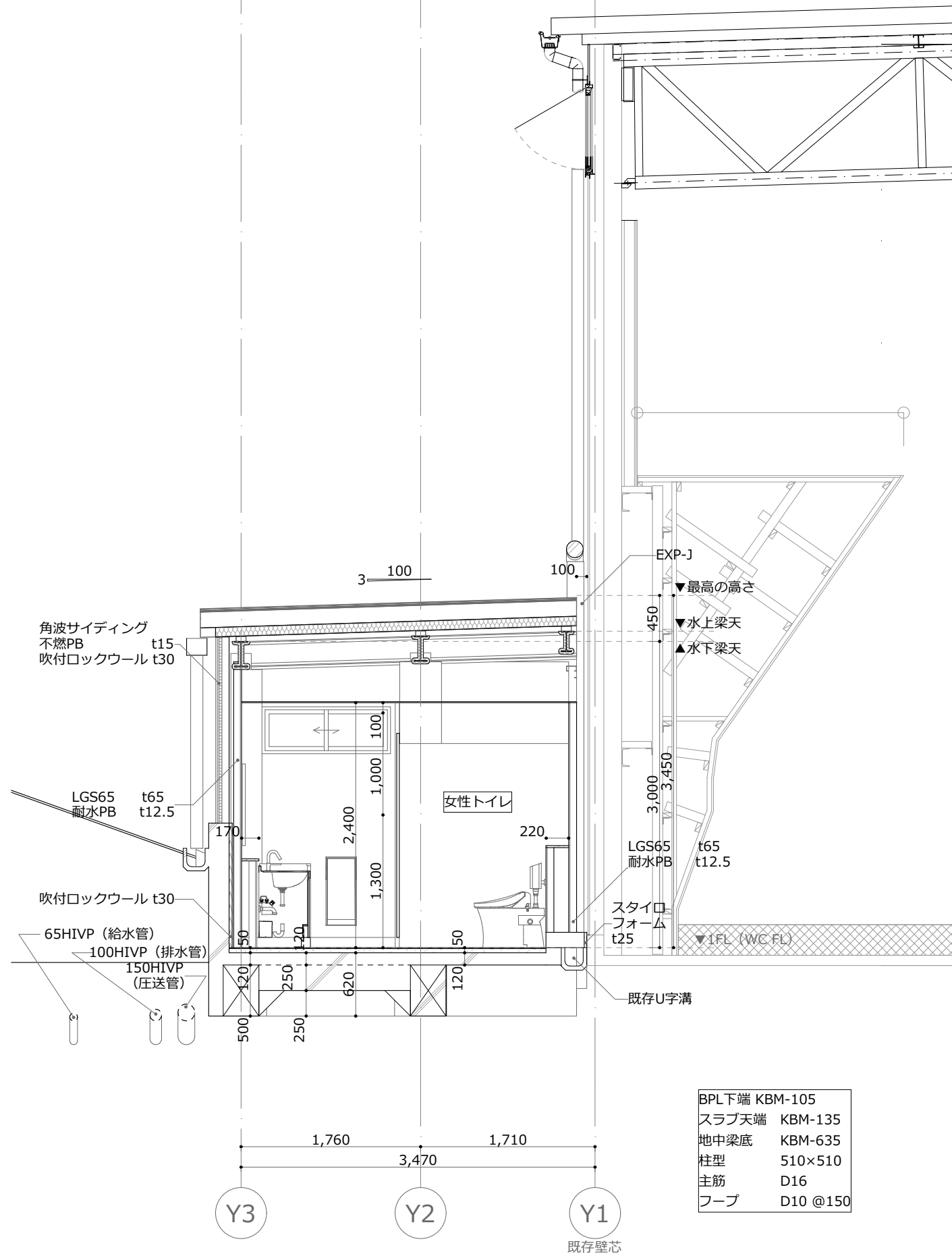
北側立面図 1:50

特記事項
・枠付きの寸法は、有効寸法として必ず確保すること
・枠付きの文字は詳細図記号との対応を示す

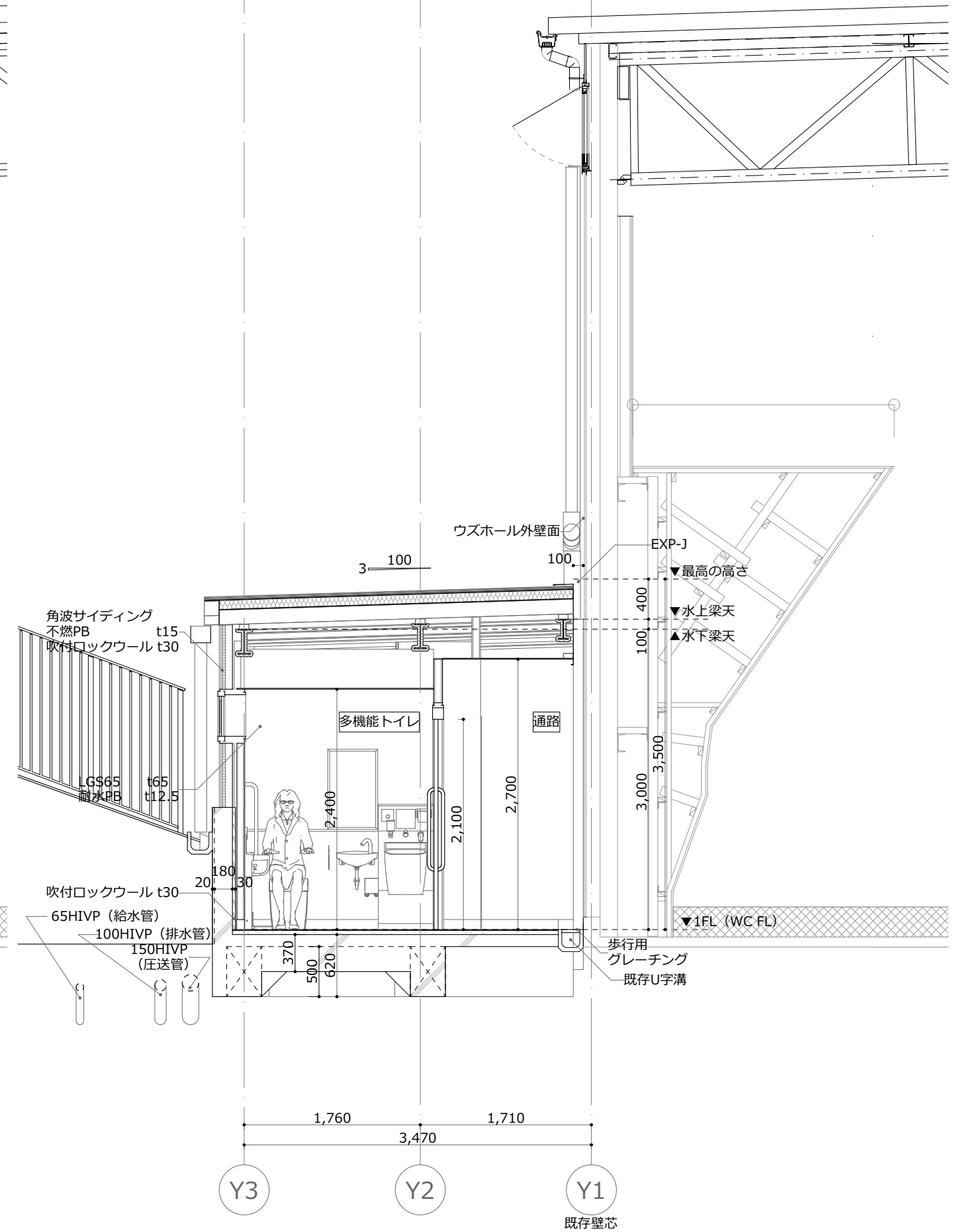
訂正	年	月	日	備考	株式会社歩デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax	作成者	承認者	工事名称 ポートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事	図面NO A-014	設計NO	整理NO
					ウズホール WC (立面図1)		縮 尺 : A1: A3の200% A3: 1:50				



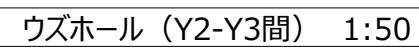
訂正	年	月	日				備	考				株式会社デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax	作	成	承	認	工事名称	ポータルレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事		設計NO	図面NO A-015
										発	行					図面名称	ウズホール WC (立面図2)	縮 尺 A1: A3の200% A3: 1:50	整理NO		



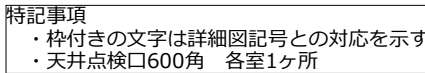
ウズホール (X3-X4間) 1:50



ウズホール (X2-X3間) 1:50

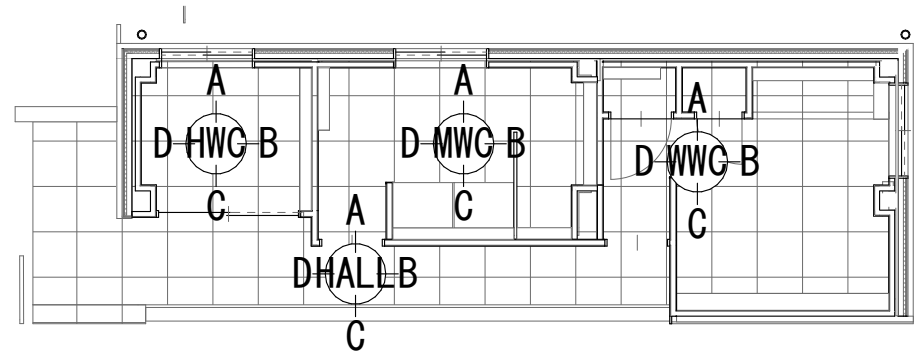
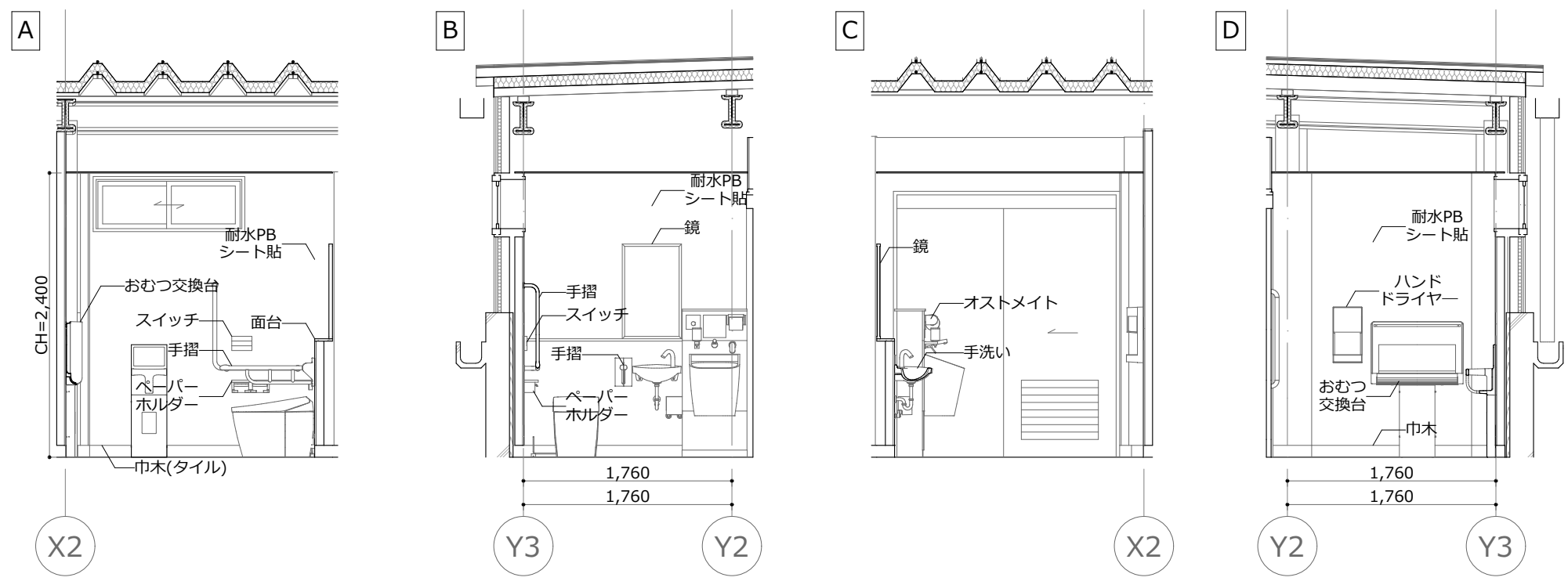


訂正	年	月	日	備 考	株式会社サデザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax	作 成 承 認				工事名称 ポर्टレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事	設計NO	図面NO A-017
						発行					図面名称 ウズホール WC (断面図2)	

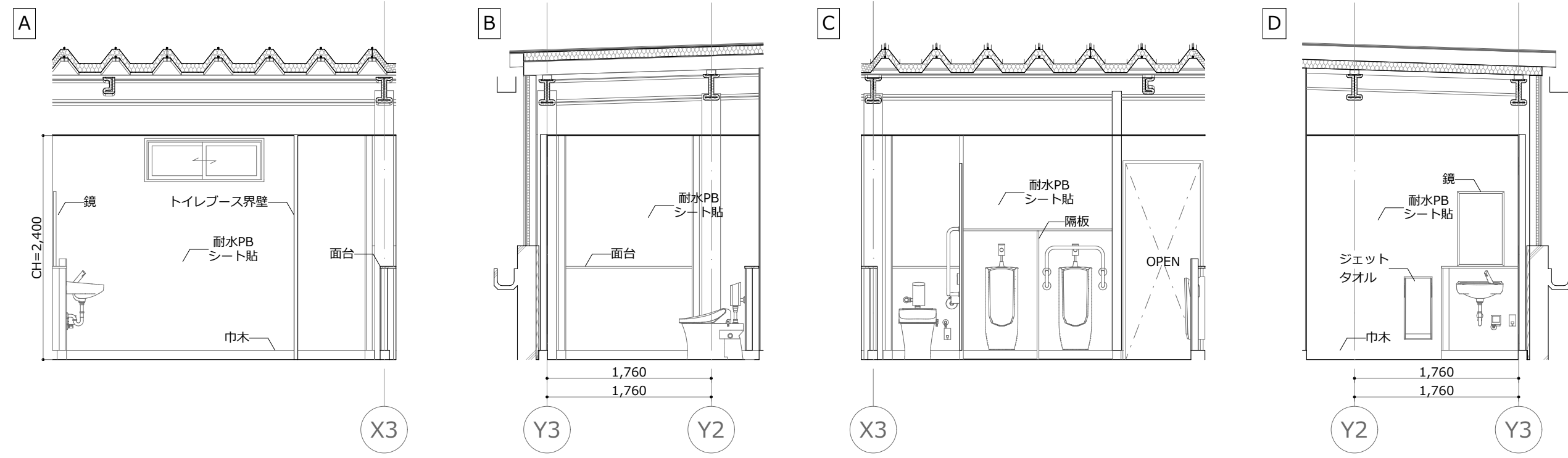


訂正	年 月 日	備 考	株式会社歩デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax	作 成	承認	工事名称	設計NO	図面NO
							ポータルース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事	
				発行		図面名称	縮 尺 :	整理NO
						ウズホール WC (天井伏図)	A1: A3の200% A3: 1:50	

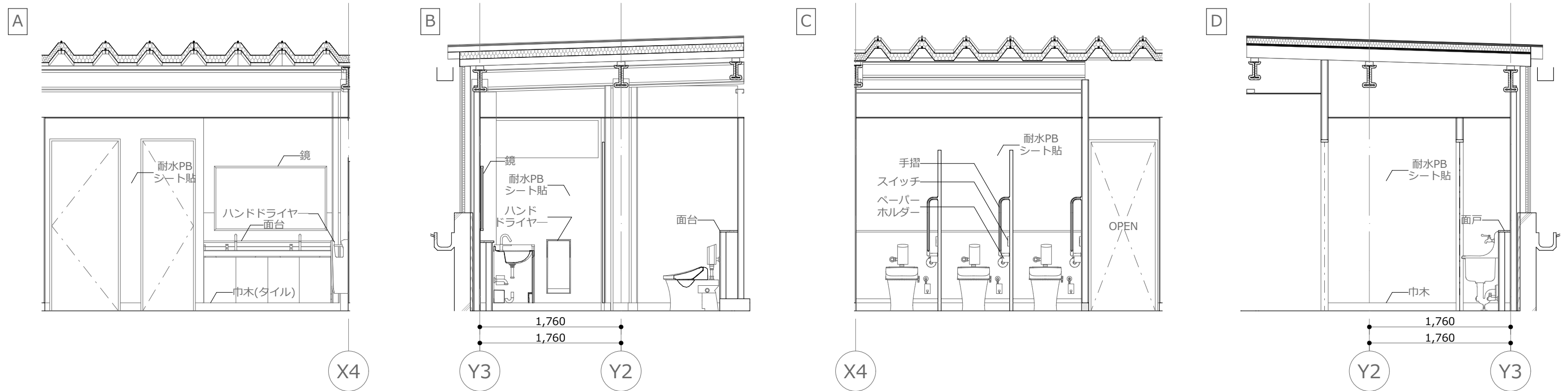
多機能トイレ (HWC)



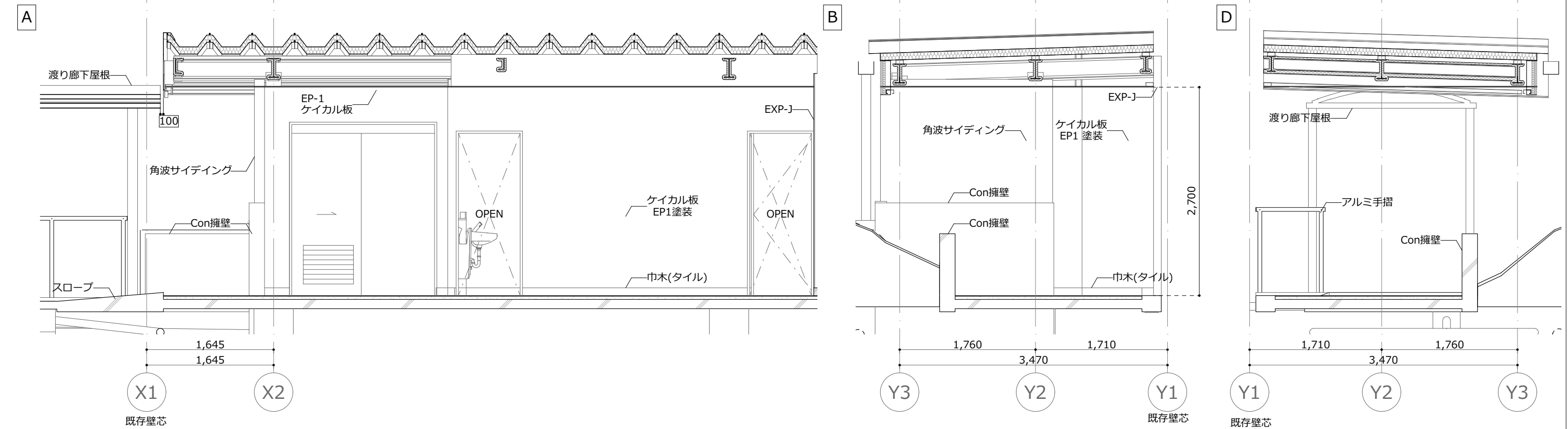
男性トイレ (MWC)



女性トイレ (WWC)



通路 (HALL)



訂正	年	月	日			備 考			株式会社デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax		作 成	承 認		工事名称 ポートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事	設計NO	図面NO A-021
											発 行			図面名称 ウズホール WC (展開図2)	縮 尺 A1: A3の200% A3: 1:50	

特記仕様・凡例

■ 建具種類

WD 木製戸

SWD 銅製枠木製戸

SD 銅製戸

LSD 軽量銅製戸

FSD 防火戸

AD アルミ製戸

SSD ステンレス製戸

TSO 強化ガラス戸

WW 木製窓

SW 銅製窓

AW アルミ製窓

SSW ステンレス製窓

SH スチール製シャッター

FKSH 防火防煙シャッター

FSH 防火シャッター

KSH 防煙シャッター

ASH アルミ製シャッター

OS オーバースライダー

SHD 銅製ハンガー戸

LSHD 軽量銅製ハンガー戸

AHD アルミ製ハンガー戸

WGR 木製ガラリ

SG 銅製ガラリ

AG アルミ製ガラリ

SSG ステンレス製ガラリ

PGR プラスチック製ガラリ

S 三方枠

F ふすま

TF 戸ぶすま

SJ 紙障子

SPT 銅製パーテーション

APT アルミ製パーテーション

BT 固定式防煙垂壁

BTL 昇降式防煙垂壁

BTF 可倒式防煙垂壁

■ 材質・仕上

SUS ステンレス製

AL アルミ製

S 銅製

W 木製

O 合成樹脂製

SOP 合成樹脂調合ペイント塗り

FE フタル酸エナメル塗り

LC クリアラッカー塗り

LE ラッカーエナメル塗り

OS スティン塗り

OSW スティンワックス塗り

B-AE 焼付アクリル樹脂エナメル塗り

B-UE 焼付ポリウレタンエナメル塗り

2-UE 2液形ポリウレタンエナメル塗り

B-FUE 焼付フッ素樹脂エナメル塗り

2-FUE 常温乾燥型エナメル塗り

HL ヘアライン

■ ガラス種類

FLG フロートガラス

FG 型板ガラス

TG 強化ガラス

FWG 網入型板ガラス

PWG 網入磨きガラス

HWG 網入熱線吸収ガラス

HG 熱線吸収ガラス

RG 熱線反射ガラス

PG 複層ガラス

■ ガラス留め付け種類

シ シーリング

グチ グレイジングチャンネル

グビ グレイジングビード

■ 姿図中凡例

煙 排煙に有効な部分

光 採光に有効な部分

進 代替進入口に有効な部分

消 消防有窓に有効な部分

□ ドアクローザー(姿図側設置)

□ ドアクローザー(姿図反対側設置)

■ 枠形状

A

B

C

D

E

F

G

H

I

(AT) エアタイト

■ 沓摺形状

A

B

C

D

E

F

G

H

I

(AT) エアタイト

■ 召し合わせ形状

A

B

C

D

E

F

■ 鍵

箱 シリンダー箱錠

イ インテグラルロック

モ シリンダーモノロック

本 シリンダー本締錠

鎌 鎌錠

非 非常錠

ホ ホテル錠

電 電気錠

○ かぎ

△ サムターン

× かぎなし

カ サムターンカバー

■ 支持金物

丁 丁番

ビ ビボットヒンジ

フ フロアヒンジ

オ オートヒンジ

傾 傾斜レール

傾ス 傾斜レールストップ付

■ その他金物

DC ドアクローザー

DCス ドアクローザーストップ付

DCヒ ドアクローザーヒューズ付

DCコ ドアクローザーコンシールド型

ア アームストップ

落 フランス落とし

当 戸当たり

順 順位調整器

■ 把手

握 握玉

レ レバーハンドル

押 押板・把手

堀 掘込引手

引 引手

ケ ケースハンドル

配置	多機能トイレ、男性トイレ、女性トイレ
記号	
形式	引違い
種類	AW
番号	1
数量	3
姿図	
建具の性能（耐風圧、気密、水密、断熱など）	-
枠（材質・見込・仕上・形状）	AL・260・二次電解着色・標準色
沓摺（材質・厚み・仕上・形状）	-
扉・障子（材質・見込・仕上・召し合わせ形状）	AL・二次電界着色・標準色
ガラス（種類・厚さ・留め付け）	FWG・6・シ
ガラリ（材質・仕上・開口率）	-
水切（材質）	AL
額縁（材質・仕上）	S・SOP
錠（鍵・把手・材質）	クレセント
支持金物・その他	戸車・付属金物一式
備考	防火設備とする

配置	女性トイレ	女性トイレ	多機能トイレ	男性トイレ、女性トイレ
記号				
形式	片開き戸	片開き戸	吊戸	三方枠のみ
種類	SD	SD	SD	SF
番号	2	3	1	1
数量	1	1	1	2
姿図				
建具の性能（耐風圧、気密、水密、断熱など）	-	-	-	-
枠（材質・見込・仕上・形状）	S・110・防錆塗装の上SOP・B	S・110・防錆塗装の上SOP・B	AL・110・二次電界着色・標準色	SUS・110・HL・E
沓摺（材質・厚み・仕上・形状）	SUS・1.5・B	SUS・1.5・B	SUS・1.5・HL・D	-
扉・障子（材質・見込仕上・召し合わせ形状）	S・40・防錆塗装の上SOP	S・40・防錆塗装の上SOP	AL・二次電界着色・標準色	-
ガラス（種類・厚さ・留め付け）	-	-	-	-
ガラリ（材質・仕上・開口率）	-	-	S・防錆塗装の上SOP・50%	-
水切（材質）	-	-	-	-
額縁（材質・仕上）	-	-	-	-
錠（鍵・把手・材質）	本（△-○）・レ・SUS・HL	本（△-○）・レ・SUS・HL	本（△-○）・引・SUS・HL	-
支持金物・その他	丁・DCス・付属金物一式	丁・DCス・付属金物一式	傾斜レール（自閉）・DCス・付属金物一式	-
備考	-	-	-	-

訂正

年 月 日

備 考

株 会社

株式会社デザインー級建築士事務所

一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏

#連絡先 電話番号

#連絡先 Fax

作 成

承 認

発 行

工事名称

ポートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事

図面名称

ウズホール WC（建具表）

縮 尺

A1: A3の200%
A3: 1:1

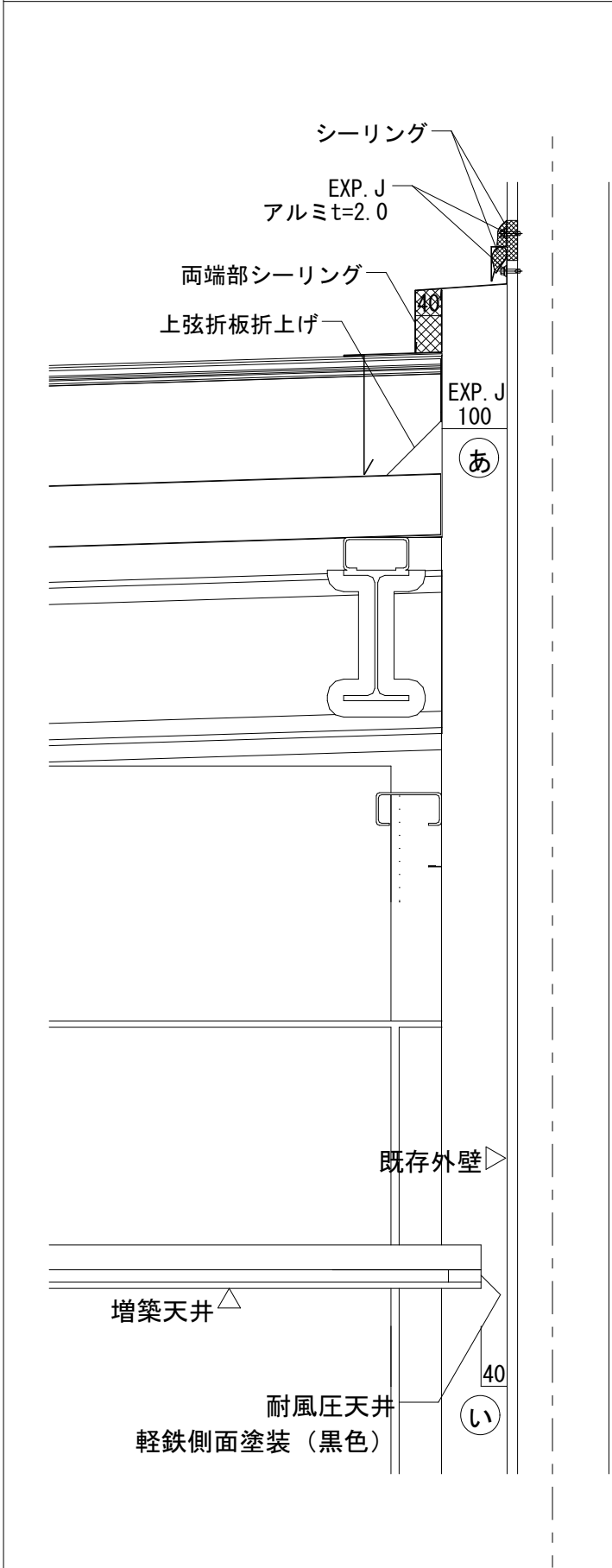
設計NO

整理NO

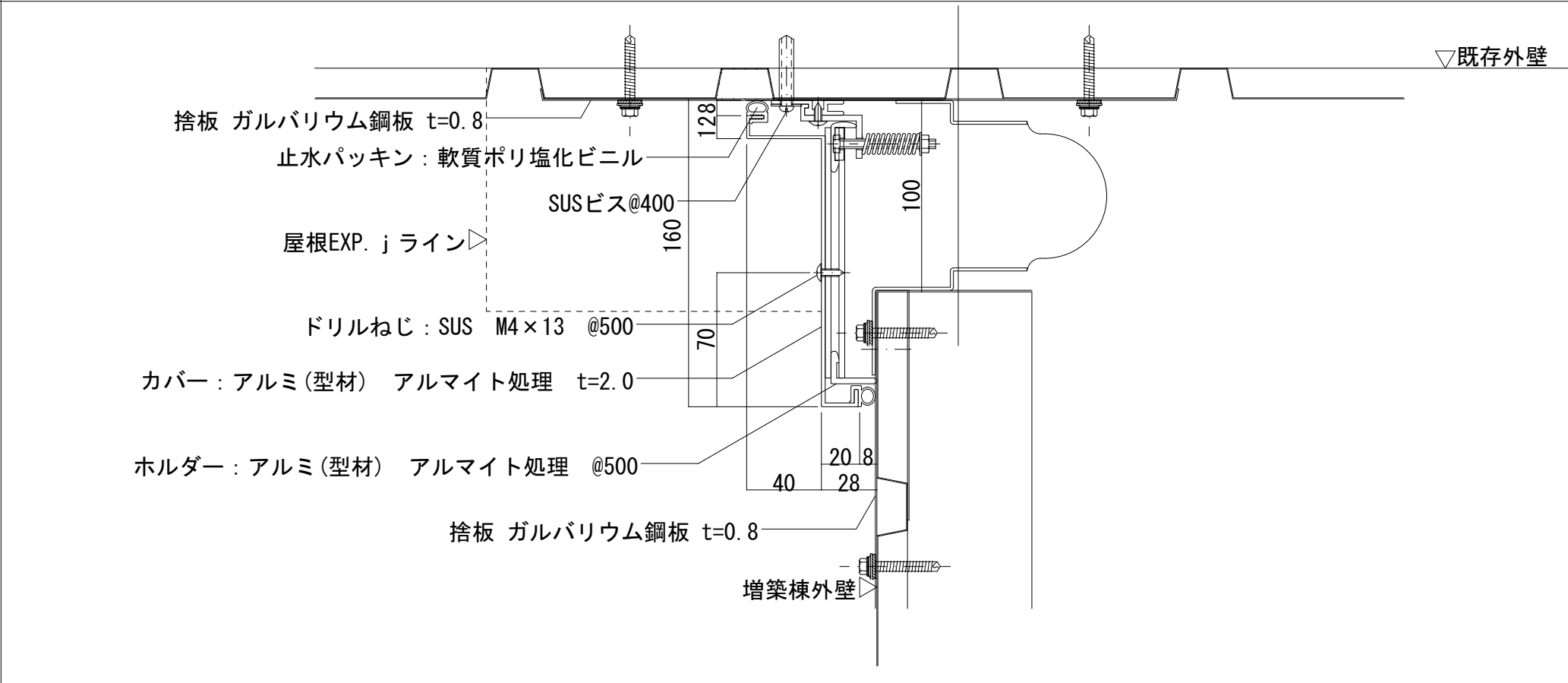
図面NO

A-022

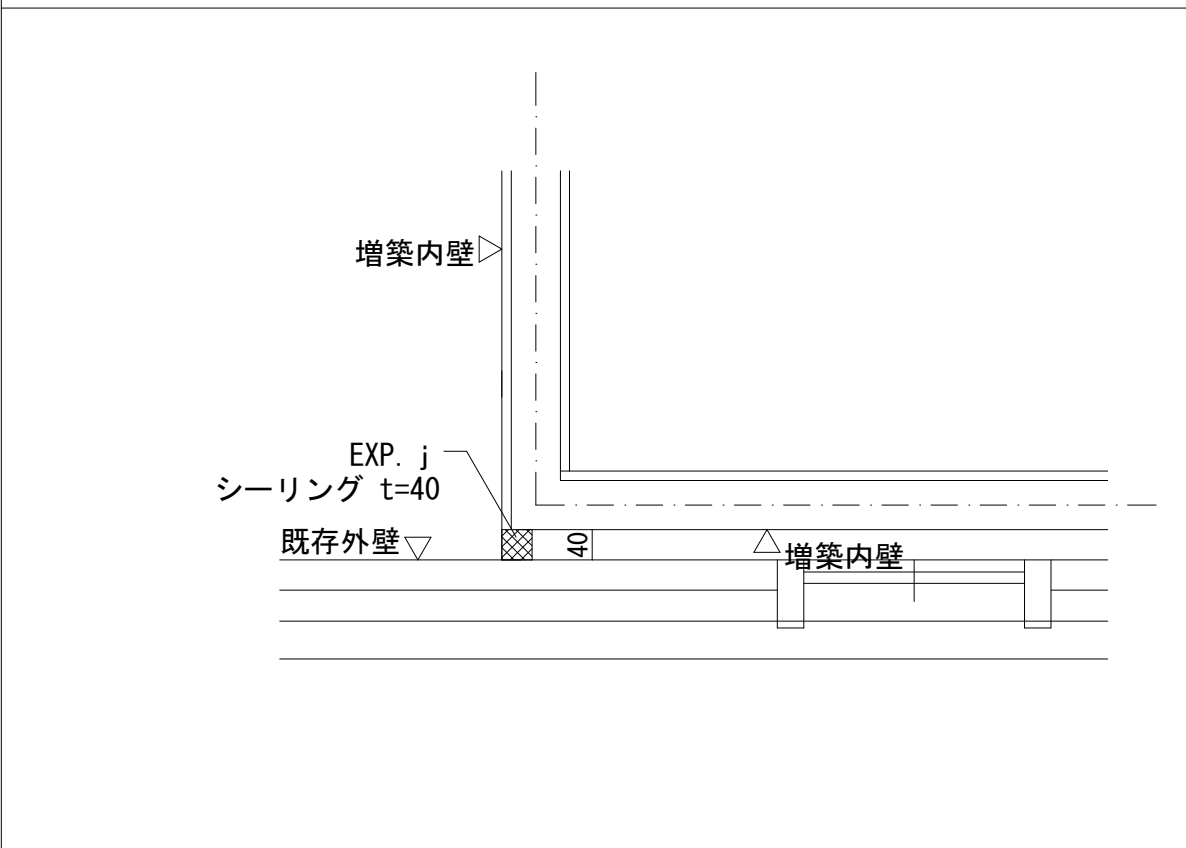
Y8通り あ EXP-J詳細図 【屋根-外壁】
い EXP-J詳細図 【天井-外壁】



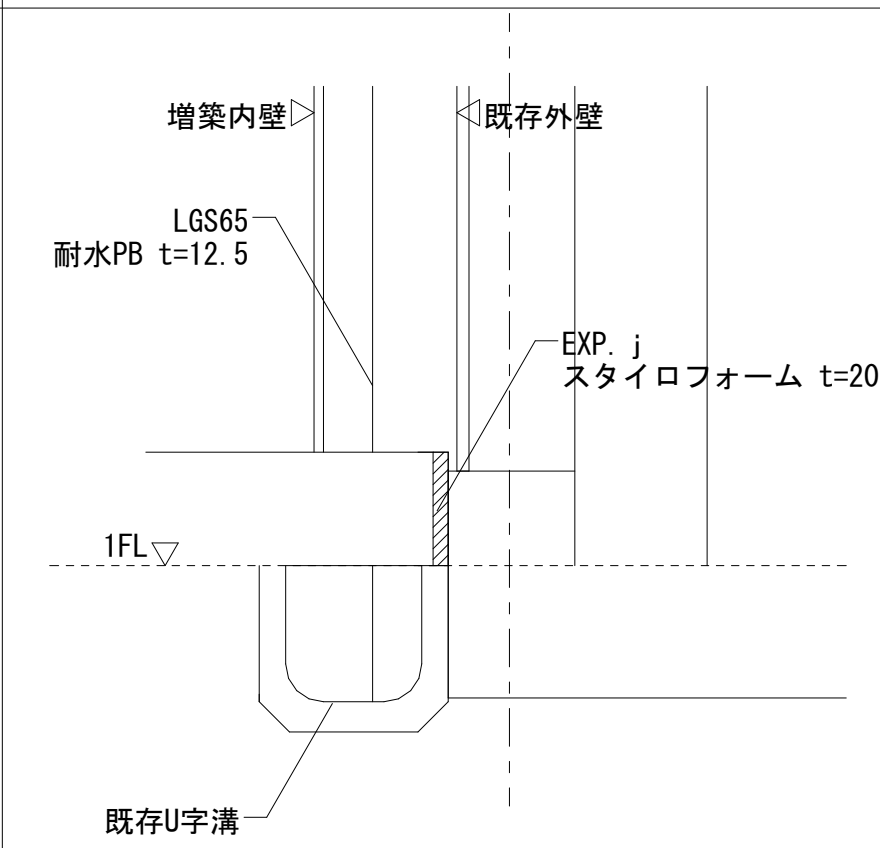
Y1通り うえ EXP-J詳細図 【外壁-外壁】

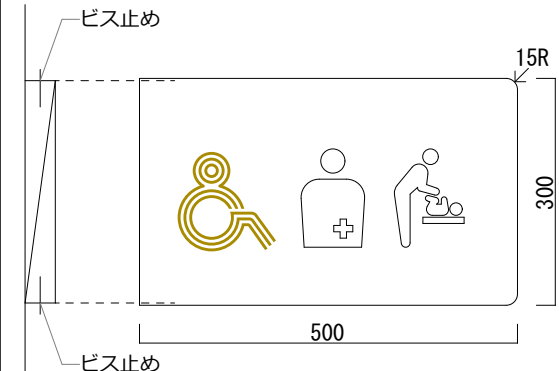
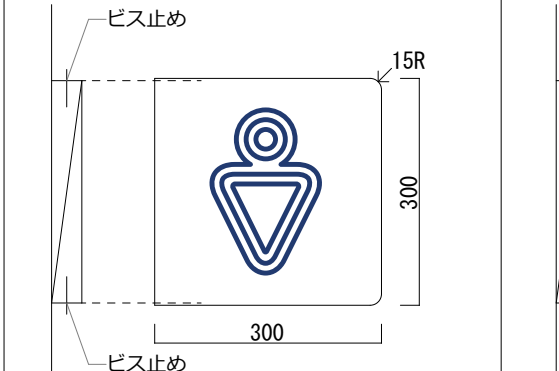
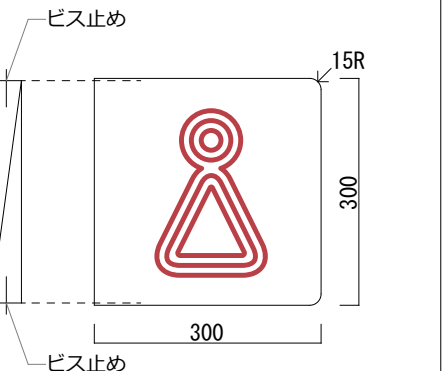


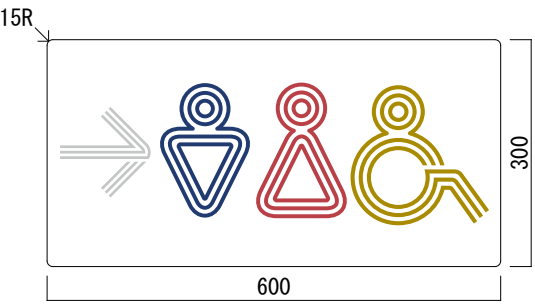
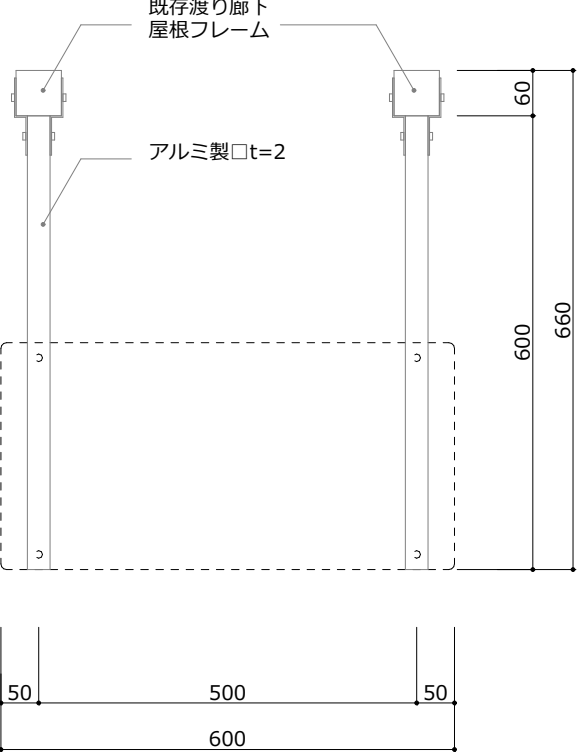
Y1通り お EXP-J詳細図 【内壁-外壁】



Y1通り か EXP-J詳細図 【床-外壁】



ア 屋内 多機能トイレ 1/10			イ 屋内 男子トイレ 1/10			ウ 屋内 女子トイレ 1/10		
								
箇所数	1箇所		箇所数	1箇所		箇所数	1箇所	
仕様	アクリル板下地、マットアクリル板t=3、カッティングシート		仕様	アクリル板下地、マットアクリル板t=3、カッティングシート		仕様	アクリル板下地、マットアクリル板t=3、カッティングシート	
設置面/設置方法	壁突き出し（石膏ボード、ビニルクロス）／直貼り（ビス）		設置面/設置方法	壁突き出し（石膏ボード、ビニルクロス）／直貼り（ビス）		設置面/設置方法	壁突き出し（石膏ボード、ビニルクロス）／直貼り（ビス）	

エ 屋外 多機能・男子・女子トイレ案内 1/10
 

箇所数	1箇所	
仕様	アルミ複合板t=3、アクリル板t=3、カッティングシート	
設置面/設置方法	天吊り	
○	屋外	多機能・男子・女子トイレ案内

300

15R

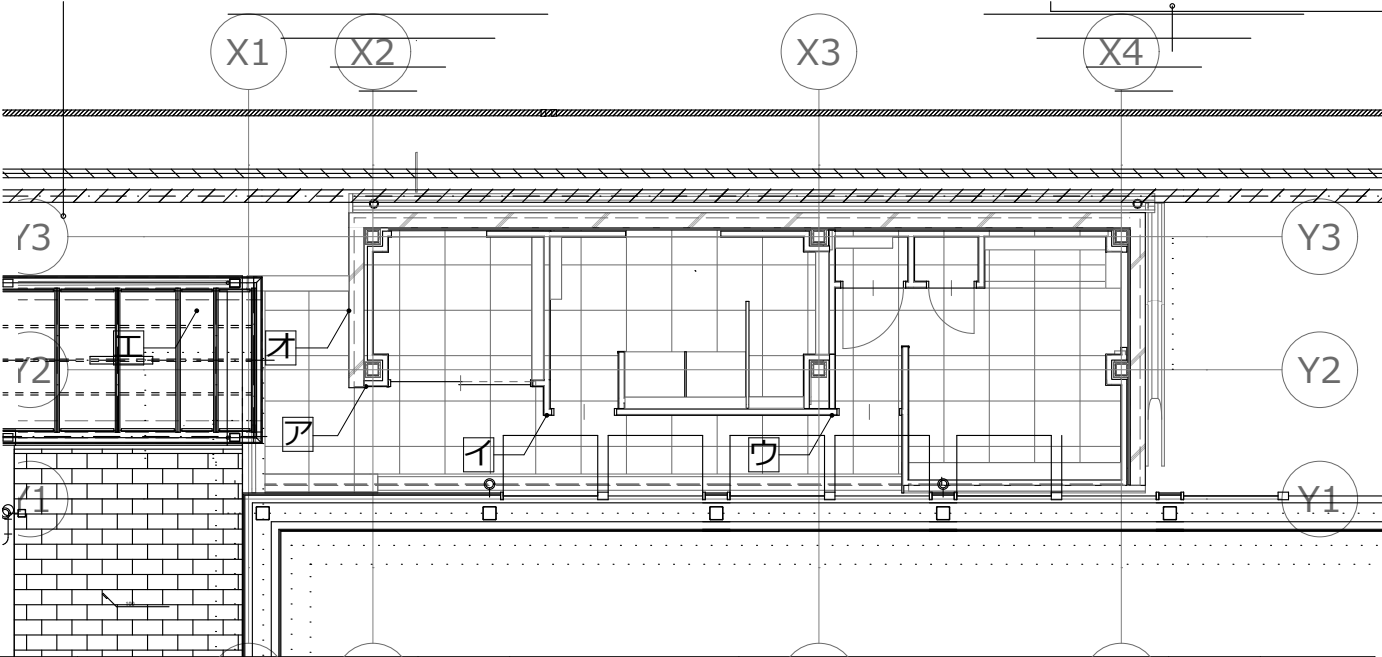
600

アクリル板 t=3

アルミ複合板 捨板 t=3

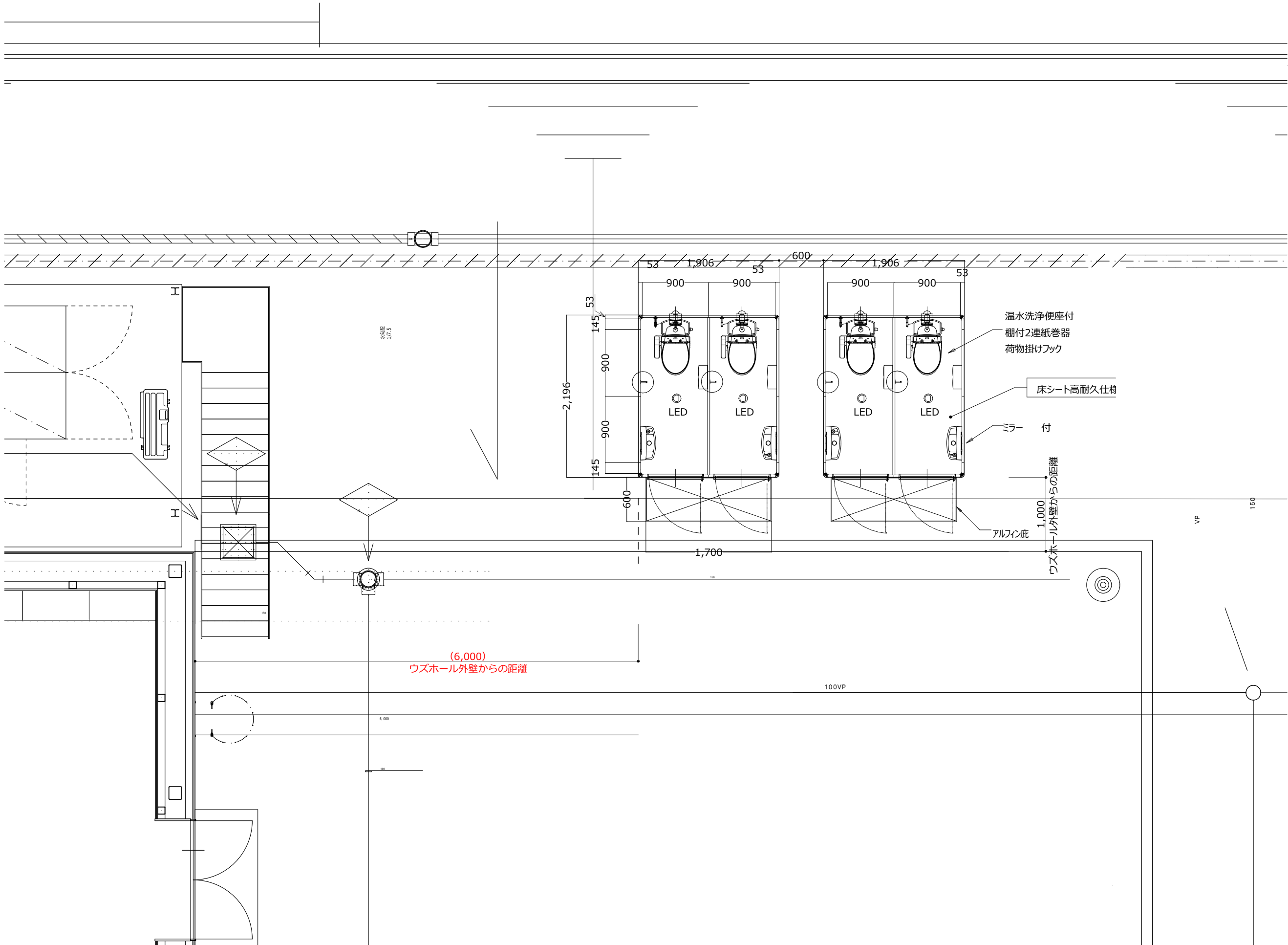
ボードアンカー
+ビス止め

箇所数	1箇所
仕様	アルミ複合板t=3、アクリル板(茶)t=3、カッティングシート
設置面/設置方法	壁面直貼り（接着剤・ビス併用）

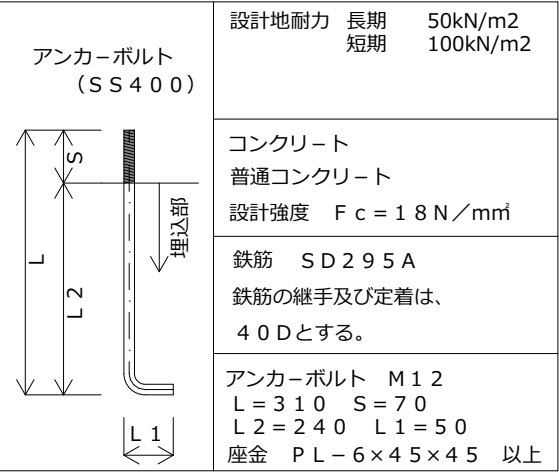


訂正	年 月 日		備考	

株式会社歩デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax				工事名称 ポートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事 図面名称 ウズホール WC (サイン図)	設計NO 整理NO	図面NO A-025
作成	承認	発行		縮尺 A1: A3の200% A3: 1:10, 1:100		



訂正	年	月	日	備 考	株式会社デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax	作 成			承 認			工事名称 ボートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事	設計NO	図面NO A-026
						発行				図面名称 関係者用WC (平面図)	縮 尺 A1: A3/200% A3: 1:50	整理NO		



1 / 20



訂正	年 月 日	欄 次 考	欄 次 考	作 成	承 認	工事名称 ボートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事	設計NO	図面NO A-028
	株式会社社歩デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax			発 行	図面名称 関係者用WC（詳細図2）	縮 尺： A1: A3の200% A3: 1:50	整理NO	

■鉄筋コンクリート仕様

コンクリート

- 1, 普通コンクリートの設計基準強度(N/mm²)
基礎・地中梁・スラブ 21, 捨てコン 18

2. レディーミクスコンクリートの種別
JIS A 5308 ■I類 □II類

3. セメントの種類
 ■普通ポルトランドセメント(JIS R 5210)
 JIS A 5308 ■I類 □II類

4. 骨材
 砕石及び砕砂(JIS A 5005)アルカリシリカ反応性による区分
 ■A
 粗骨材の塩化物量(%)
 ■0.04%以下

5. 混和材料の種別
 ■混和剤 AE減水剤(標準Ⅰ種)

6. 普通コンクリートの調査所要スラブ(c㎡)
 所要スラブ(c㎡) 基礎・地中梁・スラブ 18
 捨てコン 15

単位水量(最大値)	185kg/m ³
単位セメント量(最小値)	270kg/m ³
水セメント比(最大値)	65%
粗骨材の最大寸法(mm)	20

- ## 7. 試験及び養生方法
- ### ■圧縮強度試験 標準養生

8. 型枠の存置期間及び取り外し
 ■コンクリートの材齢による(日)
- | | |
|------------|----|
| 15℃以上 | 3日 |
| 5℃以上 15℃未満 | 5日 |
| 5℃未満 | 8日 |

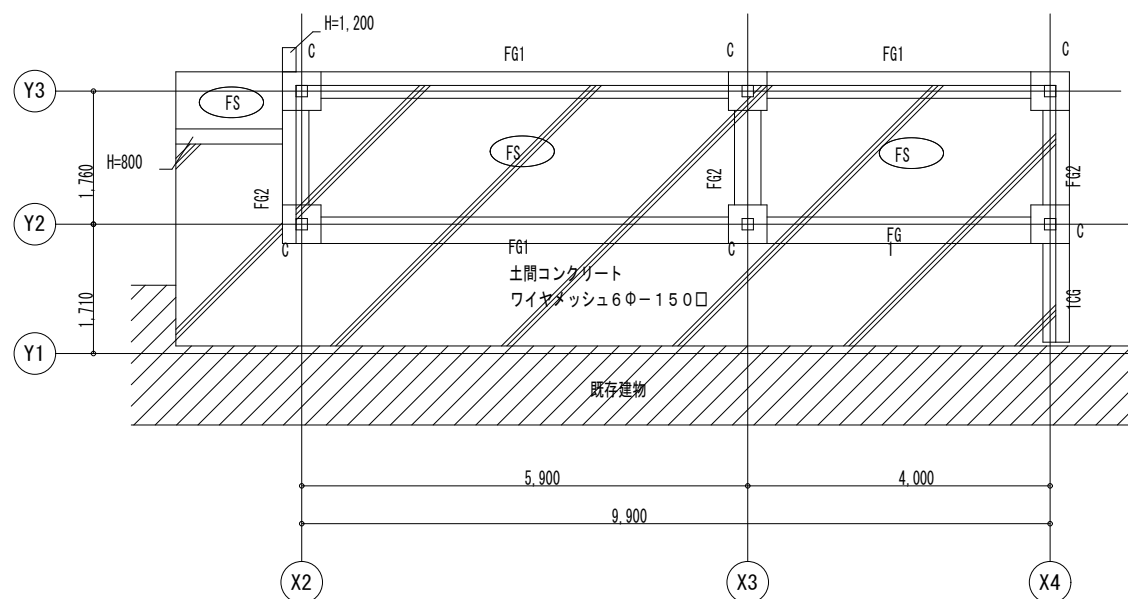
- 9, 水
■上水 上澄水

地中梁断面リスト

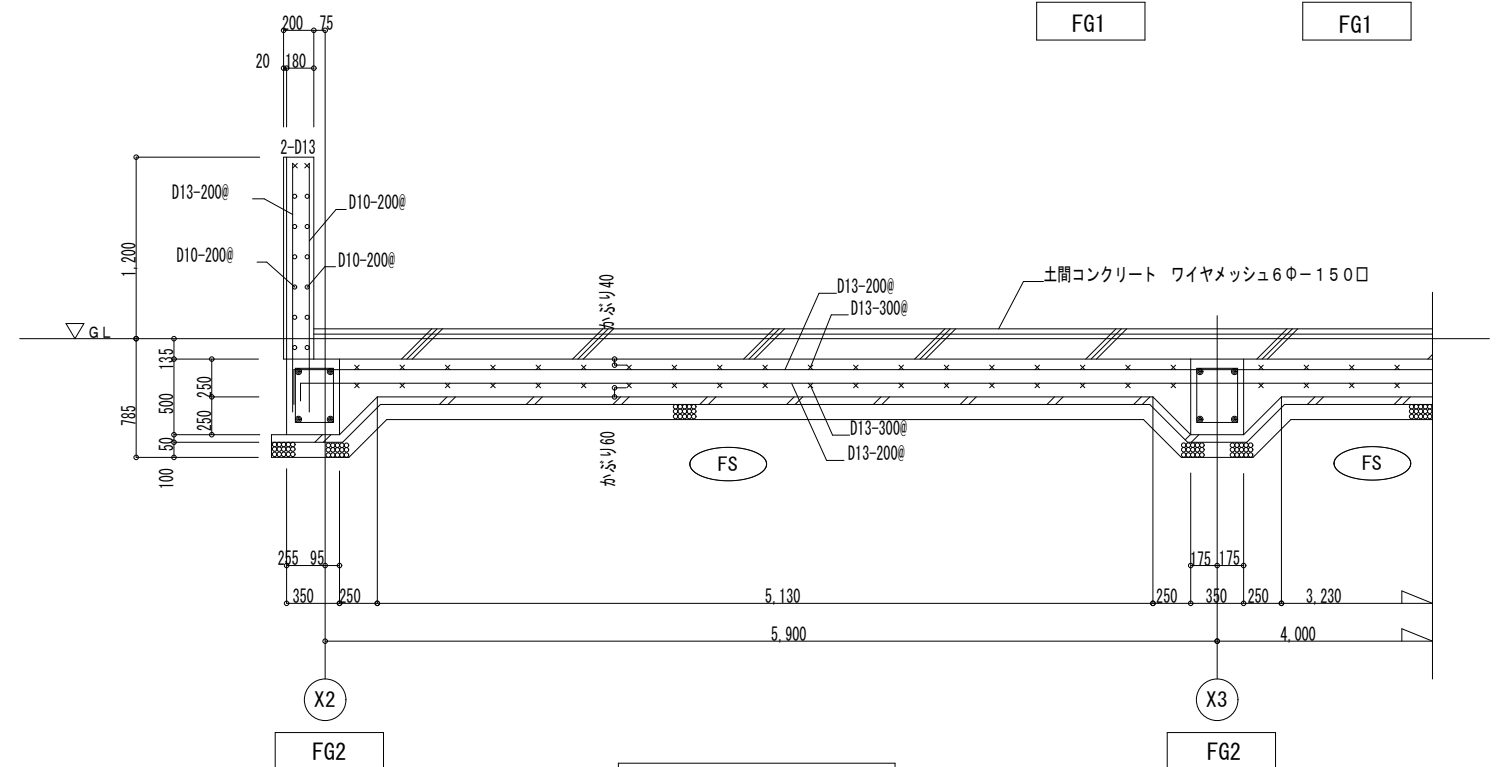
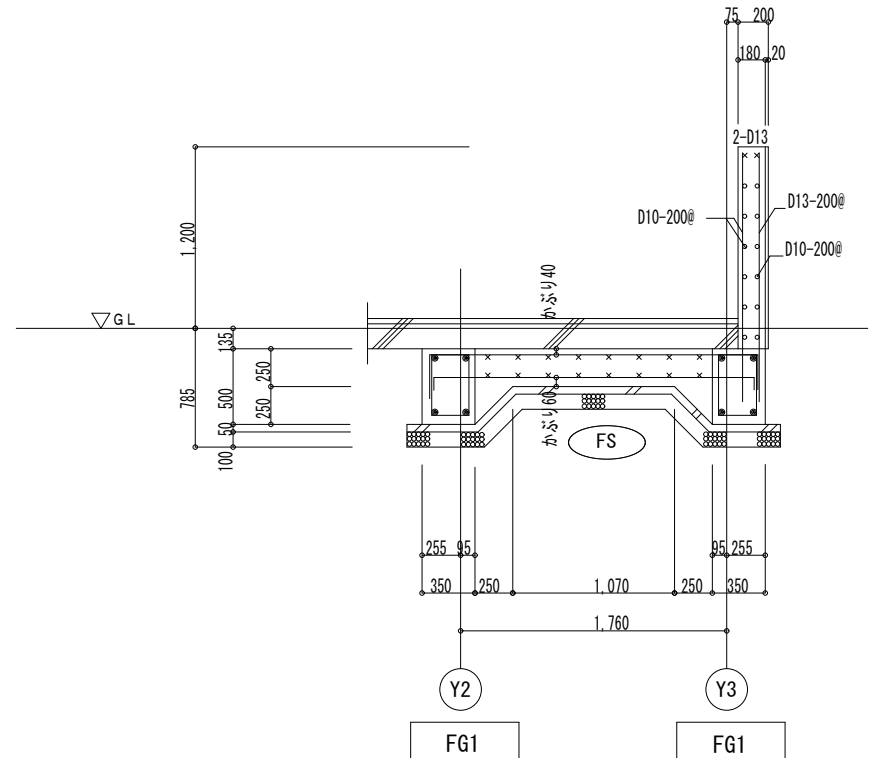
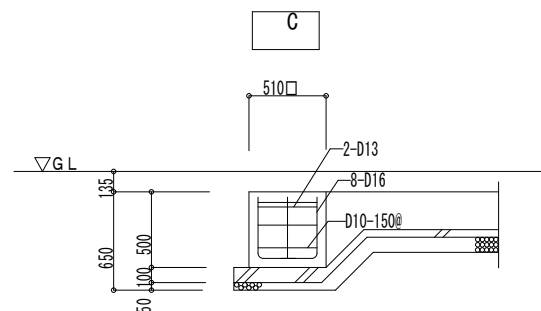
$$S=1/50$$

特記無き限り下記による。
巾止め筋はD10@800程度とする。

符 号	FG1	FG2	1CG
位 置	全断面	全断面	全断面
F 階			
B × D	350 × 500	350 × 500	350 × 500
上端筋	2-D19	2-D19	2-D19
下端筋	2-D19	2-D19	2-D19
S T P	D10-200@	D10-200@	D10-200@



基礎伏図 $S=1/100$



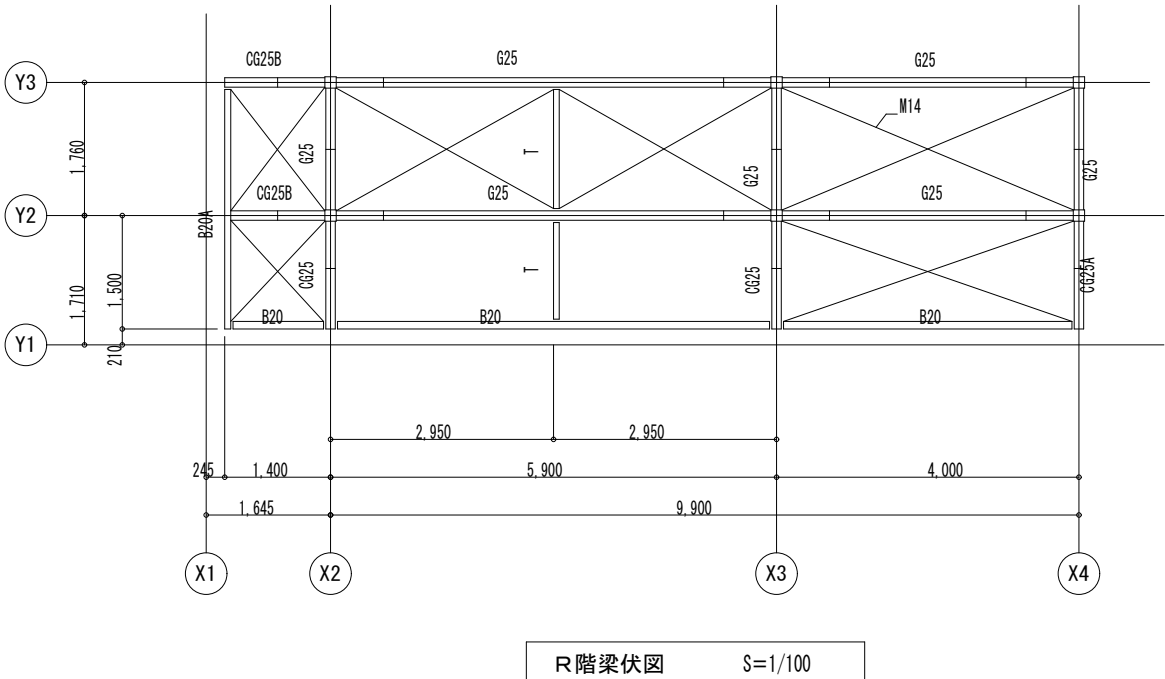
基礎配筋図 S=1/50

長期許容応力度	30 KN/m ²
短期許容応力度	60 KN/m ²

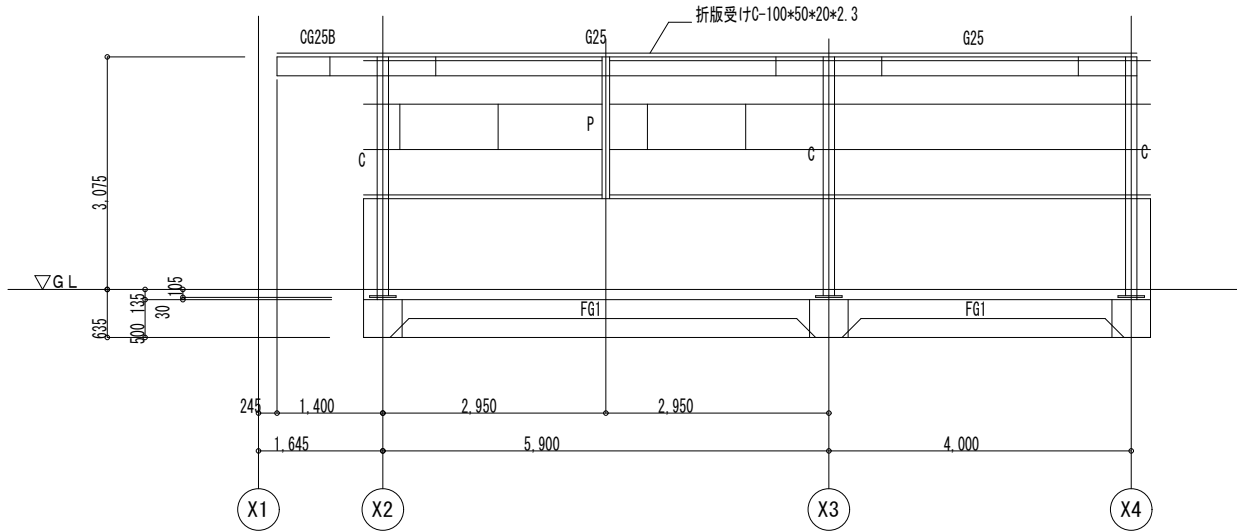
訂正	年	月	日	備 考	株式会社デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax	作 成	承 認			工事名称 ボートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事	設計NO	図面NO AK-001
						発 行				縮 尺 : A1: A3の200% A3: 1:50, 1:100	整理NO	

部材リスト				
記 号	名 称	サ イ ズ	規 格	種 類
C1	柱	□-150*150*6	冷間ロール成形角型鋼管	BCR295
P	間柱	□-100*100*2.3	JIS G 3466	STKR400
G25	大梁	H-250*125*6*9	JIS G 3101	SS400
CG25B CG25・CG25A	片持梁 小梁	H-250*125*6*9	"	"
B20	"	H-200*100*5.5*8	"	"
B20A	ツナギ梁	[-200*80*7.5*11	"	"
T		[-150*75*6.5*10	"	"
胴 縁		C-100*50*20*2.3 @600	JIS G 3350	SSC400
屋根面ブレース		M14ターンバックル筋交い	JISA 5541・JISA 5542	
※ 大梁で内ダイヤの部分は、コラムのr部分をさけて取り付ける。 但し、内フランジを設けないでハンチとした場合は柱の外付けでもよい。				

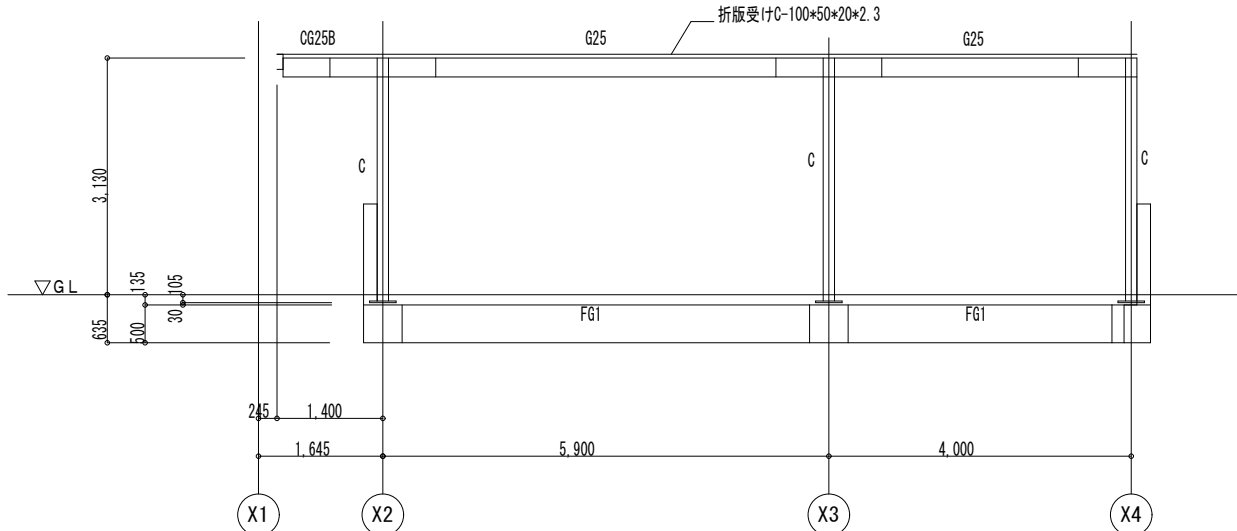
名 称	仕 様	規 格	種 類
通しダイヤフラム		JIS G 3136	SN490C
内ダイヤフラム		"	SN490B
柱 脚		"	SN490C
高力ボルト	構造用トルシア形高力ボルト	国住指 第1669号	MBLT-0052 S10T
ボルト	中ボルト	JIS B 1180	F4.6T
溶接材料	MAG溶接用ソリッドワイヤ RC11 (高張力鋼用被覆アーク溶接棒)	JIS Z 3312	YGW11



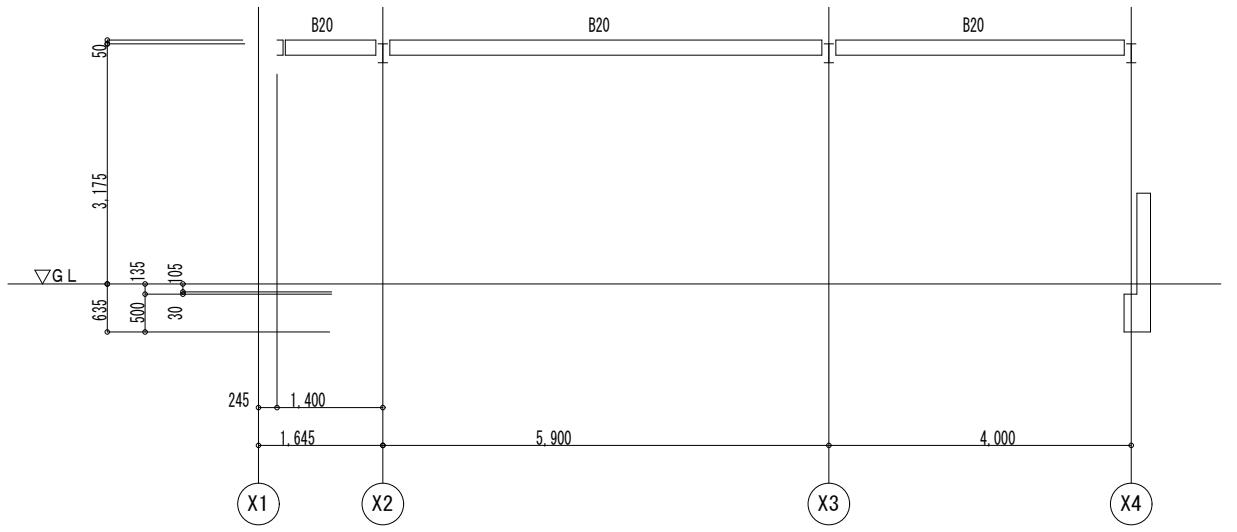
R階梁伏図 S=1/100



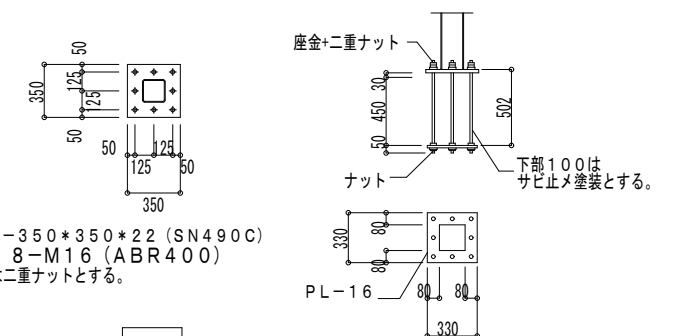
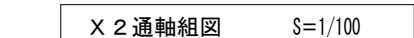
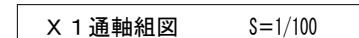
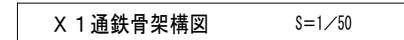
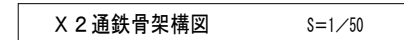
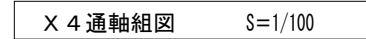
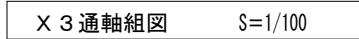
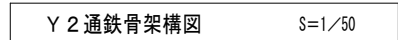
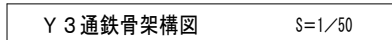
Y 3 通軸組図 S=1/100



Y 2 通軸組図 S=1/100



Y 1 通軸組図 S=1/100



※アンカーボルト孔径はボルト径+5mmとする。

年	月	日					備 考		株式会社サデザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 FAX				作 成		承 認		工事名称 ポートルース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事		設計NO		図面NO			
訂正													発 行				図面名称 軸組図(2)・鉄骨架構図(ウズホールWC)		縮 尺 : A1: A3/200% A3: 1:50, 1:100		整理NO		AK-003	

鉄骨構造標準図 7-2 (基礎配筋標準図)

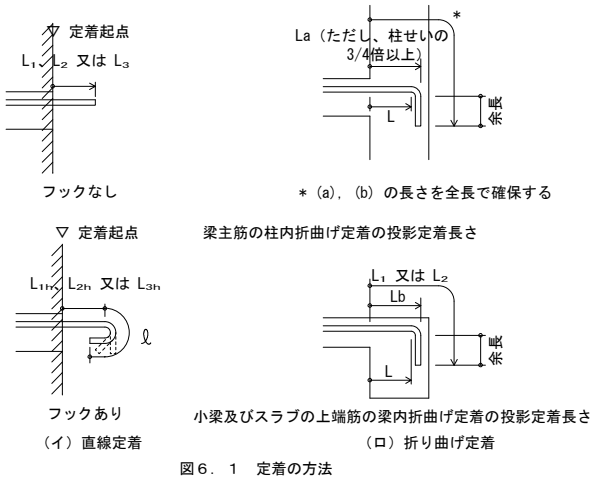
6. 鉄筋の定着

- (a) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、特記による。
特記がなければ、40d（軽量コンクリートの場合は50d）表6. 1
の定着長さのうち大きい値とする。
- (b) (a) 以外の鉄筋の定着の長さは、表6. 1による。

表6. 1 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の 種類	コンクリートの 設計基準強度 (F _c) (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L ₁	L ₂	L ₃		L _{1h}	L _{2h}	L _{3h}	
SD295	18	45d	40d	小梁	スラブ	10d	かつ 150mm 以上	小梁	スラブ
	21	40d	35d						
	24, 27	35d	30d						
	30, 33, 36	35d	30d						
SD345	18	50d	40d	20d	10d	-			
	21	45d	35d						
	24, 27	40d	35d						
	30, 33, 36	35d	30d						
SD390	21	50d	40d						
	24, 27	45d	40d						
	30, 33, 36	40d	35d						

- (注) 1. L₁、L_{1h}：(b) 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
2. L₂、L_{2h}：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着長さ及びフック
あり定着の長さ
3. L₃：小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ。ただし、基礎耐力スラブ
及びこれを受ける小梁は除く。
4. L_{3h}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、図6. 1に示すようにフック部分 $\angle$ を含まない。
また中間部での折り曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。
- (c) 定着の方法は、図6. 1による。
なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さ L が、表6. 1の
フックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を表6. 1に示す直線
定着の長さとし、かつ、余長を 8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着
長さを表6. 2に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則と
して、柱せいの 3/4 倍以上）をのみ込ませる。



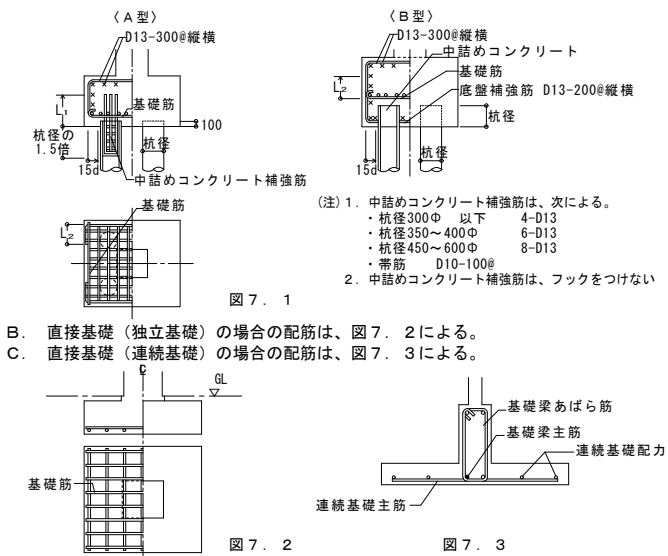
- (注) 1. La：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
（基礎梁、片持ち梁及びスラブを含む。）
2. Lb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

表6. 2 投影定着長さ

鉄筋の 種類	コンクリートの 設計基準強度 (F _c) (N/mm ²)	La	Lb
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

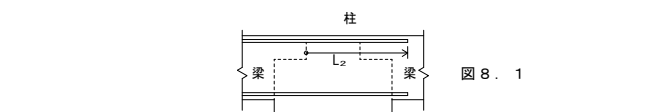
7. 基礎

- A. 杭基礎の場合
既製コンクリート杭の杭頭補強の方法は、図7. 1のA形又はB形とし、適用は
特記による。特記がなければB形とする。
なお、中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを
使用する。
下図以外の場合は、特記による。

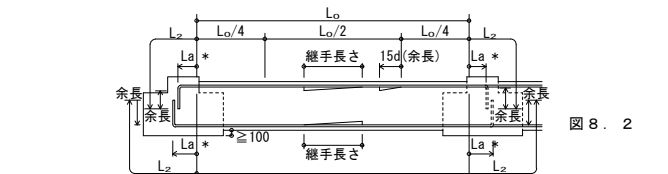


8. 基礎梁

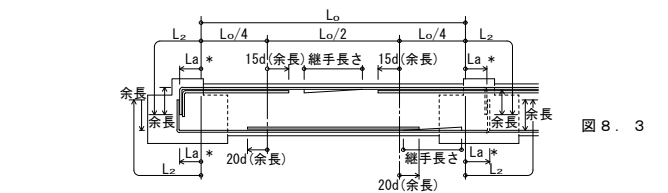
- A. 一般事項
(1) 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが
できない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する
場合は、図8. 1による。
(2) 梁筋を柱内に定着する場合は次による。
① 梁主筋ののみ込み長さは、柱せいの 3/4 以上とする。
② 上端筋：曲げ降ろす。
③ 下端筋：曲げ上げる。ただし、やむを得ない場合は、監督員の承諾を
受けて、曲げ降ろすことができる。
④ 定着の方法は、6. (c) による。



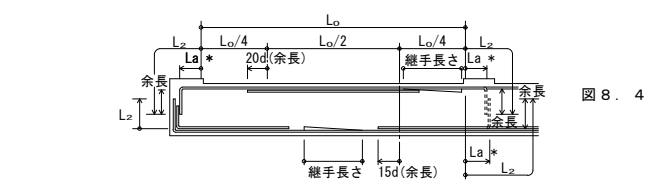
- B. 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



- C. 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長
（耐力スラブが付く場合は D. による）

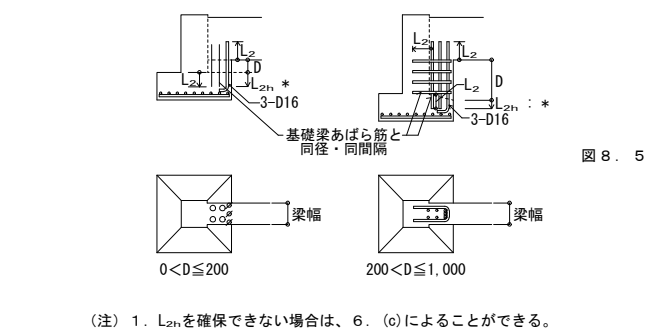


- D. 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長

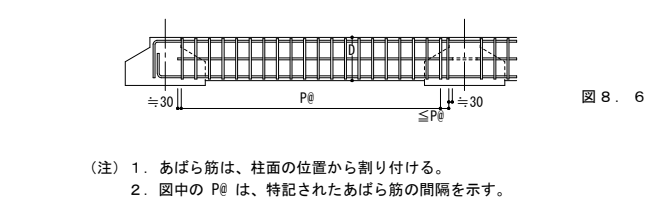


- (注) 1. 印は、継手及び余長を示す。
2. 破線は、柱内定着の場合を示す。
3. Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

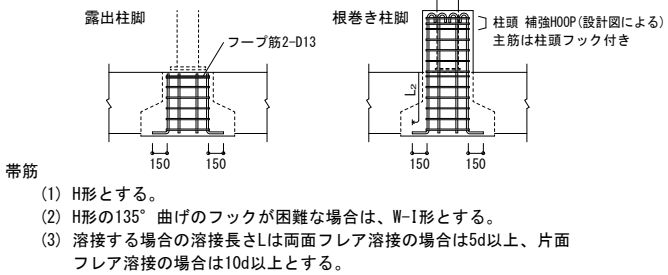
- E. 基礎接合部の補強



- F. あばら筋の割り付け



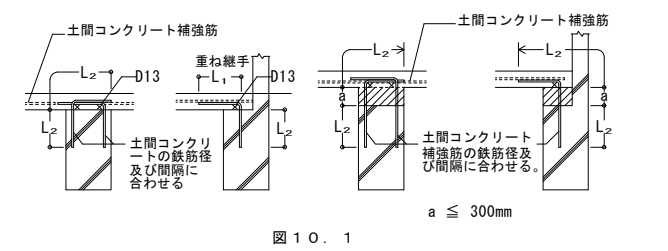
9. 基礎柱



- (1) H形とする。
(2) H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
(3) 溶接する場合の溶接長さLは両面フレア溶接の場合は5d以上、片面
フレア溶接の場合は10d以上とする。
- ① H形 ② W-I形 (注) 溶接は、鉄筋の組立て前に行う

10. 土間コンクリートの補強

- A. 土間コンクリートの補強
土間コンクリートの補強筋は、特記による。
なお、基礎梁との接合部は、図10. 1による。



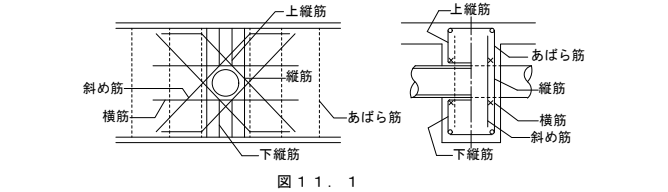
11. 梁貫通孔補強

- (1) H形配筋

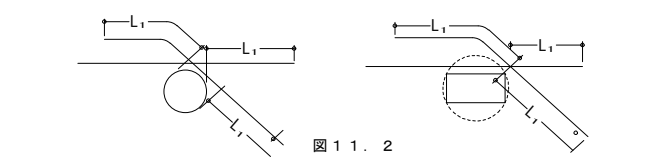
配筋 種別	斜め筋	縦筋	横筋	あばら筋	配筋図
H 1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H 2		2-2-D13			
H 3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 4	4-2-D16				
H 5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 6	4-2-D19				
H 7	4-2-D22				

- (注) は、一般部分のあばら筋を示す。

1. 梁貫通孔補強筋の名称などは図11. 1による。



2. 孔の径は、梁せいの 1/3 以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
3. 孔の上下方向の位置は、梁せい中心付近とし、梁中央部下端は、梁下端より
1/3 d の範囲に設けてはならない。
4. 孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁（小梁）の面から原則として 1.5 D
（D は梁せい）以上離す。ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。
5. 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
6. 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
7. 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは図11. 2による。
8. 孔の径が梁せいの 1/10 以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げる
ことにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
9. 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
10. 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
11. 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。



- (注) 採用する配筋については、特記による。
大臣認定による既製品を使用する場合は、すべて認定内容による。

鉄骨構造標準図 7-3 (溶接A)

特記事項

1 適用範囲

1. 本標準図は「溶接作業基準・同解説、I アーク溶接、IVサブマージアーク自動溶接、IVガスシールド半自動溶接：日本建築学会」に従い、工場溶接を行う場合に適用する。
2. 特に設計者の指示がある場合はそれに従う。
3. 本図によらない場合は、設計者の承認を受ける。
4. 本構造標準図は、設計者の責任において使用すること。

2 適用鋼材

溶接法	鋼材の記号					板厚(mm)
M	SS400	SSC400	STKR400	STK400	STK490	2.3~6
M	SS400	SM490YA	STKR400	STK400	STK490	6~25
M	SM400A	SM490B	SN400B・C	SN490B・C		6~32
NG	SM490A	SM520B	SN400B・C	SN490B・C		6~38
G	SN400B・C	BCR295	BCP235	BCP295		6~45
S	SN400B・C	SN490B・C				6~45
	SM400B	SM400C・SM520C		SM570		6~50

予熱は、鉄骨工事技術指針に従い行うものとする。技術指針に該当しない鋼材については、必要な試験を行った上、適切な熱管理のもとで準用してよい。

3 適用溶接法と記号

M アーク手溶接
NG ノンガスシールドアーク半自動溶接
G ガスシールドアーク半自動溶接
S サブマージアーク自動溶接
C 突合せ溶接
P 部分溶け込み溶接
F すみ肉溶接
T T継ぎ手
L 角継ぎ手
B 突合せ継ぎ手
I I形
V V形
レ レ形
K K形
X X形
B 裏あて金
1 片面溶接
2 両面溶接 MC, NGC, GC, は、表はつりをする。
(例) MC-TL-B1=アーク手溶接突合せ-レ形T継ぎ手-裏あて金付き片面溶接

4 溶接姿勢

F 下向姿勢
H 水平又は、横向姿勢
V 立向姿勢
O 上向姿勢

手溶接における姿勢は、特記あるものを除き、原則として下向とする。

5 その他

1. 使用板厚は半自動、自動溶接の場合は6mm以上とする。
2. 手溶接において、1層目の溶接を行う棒径は4mm以下とする。
3. 寸法の許容誤差で図示したもの以外は、下記による。
a 開先角度は、-3° ~+5° とする。
b 裏あて金のすきまは0とし許容誤差は、-0~+1とする。
c 重ね継ぎ手のすきまは0とし許容誤差は、-0~+2とする。
d グループ溶接部の相互目違いは0とし、許容誤差は、-1~+1とする。
e 突き合わせ溶接及び部分溶け込み溶接の余盛の高さは、特記なき場合は、右記詳細図によるものとする。

6 仕口部溶接図示例

柱H形鋼の場合

柱角形鋼管の場合

7 エンドタブ、裏あて金、補強隅肉、スカーラップ

・ 突合せ溶接の両端にはエンドタブを取付け、アークの開始および終了点とする。 寸法は下図による。
・ 裏あて金の厚さは、母材の厚さ6mmの場合6mm、25mmまでは9mm、25mm以上は12mmとする。
・ スチール製エンドタブに替えてフラックスタブ・セラミックスタブを監督員の承諾を得て使用することができる。

手溶接、半自動溶接

自動溶接

t≤19 は b≥35、22≤t ≤36 は b≥50とする。

A 板突合せ継手 B 仕口フランジ突合せ継手

C T継手（カバープレート付）

D T継手（柱巾大） E T継手（柱梁同巾）

裏あて金 13×13 又は FB6×25

M C -L1-B1
NGC
G C-L1-B1

5 I型突合せ

裏あて金 13×13 又は FB6×25

M C -L1-B1
NGC
G C-L1-B1

1 すみ肉溶接

MF=両面 SF=片面

1 表

S	t1	3.2	4.5	6	9	12	16	19
手・半自動・自動	4.5	6	6	7	9	12	14	

且つ、自動溶接ではt1=3.2、4.5については片面溶接終始端は、まわし溶接を行う。

隙間e -0~+5、ただしeが2mmをこえる場合はサイズをeだけ増加する。2mmをこえるすき間は全長にあつてはならない。

サイズS -0~+3、ただし溶接の長さの10%以内については-0~1Sを認める。

余盛c -0~+ (0.1S+1)、ただし溶接長さの10%以内については-0.07Sを認める。

2 レ型突合せ

M C -TL-B1
NGC
G C-TL-B1

6 レ型突合せ

M C -LL-B1
NGC
G C-LL-B1

1-2 K型すみ肉溶接

n1=n2=0.4t1
許容誤差 a, c, e 同差 n1 n2 -0~+3

3 レ型突合せ

M C -TL-2
NGC
G C-TL-2

7 V型突合せ

M C -LV-B1
NGC
G C-LV-B1

1-3 断続すみ肉溶接

I≥10S 且つ I≥40mm
P≥I +10t1

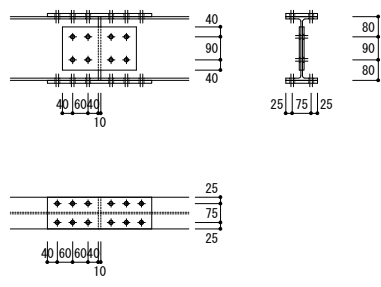
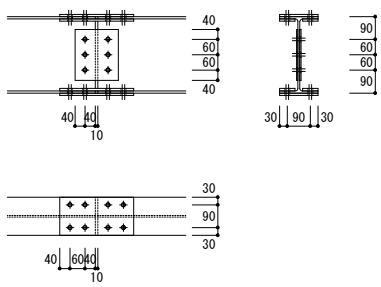
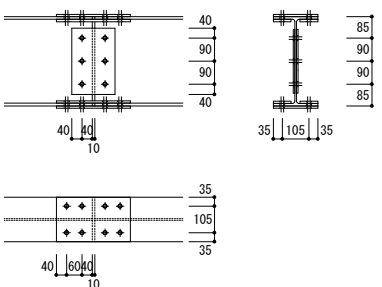
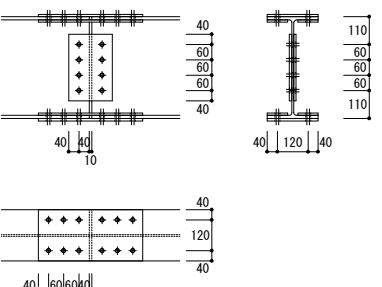
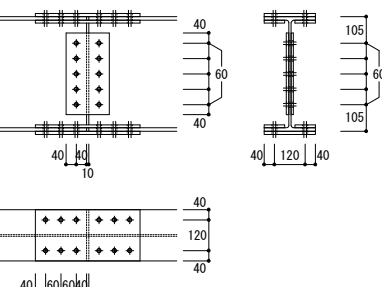
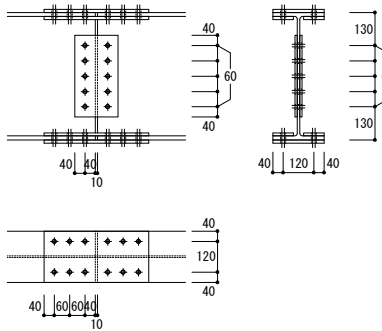
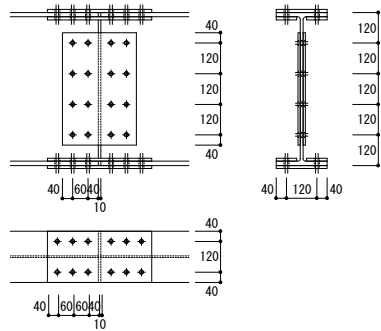
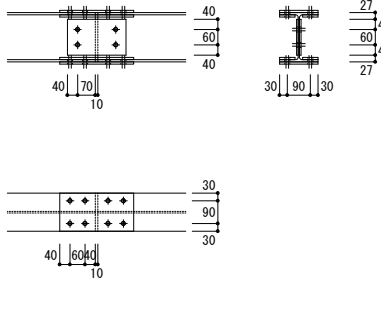
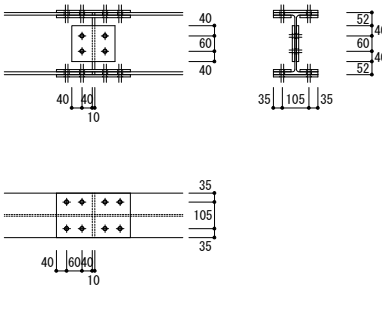
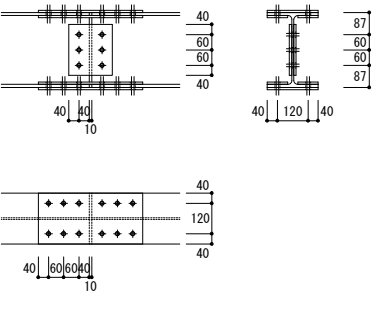
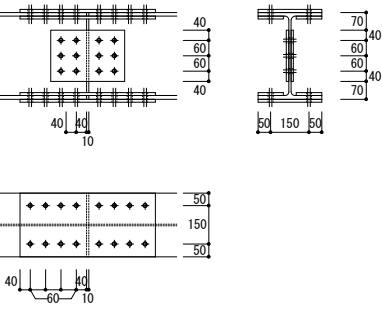
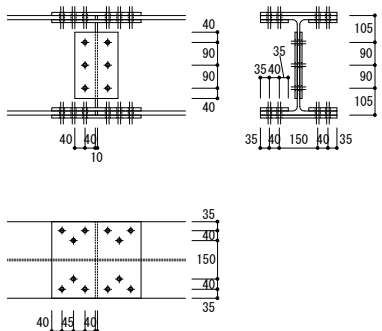
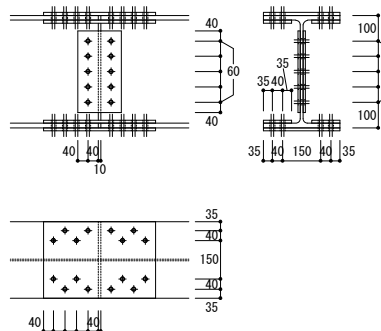
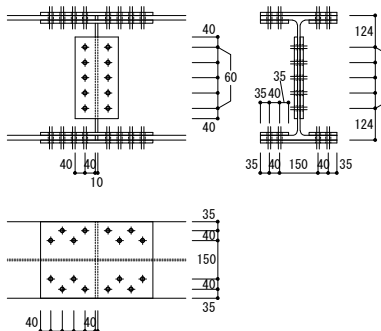
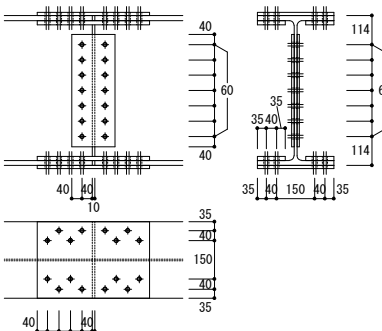
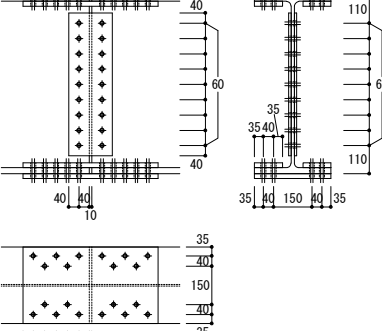
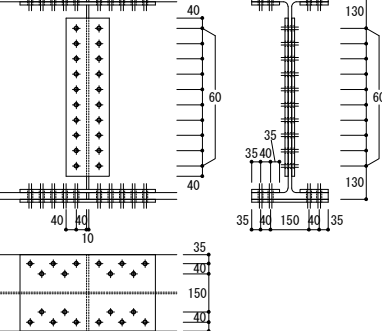
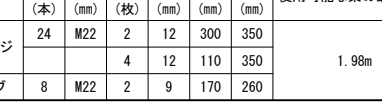
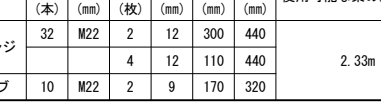
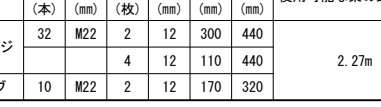
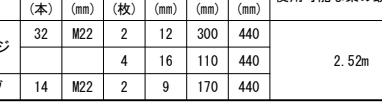
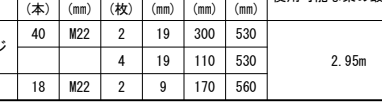
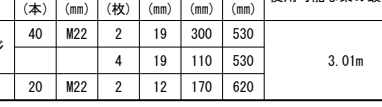
4 K型突合せ

M C -TK-2
NGC
G C-TK-2

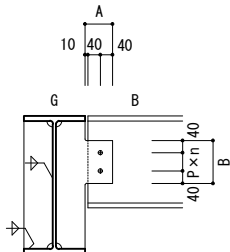
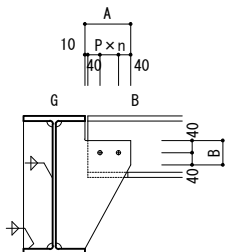
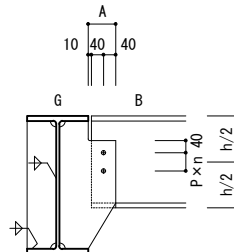
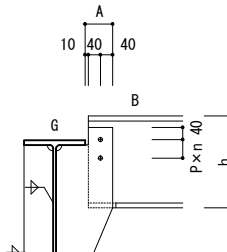
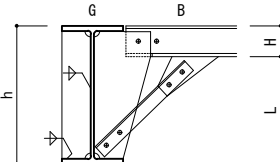
8 V型突合せ

M C -LV-2
NGC
G C-LV-2

2022.4.1 訂 一般社団法人 徳島県建築士事務所協会

鉄骨構造標準図 7-4 (接合部)				H-250×125×6×9				H-300×150×6.5×9				H-350×175×7×11				H-400×200×8×13				H-450×200×9×14			
H型鋼標準接合部																							
特記事項				1. 許容耐力設計において、存在応力が本標準図の許容耐力以内である事を確認すること。				1. 許容耐力設計において、存在応力が本標準図の許容耐力以内である事を確認すること。				1. 許容耐力設計において、存在応力が本標準図の許容耐力以内である事を確認すること。				1. 許容耐力設計において、存在応力が本標準図の許容耐力以内である事を確認すること。				1. 許容耐力設計において、存在応力が本標準図の許容耐力以内である事を確認すること。			
2. 本標準図は保有耐力接合を示す標準図である。				2. 本標準図は保有耐力接合を示す標準図である。				2. 本標準図は保有耐力接合を示す標準図である。				2. 本標準図は保有耐力接合を示す標準図である。				2. 本標準図は保有耐力接合を示す標準図である。				2. 本標準図は保有耐力接合を示す標準図である。			
3. 孔径はボルト軸径+2mm以内とする。				3. 孔径はボルト軸径+2mm以内とする。				3. 孔径はボルト軸径+2mm以内とする。				3. 孔径はボルト軸径+2mm以内とする。				3. 孔径はボルト軸径+2mm以内とする。				3. 孔径はボルト軸径+2mm以内とする。			
4. 鋼材の材質は SS400、SN400A・B・Cとする。				4. 鋼材の材質は SS400、SN400A・B・Cとする。				4. 鋼材の材質は SS400、SN400A・B・Cとする。				4. 鋼材の材質は SS400、SN400A・B・Cとする。				4. 鋼材の材質は SS400、SN400A・B・Cとする。				4. 鋼材の材質は SS400、SN400A・B・Cとする。			
5. 高力ボルトは S10T、F10Tとする。				5. 高力ボルトは S10T、F10Tとする。				5. 高力ボルトは S10T、F10Tとする。				5. 高力ボルトは S10T、F10Tとする。				5. 高力ボルトは S10T、F10Tとする。				5. 高力ボルトは S10T、F10Tとする。			
6. 垂鉛メッキを施した場合に本表は使用できない。				6. 垂鉛メッキを施した場合に本表は使用できない。				6. 垂鉛メッキを施した場合に本表は使用できない。				6. 垂鉛メッキを施した場合に本表は使用できない。				6. 垂鉛メッキを施した場合に本表は使用できない。				6. 垂鉛メッキを施した場合に本表は使用できない。			
7. 大梁の内法長さが本表に示す最小長さ以下の場合せん断耐力が不足するため本表は使用できない。				7. 大梁の内法長さが本表に示す最小長さ以下の場合せん断耐力が不足するため本表は使用できない。				7. 大梁の内法長さが本表に示す最小長さ以下の場合せん断耐力が不足するため本表は使用できない。				7. 大梁の内法長さが本表に示す最小長さ以下の場合せん断耐力が不足するため本表は使用できない。				7. 大梁の内法長さが本表に示す最小長さ以下の場合せん断耐力が不足するため本表は使用できない。				7. 大梁の内法長さが本表に示す最小長さ以下の場合せん断耐力が不足するため本表は使用できない。			
8. 別途設計をした場合本標準図は使用しなくても良い。				8. 別途設計をした場合本標準図は使用しなくても良い。				8. 別途設計をした場合本標準図は使用しなくても良い。				8. 別途設計をした場合本標準図は使用しなくても良い。				8. 別途設計をした場合本標準図は使用しなくても良い。				8. 別途設計をした場合本標準図は使用しなくても良い。			
9. 継手部添板の切断はガス手動切断・シャー切断をしてはならない。				9. 継手部添板の切断はガス手動切断・シャー切断をしてはならない。				9. 継手部添板の切断はガス手動切断・シャー切断をしてはならない。				9. 継手部添板の切断はガス手動切断・シャー切断をしてはならない。				9. 継手部添板の切断はガス手動切断・シャー切断をしてはならない。				9. 継手部添板の切断はガス手動切断・シャー切断をしてはならない。			
H-500×200×10×16				H-600×200×11×17				H-194×150×6×9				H-244×175×7×11				H-294×200×8×12				H-340×250×9×14			
																							
全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)			
フランジ 24 M16 2 12 125 410				フランジ 24 M20 2 12 200 410				フランジ 16 M16 2 9 150 290				フランジ 16 M20 2 9 175 290				フランジ 24 M20 2 9 200 410				フランジ 24 M20 2 12 200 410			
ウェブ 8 M16 2 6 290 170				ウェブ 16 M20 2 9 290 440				ウェブ 4 M16 2 6 230 140				ウェブ 4 M20 2 9 170 140				ウェブ 4 M20 2 9 170 200				ウェブ 10 M20 2 9 170 320			
0.80m				0.97m				1.25m				1.52m				1.56m				1.56m			
H-500×200×10×16				H-600×200×11×17				H-194×150×6×9				H-244×175×7×11				H-294×200×8×12				H-340×250×9×14			
																							
全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)			
フランジ 24 M20 2 4 12 80 410				フランジ 24 M20 2 4 12 80 410				フランジ 16 M16 2 4 9 60 290				フランジ 16 M20 2 4 9 70 290				フランジ 24 M20 2 4 9 80 410				フランジ 24 M20 2 4 12 100 530			
ウェブ 10 M20 2 9 170 320				ウェブ 16 M20 2 9 290 440				ウェブ 4 M16 2 6 230 140				ウェブ 4 M20 2 9 170 140				ウェブ 4 M20 2 9 170 200				ウェブ 12 M20 2 9 290 200			
1.57m				1.46m				0.95m				1.17m				1.36m				1.65m			
H-390×300×10×16				H-440×300×11×18				H-488×300×11×18				H-588×300×12×20				H-700×300×13×24				H-800×300×14×26			
																							
全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)				全数量 径 数量 厚さ 幅 長さ (本) (mm) (枚) (mm) (mm) (mm)			
フランジ 24 M22 2 4 12 110 350				フランジ 32 M22 2 4 12 110 440				フランジ 32 M22 2 4 12 110 440				フランジ 32 M22 2 4 16 110 440				フランジ 40 M22 2 4 19 110 530				フランジ 40 M22 2 4 19 110 530			
ウェブ 8 M22 2 9 170 260				ウェブ 10 M22 2 9 170 320				ウェブ 10 M22 2 12 170 320				ウェブ 14 M22 2 9 170 440				ウェブ 18 M22 2 9 170 560				ウェブ 20 M22 2 12 170 620			
1.98m				2.33m				2.27m				2.52m				2.95m				3.01m			

訂正	年月日	備考		設計NO	図面NO
		株式会社歩デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax		工事名称 ポートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事	AK-007
				図面名称 鉄骨構造標準図 (7-4)	整理NO
				縮尺 A1: A3の200% A3: 1:50	

鉄骨構造標準図 7-5																					
小梁接合部																					
特記事項 1. 鋼材の材質は SS400 SN400A・B・Cとする。 2. ガセットプレートの材質は、大梁と同じものとする。 3. 高力ボルトは S10T・F10Tとする。 4. 大梁の横補剛材として使用する場合は別途計算の上決定する必要がある。 5. 本標準図は小梁の接合部を示すものであるが、別途設計を行う場合は本図を用いなくてよい。 6. 本標準図に記載されている耐力は参考値であって、本図を用いる場合は、耐力の確認を行うこと。 7. ボルト孔明けは、ドリル明けとする。 8. 小梁のたわみ量は算定していません。										 H-200×100 H-194×150 以上の場合 タイプ A  H-175×90 H-148×100 以下の場合 タイプ B  H-200×100 H-194×150 以上の場合 タイプ C  タイプ D  方杖材 $\theta=45^{\circ}$ L>300 且つ 2×H 2LS-65×65×6 の場合は方杖をいれる。 HTB 4-M16 b材取付はA-Eによる。 タイプ E											
記号	タイプ	細幅シ-ス 小梁 (B)	許容せん断耐力	大梁 (G)	HTB		G.P				記号	タイプ	中幅シ-ス 小梁 (B)	許容せん断耐力	大梁 (G)	HTB		G.P			
					N×径	許容せん断耐力	t	許容せん断耐力	P×n	A×B						N×径	許容せん断耐力	t	許容せん断耐力	P×n	A×B
BJ01		H-100×50×5×7	※[30.80]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	[59.23]	6.0	[39.13]	60×1	150×80	BJ51		H-148×100×6×9	[60.88]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	[59.23]	6.0	※[33.70]	60×1	150×80
BJ02			H-300×150 H-294×200 以上	2-M16	[59.23]	9.0	[58.70]	60×1	150×80	BJ52		H-300×150 H-294×200 以上		2-M16	[59.23]	9.0	※[50.55]	60×1	150×80		
BJ03			[49.46]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	[59.23]	6.0	※[45.93]	60×1	150×80	BJ53		H-194×150×6×9	[76.10]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	[59.23]	6.0	※[56.53]	60×1	90×140
BJ04		H-125×60×6×8		H-300×150 H-294×200 以上	2-M16	[59.23]	9.0	[68.89]	60×1	150×80	BJ54			H-300×150 H-294×200 以上	2-M16	※[59.23]	9.0	[84.79]	60×1	90×140	
BJ05		H-150×75×5×7	[53.45]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	[59.23]	6.0	※[52.72]	60×1	150×80	BJ55		H-244×175×7×11	[112.88]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M20	[92.38]	6.0	※[52.18]	60×1	90×140
BJ06			H-300×150 H-294×200 以上	2-M16	[59.23]	9.0	[79.09]	60×1	150×80	BJ56		H-300×150 H-294×200 以上		2-M20	[92.38]	9.0	※[78.27]	60×1	90×140		
BJ07			[63.87]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	※[59.23]	6.0	[59.52]	60×1	150×80	BJ57		H-294×200×8×12	[147.84]	H-300×150 H-294×200 以上	3-M20	[138.57]	9.0	※[109.25]	60×2	90×200
BJ08		H-175×90×5×8		H-300×150 H-294×200 以上	2-M16	※[59.23]	9.0	[89.29]	60×1	150×80	BJ58		H-340×250×9×14	[182.63]	H-350×175 H-340×250 以上	4-M20	[184.76]	9.0	※[140.23]	60×3	90×260
BJ09	D	H-200×100×5.5×8	[73.74]	H-298×149 H-244×175 以下	2-M16	[59.23]	6.0	※[56.53]	60×1	90×140	BJ59		H-390×300×10×13	[242.78]	H-400×200 H-390×300 以上	4-M22	[223.59]	12.0	※[178.28]	60×3	90×260
BJ10				H-300×150 H-294×200 以上	2-M16	※[59.23]	9.0	[84.79]	60×1	90×140	BJ60		H-440×300×11×18	[283.00]	H-450×200 H-440×300 以上	5-M22	[279.48]	12.0	※[217.42]	60×4	90×320
BJ11			※[75.19]	H-298×149 H-244×175 以下	3-M16	[88.85]	6.0	[79.35]	60×2	90×200	BJ61		H-482×300×11×15	[306.92]	H-500×200 H-482×300 以上	6-M22	[335.38]	12.0	※[256.55]	60×5	90×380
BJ12		H-248×124×5×8		H-300×150 H-294×200 以上	3-M16	[88.85]	9.0	[119.03]	60×2	90×200	BJ62		H-488×300×11×18	[306.92]	H-600×200 H-582×300 以上	6-M22	[335.38]	12.0	※[256.55]	60×5	90×380
BJ13		H-250×125×6×9	[90.23]	H-298×149 H-244×175 以下	3-M16	[88.85]	6.0	※[79.35]	60×2	90×200	BJ63		H-582×300×12×17	[413.09]	H-600×200 H-582×300 以上	7-M22	[391.28]	12.0	※[295.69]	60×6	90×440
BJ14			H-300×150 H-294×200 以上	3-M16	※[88.85]	9.0	[119.03]	60×2	90×200	BJ64		H-588×300×13×20	[413.09]	H-600×200 H-582×300 以上	7-M22	[391.28]	12.0	※[295.69]	60×6	90×440	
BJ15			※[107.62]	H-298×149 H-294×200 以上	3-M20	[138.57]	9.0	[109.25]	60×2	90×200	BJ65		H-692×300×13×20	[513.46]	H-700×300 H-692×300 以上	9-M22	[503.08]	16.0	※[498.61]	60×8	90×560
BJ16		H-300×150×6.5×9	[127.19]	H-300×150 H-294×200 以上	3-M20	[138.57]	9.0	※[109.25]	60×2	90×200	BJ66		H-700×300×13×24	[513.46]	H-700×300 H-692×300 以上	9-M22	[503.08]	16.0	※[498.61]	60×8	90×560
BJ17		H-346×174×6×9	※[130.45]	H-346×174 H-340×250 以上	4-M20	[184.76]	9.0	[140.23]	60×3	90×260	BJ67		H-792×300×14×22	[613.84]	H-800×300 H-792×300 以上	11-M22	[614.87]	16.0	※[602.97]	60×10	90×680
BJ18		H-350×175×7×11	[152.19]	H-350×175 H-340×250 以上	4-M20	[184.76]	9.0	※[140.23]	60×3	90×260	BJ68		H-800×300×14×26	[613.84]	H-800×300 H-792×300 以上	11-M22	[614.87]	16.0	※[602.97]	60×10	90×680
BJ19		H-396×199×7×11	※[167.41]	H-396×199 H-390×300 以上	5-M20	[230.95]	9.0	[171.22]	60×4	90×320	BJ69		H-890×299×15×23	[755.52]	H-900×300 H-890×300 以上	12-M22	※[670.77]	19.0	[777.99]	60×11	90×740
BJ20		H-400×200×8×13	[191.33]	H-400×200 H-390×300 以上	5-M20	[230.95]	9.0	※[171.22]	60×4	90×320	BJ70		H-900×300×16×28	[805.89]	H-900×300 H-890×300 以上	12-M22	※[670.77]	19.0	[777.99]	60×11	90×740
BJ21		H-446×199×8×12	[226.11]	H-446×199 H-440×300 以上	5-M20	[230.95]	9.0	※[171.22]	60×4	90×320	注：1. 小梁に小梁（2次小梁）がつく場合は大梁（G）を小梁と読みかえる。 2. 図中[]内の数値は参考許容せん断力とし※印は最低値を示す。 3. H-100×50、H-125×60、H-150×75、H-175×90、H-148×100の取付方法は、Bタイプ又はEタイプとする。										
BJ22		H-450×200×9×14	[254.38]	H-450×200 H-440×300 以上	5-M20	[230.95]	12.0	※[228.29]	60×4	90×320											
BJ23		H-496×199×9×14	[273.94]	H-496×199 H-482×300 以上	6-M20	[277.14]	12.0	※[269.60]	60×5	90×380											
BJ24		H-500×200×10×16	[304.38]	H-500×200 H-482×300 以上	6-M20	[277.14]	12.0	※[269.60]	60×5	90×380											
BJ25		H-600×200×11×17	[389.23]	H-600×200 H-582×300 以上	8-M20	[277.14]	12.0	※[269.60]	60×7	90×500											
耐力の単位:kN																					
2022.4.1 訂 一般社団法人 徳島県建築士事務所協会																					

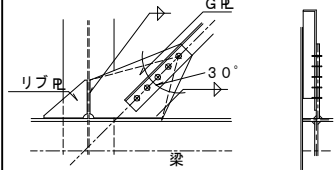
訂正	年	月	日											備 考	株式会社社デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 #連絡先 電話番号 #連絡先 Fax	作 成 発 行	承 認	工事名称 ポートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事 図面名称 鉄骨構造標準図 (7-5) 縮 尺 : A1: A3の200% A3: 1:50	設計NO 整理NO	図面NO AK-008

鉄骨構造標準図 7-7
(筋かい)

A. ターンバックル筋違 JIS A5540

- 1) ターンバックルボルト
JIS A 5542の規格品、性能評定品。
材質 SS400 (JIS G3101)
種類 羽子板ボルトJIS記号: S
- 2) ターンバックル胴
JIS A 5541の規格品、性能評定品。
材質 SS400(JIS G3101), ST
KM11A, 12A, 13A,
14A (JIS G3445)
種類 1種 (割枠式 JIS記号: ST)
2種 (パイプ式 JIS記号: PT)
- 3) 接合用高力ボルトは S10T及び F10Tとする。
- 4) ターンバックルボルトの羽子板部分に製造メーカーの略号を刻印にて明示すること。
- 5) 筋かい端部の接合はせん断接合である。

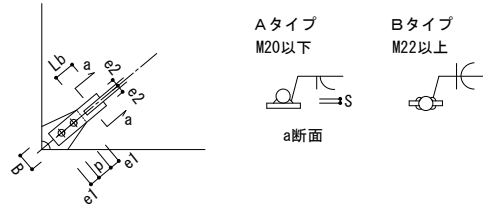
B. 平鋼、溝形鋼、山形鋼 筋違



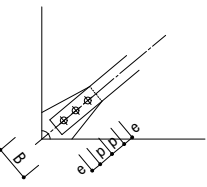
- 1) 使用鋼材 SS400・S400A・B
- 2) 筋違端部板の面内力だけでは力が伝達されない場合は、必ず水平あるいは鉛直のスチフナーをもうけ変形を防止し、十分な力を伝達させる対策を講じなければならない。
- 3) ガセットプレートの縁は第一ボルトの位置から筋違の軸線の左右各30度の線を切ってはならない。止むを得ずこれを切る場合は偏心による複合応力度の検討を行わなければならない。
- 4) 原則として梁は持出継手とし、ガセットプレートは梁心に合わせて溶接する。止むを得ず偏心する場合は局部変形防止の設計を行わなければならない。
- 5) すみ肉溶接の有効長さには、一辺の長さ 10S 以下は算入しない。
- 6) ガセットプレートの取付く部材厚はS以上とする。
- 7) トルシア形高力ボルトは S10T または、六角高力ボルトは F10T とする。
- 8) 特記なき寸法はmmとする。
- 9) ガセットプレートを実合せ溶接とする場合は詳細設計を行うものとする。
- 10) 柱梁とガセットプレートの接合部を変更する場合は詳細設計を行うものとする。
- 11) プレースの付く柱脚では引抜力はアンカーボルトで、水平力及び偏心力は根巻き鉄筋コンクリートによって処理するものとする。止むを得ず実施出来ない場合は引抜力水平力及び偏心力に対するアンカーボルトの設計を行わなければならない。
- 12) 本標準図に記載されていないものは別途詳細設計を行うこと。

壁面ブレース (床面ブレースもこれに準ずる)

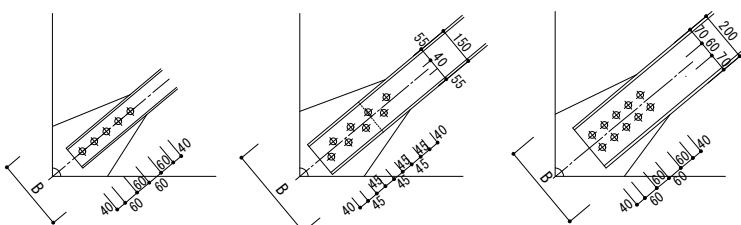
丸 鋼



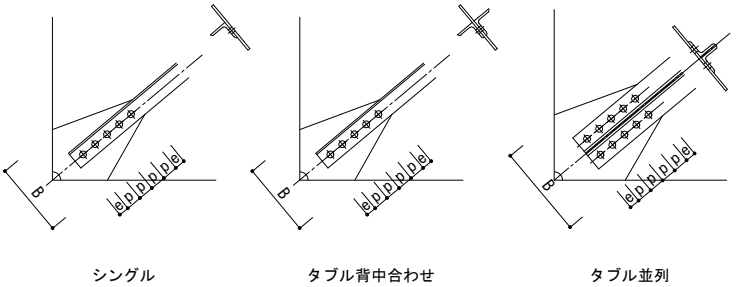
平 鋼



溝 形 鋼



山 形 鋼



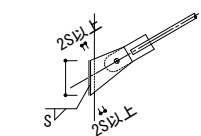
丸 鋼 (JISターンバックル筋かい)

e2は、平鋼を使用した場合の値

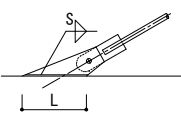
採 用 部 材	引張耐力 (kN)	gtxB 厚 x 幅	HTB (F10T)	p (mm)	e1 (mm)	e2 (mm)	Lb (mm)	S (mm)	溶接長 L (mm)		
									TYPE①	TYPE②	TYPE③
M12	21.0	6 x 60	1-M12	-	35	19.0	40	6	60	42	54
M14	28.7	6 x 60	1-M16	-	40	25.0	50	6	64	44	56
M16	38.6	9 x 70	1-M16	-	45	25.0	55	8	80	56	72
M18	48.1	9 x 70	1-M20	-	50	32.5	60	8	80	56	72
M20	60.6	9 x 80	1-M20	-	50	32.5	75	8	102	67	83
M22	74.7	12 x 80	1-M22	-	55	37.5	85	10	101	71	91
M24	87.7	12 x 90	2-M20	50	50	37.5	85	10	118	79	99
M27	113.8	12 x 90	2-M20	50	50	45.0	90	10	152	96	116
M30	139.3	12 x 100	2-M22	55	55	45.0	95	10	186	113	133
M33	172.6	12 x 110	2-M22	55	55	50.0	110	10	229	135	155

ガセットプレートの種類

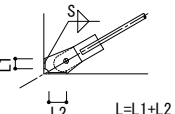
TYPE①



TYPE②



TYPE③

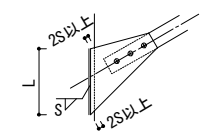


平 鋼

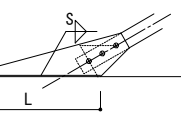
採 用 部 材	引張耐力 (kN)	gtxB 厚 x 幅	HTB (F10T)	p (mm)	e (mm)	S (mm)	溶接長 L (mm)		
							TYPE①	TYPE②	TYPE③
FB- 65 x 6	66.4	6 x 65	2-M16	60	40	6	117	71	83
FB- 75 x 6	80.5	6 x 75	2-M16	60	40	6	142	83	95
FB- 65 x 9	99.5	9 x 65	3-M16	60	40	8	131	82	98
FB- 75 x 9	120.7	9 x 75	3-M16	60	40	8	159	96	112
FB- 90 x 9	144.1	9 x 90	3-M20	60	40	8	190	111	127
FB-100 x 9	165.2	9 x 100	3-M20	60	40	8	218	125	141
FB- 90 x 12	192.0	12 x 90	3-M20	60	40	10	202	121	141
FB-100 x 12	220.3	12 x 100	4-M20	60	40	10	232	136	156
FB- 90 x 16	256.1	12 x 115	4-M20	60	40	10	270	155	175
FB-100 x 16	293.7	12 x 130	5-M20	60	40	10	309	175	195

ガセットプレートの種類

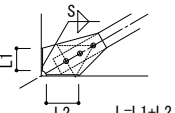
TYPE①



TYPE②



TYPE③

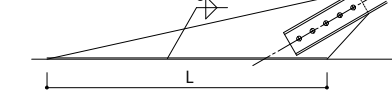


溝 形 鋼

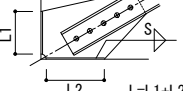
採 用 部 材	引張耐力 (kN)	gtxB 厚 x 幅	列	HTB (F10T)	S (mm)	溶接長 L (mm)		
						TYPE①	TYPE②	
[- 100 x 50 x 5 x 7.5	219.4	9 x 130	1	5-M20	8	161	177	
[- 125 x 65 x 6 x 8	322.6	9 x 180	1	6-M20	8	229	245	
[- 150 x 75 x 6.5 x 10	415.5	9 x 240	千鳥	8-M20	8	290	306	
[- 150 x 75 x 9 x 12.5	545.6	9 x 300	千鳥	9-M20	8	375	391	
[- 200 x 90 x 8 x 13.5	692.8	12 x 300	2	10-M20	10	472	488	
2[-100 x 50 x 5 x 7.5	509.4	12 x 205	1	5-M20	10	288	308	
2[-125 x 65 x 6 x 8	743.2	16 x 220	1	6-M20	13	327	353	
2[-150 x 75 x 6.5 x 10	1023.5	16 x 305	千鳥	8-M20	13	440	456	
2[-150 x 75 x 9 x 12.5	1311.7	16 x 380	千鳥	10-M20	13	557	583	
2[-200 x 90 x 8 x 13.5	1614.4	19 x 405	2	12-M20	16	563	595	

ガセットプレートの種類

TYPE①



TYPE②

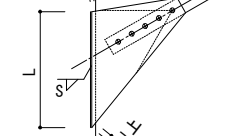


山 形 鋼 (シングル)

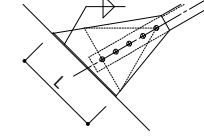
採 用 部 材	引張耐力 (kN)	gtxB 厚 x 幅	HTB (F10T)	p (mm)	e (mm)	S (mm)	溶接長 L (mm)		
							TYPE①	TYPE②	TYPE③
L- 65 x 65 x 6	128.8	9 x 90	5-M16	60	40	8	170	101	117
L- 75 x 75 x 6	153.5	9 x 95	5-M16	60	40	8	202	117	133
L- 75 x 75 x 9	220.8	9 x 125	5-M16	60	40	8	291	162	178
L- 75 x 75 x 12	274.7	9 x 160	5-M20	60	40	8	361	197	213
L- 90 x 90 x 7	202.4	9 x 120	4-M20	60	40	8	267	150	166
L- 90 x 90 x 10	295.4	9 x 165	5-M20	60	40	8	389	211	227
L- 90 x 90 x 13	374.8	12 x 160	6-M20	60	40	10	395	218	238
L-100 x 100 x 7	230.0	9 x 135	4-M20	60	40	8	303	168	184
L-100 x 100 x 10	336.6	9 x 185	5-M20	60	40	8	443	238	254
L-100 x 100 x 13	415.7	12 x 180	6-M20	60	40	10	438	239	259

ガセットプレートの種類

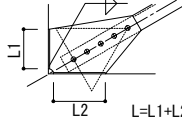
TYPE①



TYPE②



TYPE③

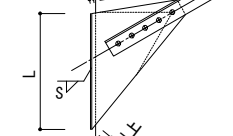


山 形 鋼 (ダブル背中合わせ)

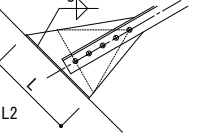
採 用 部 材	引張耐力 (kN)	gtxB 厚 x 幅	HTB (F10T)	p (mm)	e (mm)	S (mm)	溶接長 L (mm)		
							TYPE①	TYPE②	TYPE③
2L- 65 x 65 x 6	303.4	9 x 165	5-M16	60	40	8	399	216	232
2L- 75 x 75 x 6	359.9	9 x 190	5-M16	60	40	8	473	253	269
2L- 75 x 75 x 9	504.2	12 x 205	5-M20	60	40	10	531	286	306
2L- 75 x 75 x 12	655.3	12 x 255	5-M20	60	40	10	689	365	385
2L- 90 x 90 x 7	502.7	12 x 205	4-M20	60	40	10	529	285	305
2L- 90 x 90 x 10	692.8	12 x 270	5-M20	60	40	10	729	385	405
2L- 90 x 90 x 13	887.3	12 x 340	7-M20	60	40	10	933	487	507
2L-100 x 100 x 7	568.6	12 x 225	5-M20	60	40	10	598	319	339
2L-100 x 100 x 10	790.8	12 x 305	6-M20	60	40	10	832	436	456
2L-100 x 100 x 13	1009.7	12 x 385	8-M20	60	40	10	1062	551	571

ガセットプレートの種類

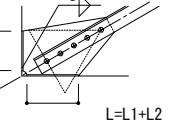
TYPE①



TYPE②



TYPE③

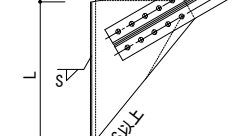


山 形 鋼 (ダブル並列)

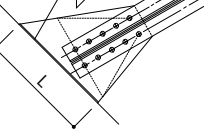
採 用 部 材	引張耐力 (kN)	gtxB 厚 x 幅	HTB (F10T)	p (mm)	e (mm)	S (mm)	溶接長 L (mm)		
							TYPE①	TYPE②	TYPE③
2L- 65 x 65 x 6	257.5	9 x 160	5x2-M16	60	40	8	339	186	202
2L- 75 x 75 x 6	306.9	9 x 185	5x2-M16	60	40	8	404	218	234
2L- 75 x 75 x 9	441.7	9 x 250	5x2-M16	60	40	8	581	307	323
2L- 75 x 75 x 12	549.4	9 x 315	5x2-M20	60	40	8	722	377	393
2L- 90 x 90 x 7	404.8	9 x 240	4x2-M20	60	40	8	533	283	299
2L- 90 x 90 x 10	590.8	9 x 330	5x2-M20	60	40	8	777	405	421
2L- 90 x 90 x 13	749.6	12 x 320	6x2-M20	60	40	10	789	415	435
2L-100 x 100 x 7	459.9	9 x 270	4x2-M20	60	40	8	605	319	335
2L-100 x 100 x 10	673.1	9 x 370	5x2-M20	60	40	8	885	459	475
2L-100 x 100 x 13	831.4	12 x 355	6x2-M20	60	40	10	875	458	478

ガセットプレートの種類

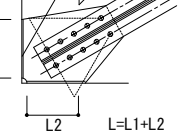
TYPE①



TYPE②



TYPE③



2022. 4. 1 訂 一般社団法人 徳島県建築士事務所協会

電気工事仕様書

- I. 工事名
ポートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事(電気)
- II. 工事箇所
徳島県鳴門市撫養町大桑島字北ノ浜8番1の一部、8番2の一部、8番5、8番6、9番1、9番11、9番17、9番18、9番21、9番22の一部及び9番24、9番25並びに字寧岩浜48番1、48番11及び48番43の各一部

III. 建物概要

建物名称	ポートレース鳴門ウズホールトイレ	構造	鉄骨造	階数	地上1階
建築基準法による延床面積 (㎡)			消防法施行令別表第1の区分		

IV. 工事項目

種 目	工 事 概 要
電灯設備工事	トイレ設置にかかる電灯設備工事
電灯設備工事	トイレ設置にかかるコンセント設備工事
弱電設備工事	トイレ設置にかかる弱電設備工事

V. 共通仕様

特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)」(ただし、改修工事の場合は「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)」)及び「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(令和4年版)」による。なお、本工事が建築工事又は機械設備工事を含む場合は、それぞれの工事に係る標準仕様書による。また、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「電気設備工事監理指針(令和4年版)」を参考とする。

VI. 特記仕様1(一般共通事項)

1. 本工事に必要な工事用電力、水などの費用及び官公署への諸手続などの費用は本工事に含む。
官公署その他への届出手続等は(標仕 <I>1.1.3)により行う。なお、(監理指針 <I>1.1.3)を参考とする。
自家用電気工作物の保安規程((I)本工事に關し定める (2)既存施設の保安規程を適用(増築等))
上記で(I)の場合の工事、維持、運用に關する保安業務 ((本工事) ・ 別途)
本受電後引渡しまでの基本料金 ((本工事) ・ 別途)
2. 工事写真はしゅん工、着工前、機材、施工状況の順に写真帳に整理し、提出する。しゅん工については、工事目的物の状態が、また、機材、施工状況等については、不可視部分の出来形が写真で的確に確認できること。国土交通大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領」を参考とする。
3. 完成図等
(1) 本工事は電子納品の対象工事である。
(注) 電子納品とは、「徳島県電子納品運用ガイドライン【建築工事編】」に基づいて調査、設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品することをいう。
(2) 工事のしゅん工に際し、次の図書、資料を作成し、監督員と協議の上、提出する。
・竣工図の製本×3部(2つ折、原因版) ・竣工図の電子データ(CD-R)×2部 ・保全に関する資料×1部
・工事写真：写真帳(着事前、竣工)×2部、電子データ×2部
・使用材料一覧表(4部(うち3部は竣工図表紙裏面に貼付)、電子データ2部)
(注) ・竣工図(製本、データ共)については、必要な関係図面(原因、CADデータ等を貸与)を修正して作成すること。
・竣工図の電子データ(CD-R)は、CADデータ(SFC形式及びオリジナル形式)及びPDFデータとする。
4. 工事の着手に先立ち工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書を作成し、監督員に提出する。また、品質計画及び工種別の施工計画書並びに施工図等を当該工事の施工に先立ち作成し、監督員に提出する。品質計画及び施工図等については、監督員の承諾を受ける。(標仕 <I>1.2.2、<I>1.2.3)
品質管理は、適切な時期に品質計画に基づき確認、試験又は検査を行う。結果が「管理値を外れるなど疑義が生じた場合は、品質計画にしたがって適切な処理を施す。
また、その原因を検討し、再発防止のための必要な処置をとる。(標仕 <I>1.3.4、監理指針 <I>1.3.4)
使用する機材が、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料(製作図、試験成績書を含む)を監督員に提出する。(JISマーク等表示品を除く)(標仕 <I>1.4.2)
上記の施工計画書には、「地下埋設物等の近接作業に関する事項」を設けること。
5. 設計図書に疑義が生じたり、現場の納まり又は取合い等の関係で設計図書によることが困難又は不都合な場合が生じたときは、「疑義に対する協議等」(標仕 <I>1.1.8)による。
6. 技能士の適用
技能士の適用については、次の技能検定作業(以下「作業」という。)のうち、各工事に適用する作業を指定するものとする。
技能士は、職業能力開発促進法による一級又は二級技能士の資格を有する者とし、資格を証明する資料を監督員に提出すること。技能士は適用する工事作業中、1名以上の者が自ら作業するとともに、他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。
技能士は、氏名、検定職種、技能士番号等、県が指定した内容を記載した名札等により、資格を明示するものとする。
なお、指定のない作業についてもその活用を図るよう努めることとする。

○ 印 … 適用作業

工事項目	技能検定職種	技 能 検 定 作 業
仮設	とび	・ とび作業
鉄筋	鉄筋施工	・ 鉄筋組立て作業
コンクリート	コンクリート 圧送施工	・ コンクリート圧送工事作業
型枠	型枠施工	・ 型枠工事作業
鉄骨	鉄工	・ 構造物鉄工作業
防水	防水施工	・ アスファルト防水工事作業 ・ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塩化ビニル系シート防水工事作業 ・ セメント系防水工事作業 ・ シーリング防水工事作業 ・ 改質アスファルトシートーチ工法防水工事作業 ・ FRP防水工事作業
タイル	タイル張り	・ タイル張り作業
木	建築大工	・ 大工工事作業
屋根及びとい	建築板金	・ 内外装板金作業
	かわらぶき	・ かわらぶき作業
金属	建築板金	・ 内外装板金作業

工事項目	技能検定職種	技 能 検 定 作 業
左官	左官	・ 左官作業
建具	建具製作 サッシ施工 ガラス施工	・ 木製建具手加工作業 ・ 木製建具機械加工作業 ・ アルミ製室内建具製作作業 ・ ビル用サッシ施工作業 ・ ガラス工事作業
塗装	塗装	・ 建築塗装作業
内装	内装仕上げ 施工	・ プラスチック系床仕上げ工事作業 ・ カーペット系床仕上げ工事作業 ・ 鋼製地下工工事作業 ・ ボード仕上げ工事作業
配管	表装	・ 表具作業 ・ 壁装作業
配管	配管	・ 建築配管作業
植栽	造園	・ 造園工事作業
機械設備	冷凍空気調和 機器施工	・ 冷凍空気調和機器施工作業

7. 本工事の施工及び管理にあたり法規上必要となる有資格者については、工事着手前に資格者名簿を提出する。
8. 本工事のうち建築工事、電気工事及び管工事について下請業者を使用する場合は、工事の施工に十分な能力と経験を有した者を選定すること。
9. 機器類は、図示する形状又は配管などの取出し位置等により、特定製造者の特定の製品を指定若しくは限定しない。
10. 既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。(改修標仕 <I>2.11.3)
梁、スラブ等の構造体貫通の場合は、施工方法について監督員の確認を受けた後に施工する。
11. 本工事の施工に伴い既存部分を汚染又は損傷した場合は、既成にならいい補修する。
12. 他工事との取り合いは下表による。

工 事 項 目	建築工事	電気工事	管 工 事	空調工事	別途工事	備 考
はり貫通部のスリーブ		○	○	○		
同上補強	○					
盤・便器等の箱入れ		○	○	○		
同上補強	○					
天井埋込個所の天井材の切込み	○					
	○					

13. 発生材の処理等は、「発生材の処理等」(標仕 <I>1.3.9)により行う。
(1) 産業廃棄物の種類ごとに次の処分場を指定する。なお、本工事に係る個別契約を処分許可業者と交わすこと。

種 類	処分許可業者の会社名 (処分区分)	優良	所 在 地 処 分 地	運搬距離 (km)	処分費 (税抜、円)	単位

- (注) 表中「優良」欄に丸印の入っている業者は、「徳島県優良産業廃棄物処理業者の認定業者」であることを示す。
- ・ コンクリート・アスファルト類の搬出先については、中間処理施設のみとする。木材については、50kmの範囲内にある木材再資源化施設への搬出を原則とする。
- ・ 上記以外の許可業者の処分場で処分しても差し支えないが、増額変更の対象とはしない。また、この場合、処分単価の見積書を求め、減額変更を行うことができる。
- なお、上記の処分場が徳島県優良産業廃棄物処理業者(以下、「優良産廃処分業者」という。)に認定されているとき、処分場を変更する場合は原則として優良産廃処分業者に変更すること。ただし、諸般の事情により優良産廃処分業者以外の処分場で処分を行う場合は、理由書を監督員に提出すること。
- (2) 解体前に大気汚染防止法に基づくアスベスト等の特定建築材料に該当するものが使用されていないか調査し、あれば監督員の指示に従うこと。既存の分析調査結果がある場合は、受注者がその結果を書類等により確認すること。なお、工事内容に変更がある場合においても同様とする。
- ・ 調査結果を石綿事前調査結果報告システムにより、労働基準監督署及び自治体に報告すること。
監督員へも結果を提出すること。
・ 調査結果は3年間保存すること。
・ 調査結果の概要を公衆が見やすい場所に掲示すること。
・ 分析によりアスベスト含有調査を行う場合は、JIS A 1481-1Iによるところ。
- (3) PCBを含む機器は、調査を添えて引き渡しとする。
- (4) 空調機等の整備や撤去処分を行う場合は、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律をはじめとする関係法令に基づき、作業や手続きを行う。家電リサイクル法に該当する機器については、家電リサイクル法により処理すること。
- (5) 受注者は、工事で発生する産業廃棄物を保管する場合、又は自ら運搬する場合においては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の規定を遵守すること。
- (6) 受注者は、建設副産物が排出される工事にあたっては、建設発生土は建設発生土調査、産業廃棄物は産業廃棄物管理票(マニフェスト)により、適正に処理されているか確認するとともに、監督員に建設発生土搬出調査(様式3)を提出しなければならない。なお、監督員等の指示があった場合は直ちに産業廃棄物管理票の写しを提示しなければならない。
- (7) 資源の有効な利用の促進に関する法律(以下「資源有効利用促進法」という。) 及び建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(以下「建設リサイクル法」という。) に基づく対応は、以下のとおり行うこと。
- ・ 受注者は、資源有効利用促進法に基づく建設業に属する事業を行う者の再生資源の利用に関する判断の基準となるべき事項を定める省令(H3. 10. 25建設省令第19号) 第8条で規定される工事又は建設リサイクル法施行令第2条で規定される工事(以下「一定規模以上の工事」という。) において、コンクリート(二次製品を含む。)、土砂、碎石、加熱アスファルト混合物又は木材を工事現場に搬入する場合には、(一財)日本建設情報総合センターの建設副産物情報交換システム(以下「COBRIS」という。) により再生資源利用計画書を作成し、監督員の確認を受けること。
- ・ 受注者は、資源有効利用促進法に基づく建設業に属する事業を行う者の指定副産物に係る再生資源の利用の促進に関する判断の基準となるべき事項を定める省令(H3. 10. 25建設省令第20号) 第7条で規定される工事又は一定規模以上の工事において、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥又は建設混合廃棄物を工事現場から搬出する場合には、COBRISにより再生資源利用促進計画書を作成し、監督員の確認を受けること。

- ・ 受注者は、上記計画書を工事現場の見やすい場所に掲示(デジタルサイネージによる掲示も可)すること。
- ・ 受注者は、上記計画書に変更が生じた場合は、速やかに計画を変更し、その変更の内容を監督員に報告すること。
- ・ 受注者は、工事完了後速やかにCOBRISにより再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を作成し、監督員に提出すること。
- ・ 受注者は、上記計画書及び実施書を工事完成後5年間保存すること。
- ・ 受注者は、COBRISの入力において、資源の供給元及び搬出する副産物の搬出先について、その施設名、施設の種類及び住所を必ず入力すること。ただし、パージン材を使用する生コンクリート及び購入土を除くものとする。
- (8) 受注者は、建設リサイクル法に基づく対象建設工事(特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が建設リサイクル法施行令で定める基準以上のもの)においては、工事現場の公衆の見やすい場所に工事着手前までに「建設リサイクル法通知済証」を掲示し、工事しゅん工検査が終了するまで存置しておかなければならない。また、「建設リサイクル法通知済証」掲示後の全景写真は電子納品の対象書類とし、「徳島県電子納品運用ガイドライン【建築工事編】」に基づき提出することとする。なお、「建設リサイクル法通知済証」は契約締結後から工事着手日までの期間に発注者から支給することとする。
14. 本工事の着手に際し、火災保険等(火災保険、建設工事保険その他の保険(これに準ずるものを含む。))を請負額に応じて付保する。(標準請負契約約款 第55条)
- (1) 対 象 物 工事目的物及び工事材料(支給材料を含む)について付保する。
- (2) 付保除外工事 次に掲げる単独工事については、付保を除外できる。
・ 杭及び基礎工事 ・コンクリート躯体工事 ・屋外付帯工事
・ その他実状を判断のうえ必要がないと認めた場合(外壁補修工事等)
- (3) 付保する時期及び金額 鉄筋コンクリート造の場合は躯体工事完了時に、木造及び鉄骨造の場合は基礎工事完了時に、請負金額相当額を付保する。
また、模様替え工事等については、工事着手時に請負金額相当額を付保する。
工事完成期日に14日を加えた期日とする。なお、工事延伸した場合には保険の期間も延長する。
付保する時期以降に出来高払を行う場合は、受注者は保険契約の証券の写しを出来高払の書類に添付する。

15. 工事実績情報の登録

受注者は、請負代金額が500万円以上の工事については、工事実績情報システム(コリンズ)に基づき、工事実績情報として、「登録のための確認のお願い」を作成し、監督員の確認を受けたのちに、次に示す期間内に登録機関に登録しなければならない。ただし、期間には、土曜日、日曜日、祝日等は含まない。

- (1) 工事受注時 契約締結後10日以内
(2) 登録内容の変更時 契約変更締結後10日以内
(3) 工事完成時 工事完成後10日以内

なお、登録内容の変更は、請負代金額、工期、技術者等に変更が生じた場合に行うものとする。

登録後は速やかに、登録機関が発行する「登録内容確認書」を監督員に提出する。

なお、変更時と工事完成時の間が10日間に満たない場合は、変更登録を省略することができる。

16. 受注者は、本工事の一部を下請に付する場合には、徳島県内に主たる営業所を有するものの中から優先して選定するように努めなければならない。なお、請負対象工事額(設計金額)が1億円以上の工事については、徳島県内に主たる営業所を有するもの以外と下請契約する場合は、県内営業所を選定しない理由を記した理由書を事前に監督員に提出しなければならない。

17. 県内産資材の使用

- (1) 受注者は、木材以外の建設資材を使用する工事を施工する場合、原則として県内産資材を使用しなければならない。ただし、特段の理由がある場合はこの限りでない。なお、WTO対象工事については、県内産資材を優先して使用するよう努めるものとする。
- (2) 受注者は、木材以外の建設資材について、県内産資材の別を施工計画書に記載するものとする。また、請負金額が500万円以上の工事について、県内産資材以外の資材を使用する場合は、県内産資材を使用できない理由を施工計画書に記載すると共に、確認資料を事前に監督員に提出し、承諾を得なければならない。

県内産資材(次のいずれかに該当するもの)

- ① 材料の主な部分を県内産出の原材料を使用している製品
② 徳島県内の工場で加工、製造された製品
注1 部材、部品が県外製品であっても、県内の工場で加工、製造した製品(二次製品)であれば県内産資材として取り扱う。
注2 県内企業が県外に立地した工場(自社工場)で加工、製造した製品も県内産資材として取り扱う。
注3 公共建築工事標準仕様書その他関連する示方書等の基準を満たす資材、製品であること。

18. 県産木材の使用

- (1) 受注者は、工事標識、指定仮設材及びコンクリート打設用型枠を使用する場合、県産木材を使用しなければならない。ただし、特段の理由がある場合にはこの限りでない。
- (2) 県産木材とは、「徳島県内の森林で育成した木材」のことであり、次のものが該当する。
① 徳島県木材認証制度により、県内産であることが「産地認証」された木材
② ①以外においては、徳島県内の森林で育成したことが確認された木材
- (3) 受注者は、請負金額が500万円以上の工事について、県産木材以外の木材を使用する場合には、県産木材を使用できない理由を施工計画書に記載すると共に、確認資料を事前に監督員に提出し、承諾を得なければならない。
- (4) 受注者は、県産木材を使用する前に徳島県木材認証機構から発行される「産地認証」証明書の写しを監督員に提出しなければならない。
- (5) 県内の森林から直接調達するなど、前項により難い場合は、木材調達先の産地及び相手の氏名等を記入した書類を監督員へ提出しなければならない。

19. 県内産再生砕石の原則使用

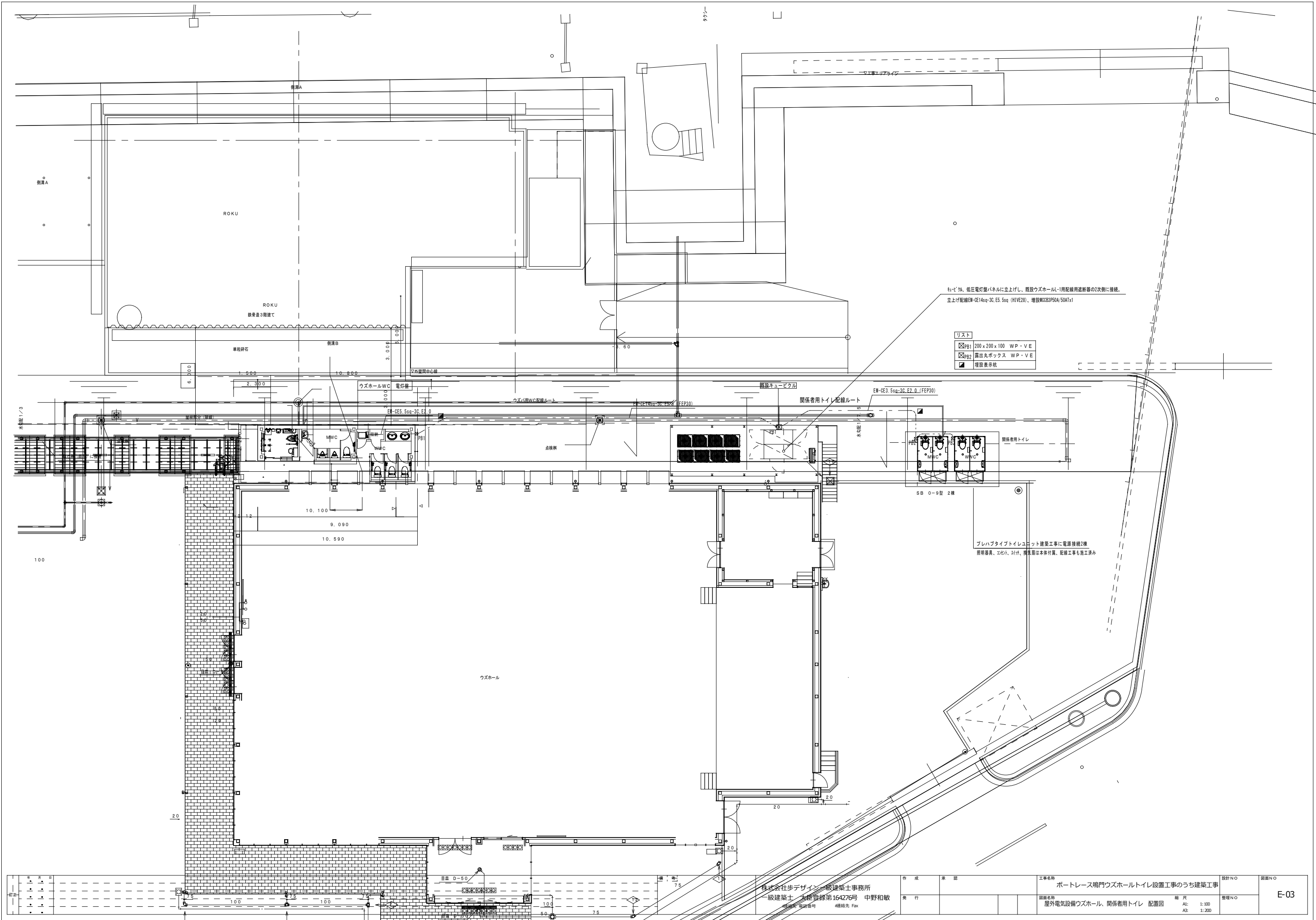
受注者は、再生砕石を使用する場合、県内の再資源化施設(廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和45年法律第137号)第15条第1項に基づく許可を有する施設(同法第15条の2の5第1項に基づく変更の許可において同じ)で製造された再生砕石を原則として使用しなければならない。

20. 受注者は、本工事で使用する建築材料・製品等(以下「建材等」という。)の発注の際には、発注前に品質及び性能に関して記載された施工計画書及びその証明となる資料を監督員へ提出しなければならない。
21. 受注者は、徳島県内に主たる営業所を有する者から調達した建材等(以下「県内企業調達建材等」という。)を優先して使用しなければならない。また、県内企業調達資材等の別を施工計画書に記載するものとする。なお、県内企業調達建材等以外を使用する場合は、県内企業調達建材等を使用しない理由を施工計画書に記載し、監督員の承諾を得なければならない。
22. 工事現場において、現場代理人、監理技術者、主任技術者は確認のため、名札を着用する。
名札には現場代理人、監理技術者、主任技術者の別、氏名、会社名、工事名を記載し、顔写真を添付すること。
23. 工事現場には工事標識を監督員の指示に従って見やすい場所に設けること。
24. 受注者は、工事の施工箇所及び周辺にある地上地下の既設構造物について、工事(仮囲い等仮設材設置を含む)着手までに調査を行い「支障物確認書」を監督員に提出し、監督員の確認を受けてから、工事着手すること。
地下埋設物への影響が予想される場所では、施工に先立ち、原則として試掘を行い、当該埋設物の種類、位置(平面・深さ)、規格、構造等を確認しなければならない。
- 受注者は、工事箇所及びその周辺にある地上地下の既設構造物に対し、支障を及ぼさないような措置を施さなければならない。万一、損傷を与えた場合は、ただちに監督員に報告するとともに、施設の運営に支障がないよう受注者の負担でその都度補修又は補償すること。

印	氏名	日	備考	株式会社デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 連絡先 電話番号 連絡先 Fax	作成承認 発行	工事名称 ポートレース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事 図面名称 電気工事特記仕様書 (1)	設計NO 縮尺 整理NO	図面NO E-01
---	----	---	----	---	------------	--	--------------------	--------------

43. 次第により中間検査の対象工事となった場合は、原則として次第の実施回数以上の中間検査を実施するものとする。ただし、工事検査員が認める場合は、一般入札工事に限り、これによりよいことができる。
- | 当初請負対象額 | 一般入札工事 | 低入札工事 |
|--------------|--------|-------|
| 3千万円未満 | － | 1回 |
| 3千万円以上5千万円未満 | － | 2回 |
| 5千万円以上1億円未満 | 1回 | 2回 |
| 1億円以上 | 2回 | 3回 |
- (注) ・低入札工事とは、低入札価格調査工事の調査基準価格を下回って落札した工事という。
一般入札工事とは、低入札工事以外の工事という。
- ・中間検査の実施時期は、当該工事の工程を考慮し施工上の重要な時点で行うものとし、契約締結後速やかに監督員と協議すること。
 - ・中間検査が部分払検査と同時期になる場合は、中間検査を省略することが出来る。
44. 工事に影響のある範囲内の重要備品等(有(無))
- | 備品等名称 | |
|-------|--|
| 保管場所 | |
| 注意事項 | |
45. 仮設トイレの洋式化
- 受注者は仮設トイレを設置する場合、次のとおりとしなければならない。ただし、特段の理由がある場合はこの限りではない。
- ・当初請負対象金額（設計金額）5千万円未満の工事
原則として「洋式トイレ」を設置しなければならない。また、現場従事者に女性が含まれる場合、設置する仮設トイレは、「女性専用トイレ(快適トイレ)」とする。
 - ・当初請負対象金額（設計金額）5千万円以上の工事
原則として「快適トイレ」を設置しなければならない。また、現場従事者に女性が含まれる場合は、原則として「女性専用トイレ(快適トイレ)」を設置しなければならない。
- 受注者は、仮設トイレを設置した場合、「仮設トイレ設置報告書」を監督員に提出しなければならない。
なお、洋式トイレとは、和式トイレの便座部分を洋式化したトイレのこと。
快適トイレとは、洋式トイレのうち、防災対策・施設強化などが実施された。女性が利用しやすい仮設トイレのこと。
46. デジタル工事写真の小黒板情報電子化
- 受注者は、デジタル工事写真の小黒板情報電子化の実施を希望する場合は、監督員の承諾を得たうえで、デジタル工事写真の小黒板情報電子化対象工事（以下、「対象工事」という）とすることができる。
対象工事は、徳島県CALS/ECホームページ掲載の「デジタル工事写真の小黒板情報電子化の運用について（県土整備部）」に記載された全ての内容を適用することとする。
47. 受注者は、足場を設置する場合、組立解体時において、作業前に施工手順を確認し、倒壊や資材落下に対する措置を講じなければならない。特に、飛来落下の恐れのある巾木やメッシュシート等の資機材については、足場の上に置きせず、設置又は落下するまでは、番線等により固定を行うこと。
また、強風、大雨、大雪等の悪天候のため、作業の実施について危険が予想されるときは、作業を中止すること。

[illegible]



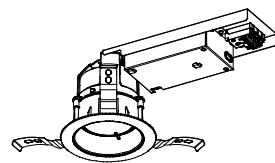
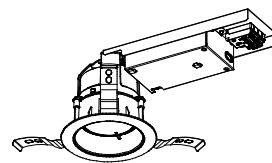
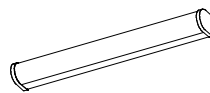
※「ベ」が、低圧電灯盤パネルに立上げし、既設ウズホール1用配線用遮断器の2次側に接続。
立上げ配線EM-CE14sq-3C、E5.5sq (HIVE20)、増設MCCB3P50A/50ATx1

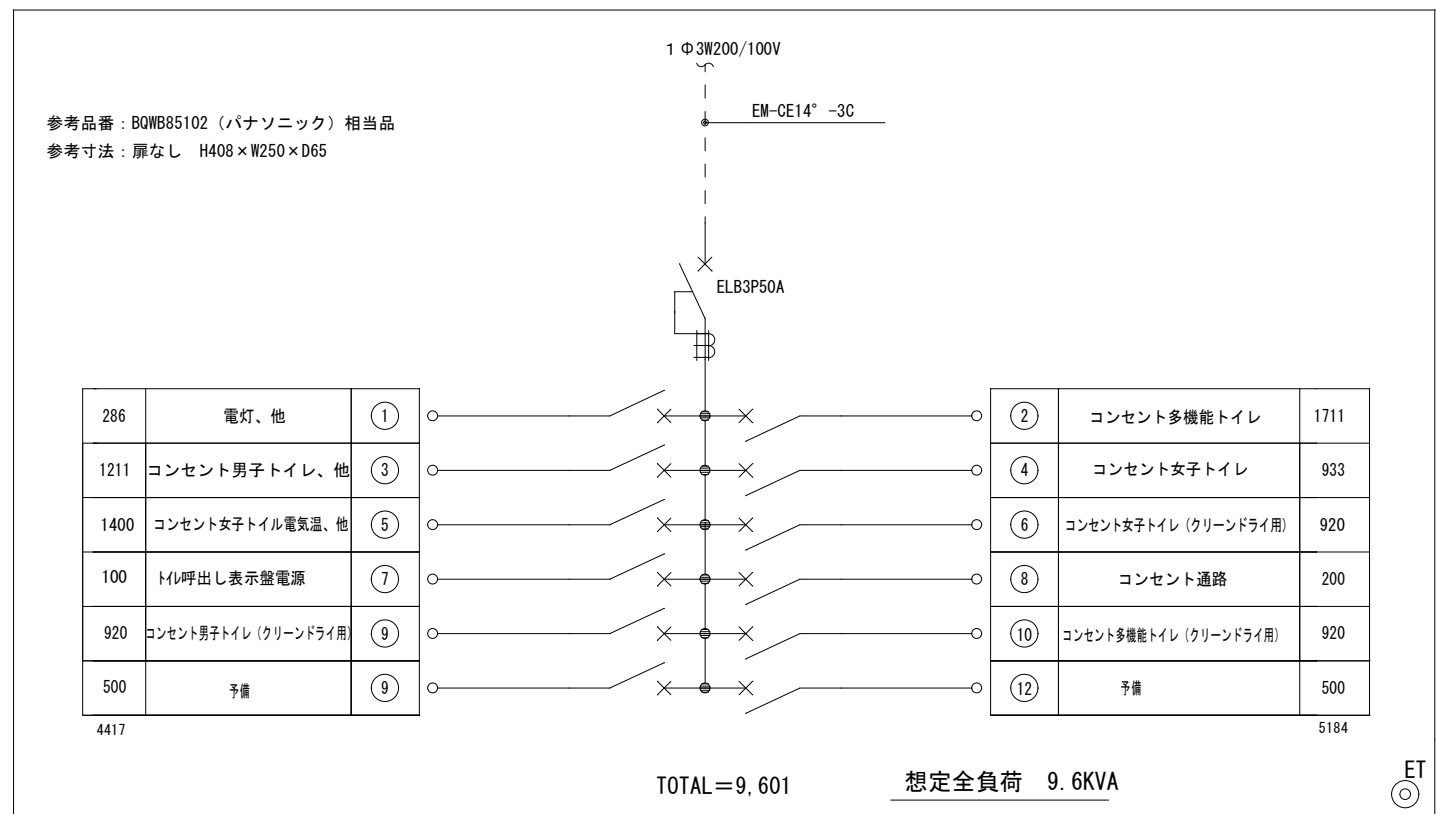
リスト	
☒ PB1	200 x 200 x 100 WP・VE
☒ PB2	露出丸ボックス WP・VE
☒	埋設表示板

プレハブタイプトイレユニット建築工事に電源接続2棟
照明器具、コンセント、MFC、換気扇は本体付属、配線工事も施工済み

株式会社デザイン・級建築士事務所 一級建築士 登録第164276号 中野和敏 電話番号 03-XXXX-XXXX 連絡先 Fax		作成 承認		工事名称 ポートルース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事		設計NO
発行				図面名称 屋外電気設備ウズホール、関係者用トイレ 配置図	縮尺 A1: 1:100 A3: 1:200	整理NO
				図面NO E-03		

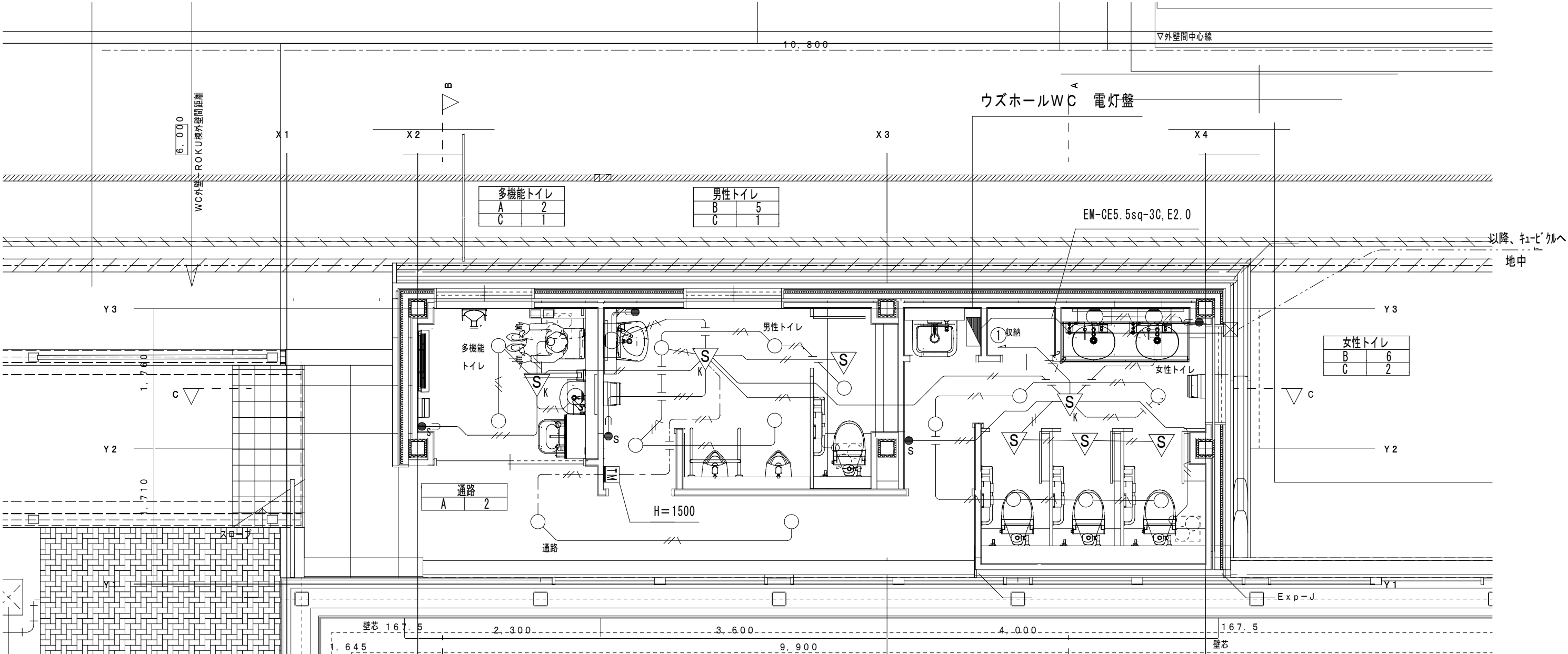
照明器具姿

A	B	C
1500ユニット交換形DLー般形  消費電力：11.1W（AC200V時） 器具光束：1,550lm 固有エネルギー消費効率：139.6lm/W（AC200V時） 相関色温度：5000K 平均演色評価数（Ra）：83 埋め込みサイズ：Φ100 定格電圧：AC100V～242V 寿命：40,000時間（光束維持率85%） 東芝 LEKD153023N-LS9 相当品	1000ユニット交換形DLー般形  消費電力：7.9W（AC200V時） 器具光束：1,030lm 固有エネルギー消費効率：130.3lm/W（AC200V時） 相関色温度：5000K 平均演色評価数（Ra）：83 定格電圧：AC100V～242V 寿命：40,000時間（光束維持率85%） 東芝 LEKD103023N-LS9 相当品	LEDブラケットランプ別売  推奨ランプ：LDM20SS・N／10／10組み合わせ時 消費電力：10.0W（AC200V時） 器具光束：810lm 固有エネルギー消費効率：81.0lm/W（AC200V時） 天井・壁面兼用、縦向取付不可 相関色温度：5000K 平均演色評価数（Ra）：83 定格電圧：AC100V～242V 東芝 LEDB83013 相当品



ウズホールWC 電灯盤結線図

年	月	日	E-04	株式会社歩デザイン一級建築士事務所 一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏 連絡先 電話番号 連絡先 Fax	作成	承認	工事名称 ポートルース鳴門ウズホールトイレ設置工事のうち建築工事	設計NO	図面NO E-04			
年	月	日										
年	月	日										
年	月	日										
年	月	日			発行				図面名称 照明器具姿・電灯盤結線図	縮尺 A1: NON A3: NON	整理NO	

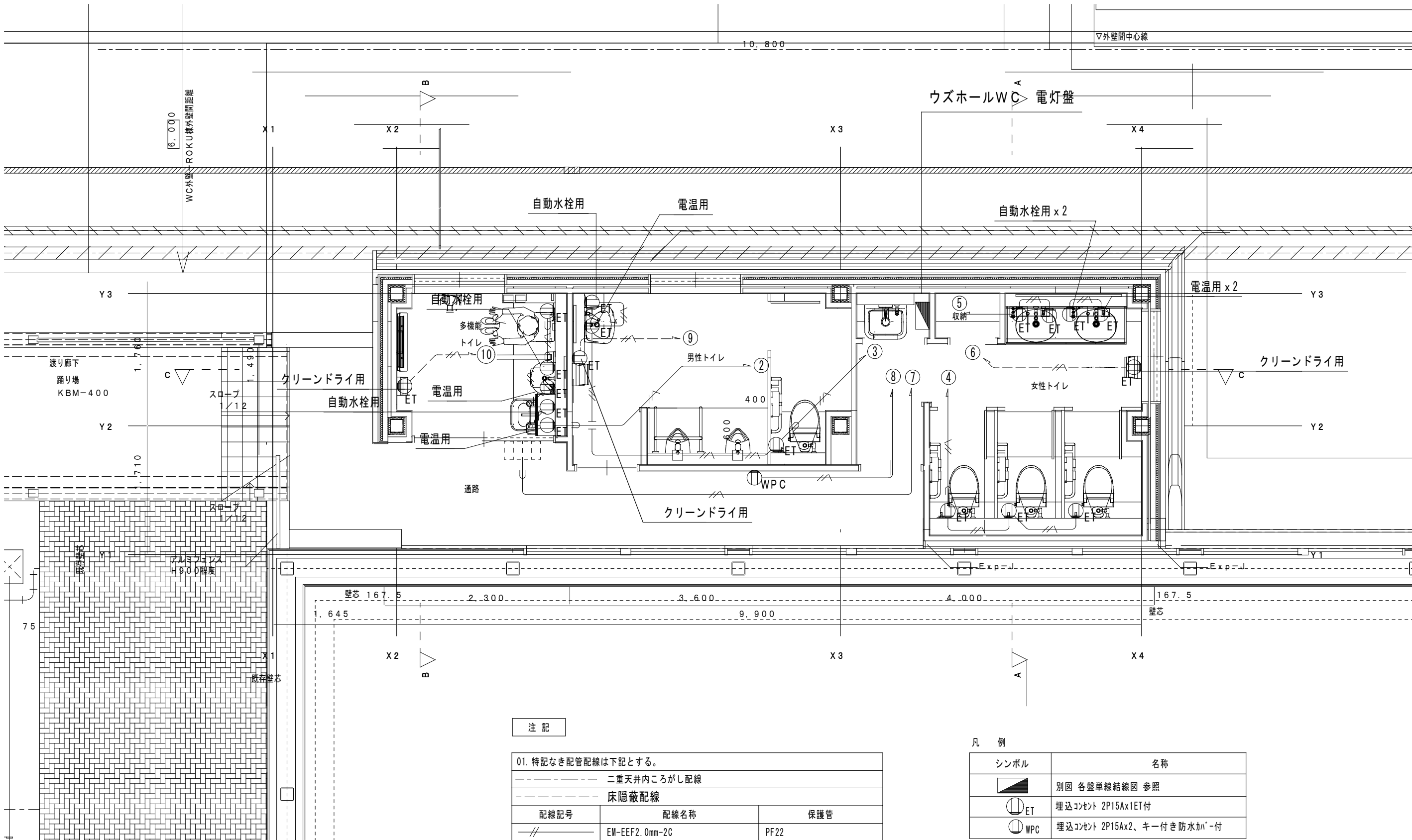


凡 例

記 号	名 称	仕 様
	電灯盤	別図 各盤単線結線図 参照
	LEDタライト	別図 照明器具姿図 参照
	LEDフタケットライト	別図 照明器具姿図 参照
	人感センサー	人感センサー換気扇連動型 (WTK2411K)
	人感センサー	子器 (WTK2911K)
	人感センサー切替スイッチ	照明、換気扇2連用 (WTA1711W)
	埋込スイッチ	1P15Ax1金属プレート付け
	タイムスイッチ	電子式24時間式、10年間停電補償 スイッチボックス取付タイプ (TB50)

注 記

01. 隠蔽部の配線立上げ・引下げは保護管に收容すること。		
02. 特記なき配管配線は下記とする。		
03. スイッチ類は、監理者の承認を得て配置を決定すること。 人感センサー切替スイッチは、床から1,800程度の位置として誤操作防止に配慮すること		
二重天井内ころがし配線		
床隠べい配管配線		
配線記号	配線名称	保護管
—//—	EM-EEF1. 6mm-2C	PF16
—///—	EM-EEF1. 6mm-3C	PF22
—//\—	EM-EEF1. 6mm-3C (1E)	PF22
—// 2.0 —	EM-EEF2. 0mm-3C (1E)	PF22

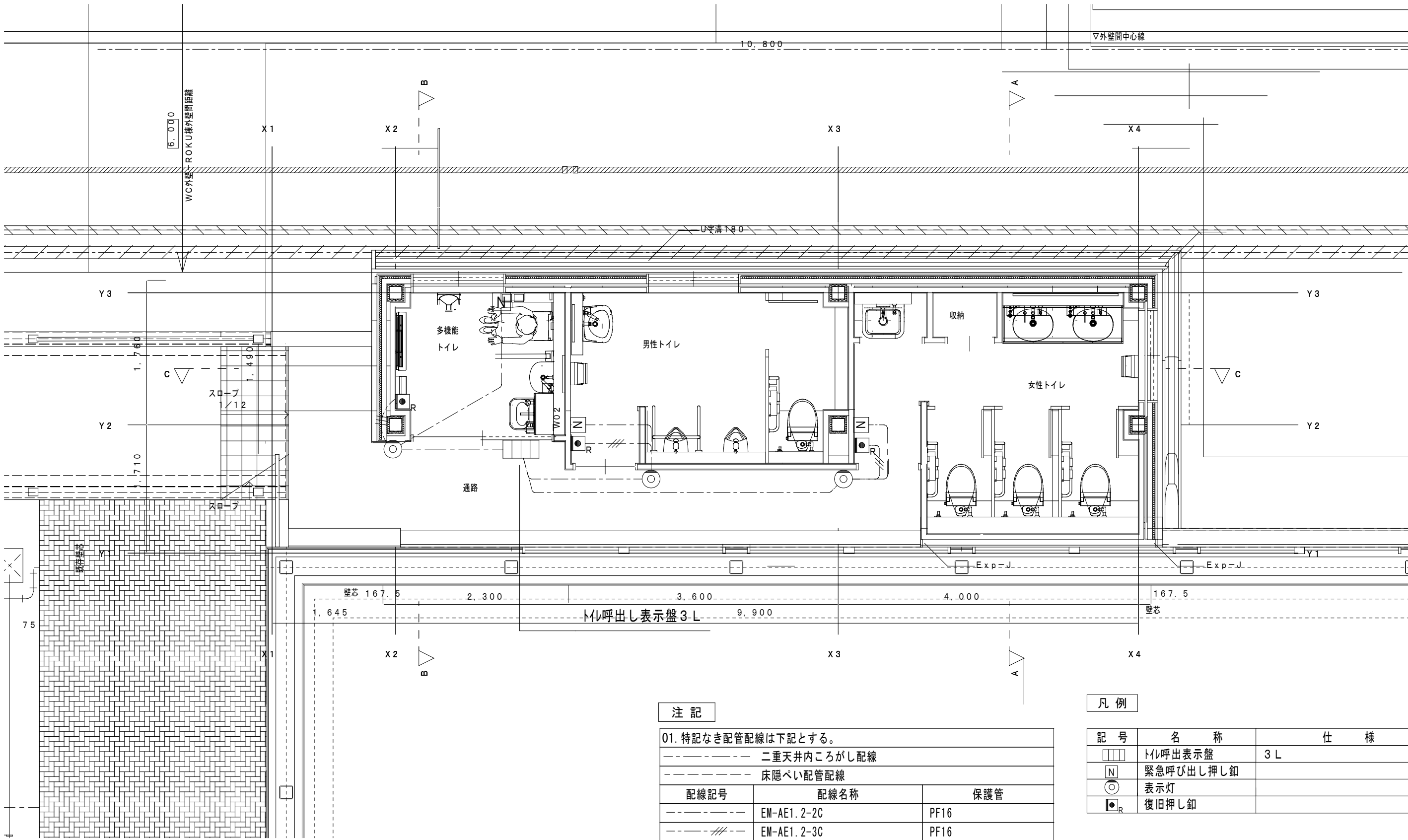


注 記

01. 特記なき配管配線は下記とする。		
----- 二重天井内ころがし配線		
----- 床隠蔽配線		
配線記号	配線名称	保護管
—//—	EM-EEF2.0mm-2C	PF22
—//\—	EM-EEF2.0mm-3C(1E)	PF22
— —//\—	EM-IE2.0×2・E2.0	PF16

凡 例

シンボル	名称
	別図 各盤単線結線図 参照
	埋込コンセント 2P15Ax1ET付
	埋込コンセント 2P15Ax2、キー付き防水カバー付



注 記

01. 特記なき配管配線は下記とする。		
----- 二重天井内ころがし配線		
----- 床隠ぺい配管配線		
配線記号	配線名称	保護管
-----	EM-AE1.2-2C	PF16
-----	EM-AE1.2-3C	PF16

凡 例

記 号	名 称	仕 様
□□□	トイレ呼出表示盤	3 L
N	緊急呼び出し押し釦	
◎	表示灯	
◼R	復旧押し釦	

注記) 2. 配線取外しに際しては、既設接続を外すことなく配線移動すること。

[illegible]